

目 次

I. 2025年度 学年暦	1
II. 授業科目一覧	
1. 2023～2025年度入学生用	3
2. 2022年度入学生用	6
III. 理念、3つのポリシーと教育目標	
1. 理念	9
2. 教育目標	10

授業概要

[1年次]

1. 基礎教養分野

人間の理解

コミュニケーション・人間関係論	20
情報科学	21
文化人類学	22
ナラティブ表現法	23
医療人文学	24
哲学	25
心理学	26
倫理学	27
音楽鑑賞	28

外国語

English I (日常会話－初級)	29
English II (日常会話－中級)	30
中国語 I (日常会話－初級)	31
中国語 II (日常会話－中級)	32

人間と環境

家族社会学	33
社会福祉学	34
社会学	35
経済学	36
国際理解と国際貢献	37
南房総の歴史と未来	38
ホスピタルアート	39

人間と健康

化学	40
生物学	41
物理学	42
体育	43
身体活動論	44

ゼミナール	
基礎ゼミナールⅠ	45
基礎ゼミナールⅡ	46
2. 専門基礎分野	
生命科学	
発達心理学	47
人間機能学(形態と機能)	48
3. 看護専門分野	
基礎看護学	
看護学概論	49
基礎看護技術論	50
日常生活援助論	51
基礎看護学臨地実習Ⅰ	52
看護の統合と実践	
地域の健康と看護	53
地域包括ケアシステム論	54

[2年次]

1. 基礎教養分野	
人間の理解	
オルタナティブセラピー	58
外国語	
EnglishⅢ(日常会話—一般)	59
看護英語	60
人間と環境	
日本国憲法	61
人間と健康	
統計学	62
ゼミナール	
基礎ゼミナールⅢ	63
2. 専門基礎分野	
生命科学	
疫学Ⅰ(基礎)	64
疫学Ⅱ(応用)	65
保健統計Ⅰ(基礎)	66
保健統計Ⅱ(応用)	67
健康支援と社会保障制度	68
人間病態学Ⅰ	69
人間病態学Ⅱ	70
栄養・生化学	71
臨床薬理学Ⅰ(基礎)	72
公衆衛生学	73
3. 看護専門分野	
基礎看護学	
医療安全	74
治療援助論	75

看護展開論Ⅰ(ナースングプロセス)	76
看護展開論Ⅱ(ヘルスアセスメント)	77
基礎看護学臨地実習Ⅱ	78
実践看護学	
成人看護学概論	79
慢性期成人看護援助論	80
高齢者看護学概論	81
精神保健看護学概論	82
精神保健看護援助論	83
在宅看護学	84
ウィメンズヘルス看護学概論	85
小児保健看護学概論	86
看護の統合と実践	
公衆衛生看護とヘルスプロモーション	87
看護教育	88
看護と法律	89
公衆衛生看護学	
学校保健活動論	90

[3年次]

1. 基礎教養分野	
スピリチュアリティ	94
外国語	
原著論文講読(英語)	95
2. 専門基礎分野	
生命科学	
保健医療福祉行政論	96
臨床薬理学Ⅱ(応用)	97
3. 看護専門分野	
実践看護学	
急性期成人看護援助論	98
高齢者看護援助論	99
エンドオブライフ看護学	100
成人看護学臨地実習Ⅰ(慢性期)	101
成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)	102
高齢者看護学臨地実習Ⅰ	103
高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	104
精神保健看護学臨地実習	105
在宅看護学臨地実習	106
地域看護学臨地実習	107
周産期看護援助論	108
ウィメンズヘルス看護学臨地実習	109
小児保健看護援助論	110
小児保健看護学臨地実習	111
看護の統合と実践	
国際看護学Ⅰ	112

看護研究	113
災害看護学	114
公衆衛生看護学	
公衆衛生看護支援技術Ⅰ（個人・家族）	115
公衆衛生看護支援技術Ⅱ（集団・組織）	116
公衆衛生看護支援技術演習	117

[4年次]

1. 基礎教養分野

外国語

論文の書き方（英語）	122
------------	-----

人間と健康

東洋医学	123
予防と治療の遺伝学	124

2. 看護専門分野

看護の統合と実践

国際看護学Ⅱ	125
チーム医療と看護システム	126
生涯教育論	127
看護倫理学	128
看護の統合と実践臨地実習Ⅰ（医療安全と感染看護学）	129
看護の統合と実践臨地実習Ⅱ（チーム医療・地域包括ケアシステム）	129
研究ゼミナールⅠ	131
研究ゼミナールⅡ	132

公衆衛生看護学

産業保健活動論	133
公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	134
公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	135
公衆衛生看護活動展開論演習	136
公衆衛生看護管理論	137
公衆衛生看護学実習Ⅰ	138
公衆衛生看護学実習Ⅱ	139

I. 2025年度 学年曆

事 項		期 日	
		1 年 生	2 年 生
入 学 式		4 月 7 日 (月)	—
前 期	ガイダンス	4 月 8 日 (火) ・ 9 日 (水)	4 月 8 日 (火)
	授業開始	4 月 10 日 (木)	4 月 9 日 (水)
	履修登録・確認期間	4 月 10 日 (木) ～ 4 月 23 日 (水)	4 月 9 日 (水) ～ 4 月 22 日 (火)
	開学記念日	5 月 2 日 (金)	
	前期定期試験	7 月 22 日 (火) ・ 23 日 (水) ・ 24 日 (木)	
	夏期休業	自 8 月 9 日 (土) 至 9 月 30 日 (火)	自 8 月 9 日 (土) 至 9 月 15 日 (月)
	前期終了	9 月 30 日 (火)	9 月 15 日 (月)
後 期	後期授業開始	10 月 1 日 (水)	9 月 16 日 (火)
	履修確認・修正期間	10 月 1 日 (水) ～ 10 月 7 日 (火)	10 月 14 日 (火) ～ 10 月 20 日 (月)
	大学祭	10 月 25 日 (土)	
	冬期休業	自 12 月 20 日 (土) 至 1 月 4 日 (日)	
	後期定期試験	2 月 3 日 (月) ・ 4 日 (火) ・ 5 日 (水)	
	春期休業	自 2 月 28 日 (土) 至 3 月 31 日 (火)	自 2 月 14 日 (土) 至 3 月 31 日 (火)

実習期間 ◎1年生 基礎看護学臨地実習Ⅰ 1グループ 2月16日(月)～2月20日(金)
2グループ 2月24日(火)～2月27日(金)
◎2年生 基礎看護学臨地実習Ⅱ 1グループ 9月16日(火)～9月26日(金)
2グループ 9月29日(月)～10月10日(金)

事 項		期 日	
		3 年 生	4 年 生
入 学 式		—	—
前 期	ガイダンス	4 月 8 日 (火)	
	授業開始	4 月 9 日 (水)	
	履修登録・確認期間	4 月 9 日 (水)～4 月 22 日 (火)	
	開学記念日	5 月 2 日 (金)	
	前期定期試験	7 月 22 日 (火)・23 日 (水)・24 日 (木)	
	夏期休業	自 8 月 9 日 (土) 至 8 月 31 日 (日)	自 8 月 9 日 (土) 至 9 月 30 日 (火)
	前期終了	8 月 31 日 (日)	9 月 30 日 (火)
後 期	後期授業開始	9 月 1 日 (月)	10 月 1 日 (水)
	履修確認・修正期間	—	—
	大学祭	10 月 25 日 (土)	
	冬期休業	自 12 月 20 日 (土) 至 1 月 4 日 (日)	自 12 月 20 日 (土) 至 1 月 4 日 (日)
	後期定期試験	—	—
	春期休業	自 2 月 28 日 (土) 至 3 月 31 日 (火)	—
	国際看護学 (海外演習)	—	(仮) 9 月 1 日 (月)～ 9 月 30 日 (火) の間
学位記授与式		—	3 月 5 日 (木)

実習期間	◎3年生	領域別実習	9月1日(月)～2月27日(金)
	◎4年生	看護の統合と実践臨地実習Ⅰ・Ⅱ	6月2日(月)～7月18日(金)
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	6月9日(月)～6月27日(金)
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	10月6日(月)～10月24日(金)

Ⅱ．授業科目一覧

1．2023～2025年度入学生用

★保健師教育課程必修科目 ☆養護教諭二種必修科目

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業形態			年次区分(時間数)							
				必修	選択		講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次	
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎 教 養 分 野	人 間 の 理 解	コミュニケーション・人間関係論	1	1				○		30							
		情報科学 ☆	1	1				○		30							
		文化人類学	1	1			○				15						
		ナラティブ表現法	1	1		選択		○			30						
		医療人文学	1		1	4単位	○			15							
		哲学	1		1	以上	○				15						
		心理学	1		1		○				15						
		倫理学	1		1		○				15						
		音楽鑑賞	1		1			○			30						
		オルタナティブセラピー	2		1			○				30					
		スピリチュアリティ	3		1		○							15			
	外 国 語	English I (日常会話－初級) ☆	1	2				○		60							
		English II (日常会話－中級)	1	2				○			60						
		中国語 I (日常会話－初級)	1		1	選択		○		30							
		中国語 II (日常会話－中級)	1		1	2単位		○			30						
		English III (日常会話－一般)	2		1	以上		○					30				
		看護英語	2		1			○				30					
		論文の書き方(英語)	4		1			○								30	
		原著論文講読(英語)	3		1			○						30			
	人 間 と 環 境	家族社会学	1	1				○			15						
		社会福祉学	1		1			○			15						
		社会学	1		1	選択		○		15							
		経済学	1		1	1単位		○		15							
		国際理解と国際貢献	1	1		以上		○		30							
		南房総の歴史と未来	1		1			○			15						
		ホスピタルアート	1		1			○	○	30							
		日本国憲法 ☆	2		2			○				30					
		人 間 と 健 康	化学	1	1				○		○	30					
	統計学 ☆		2		1			○	○				30				
	生物学		1	1		選択		○		30							
	物理学		1		1	2単位		○		○	30						
	体育 ☆		1		1	以上				○	30						
	身体活動論 ☆		1		1			○			15						
	東洋医学		4		1				○								30
	予防と治療の遺伝学		4		1			○									15
	ゼ ミ ナ ー ル		基礎ゼミナールⅠ	1	1				○		30						
		基礎ゼミナールⅡ	1	1				○			30						
		基礎ゼミナールⅢ	2	1				○				30					
	単位小計				15	26	24単位以上										

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考	授業形態			年次区分(時間数)							
				必修	選択					1年次		2年次		3年次		4年次	
							講義	演習	実験実習	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎分野	生命科学	発達心理学	1	2			○				30						
		疫学Ⅰ(基礎)★	2	1			○						15				
		疫学Ⅱ(応用)★	2		1		○						15				
		保健統計Ⅰ(基礎)★	2	1			○						15				
		保健統計Ⅱ(応用)★	2		1		○						15				
		健康支援と社会保障制度★	2	2			○					30					
		保健医療福祉行政論★	3		2		○						30				
		人間機能学(形態と機能)	1	4			○				60						
		人間病態学Ⅰ	2	3			○	○				60					
		人間病態学Ⅱ	2	4			○					60					
		栄養・生化学	2	2			○						30				
		臨床薬理学Ⅰ(基礎)	2	2			○						30				
		臨床薬理学Ⅱ(応用)	3		1			○						15			
	公衆衛生学★	2	1			○						15					
単位小計			22	5	22単位												
看護専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	2			○			30							
		基礎看護技術論	1	1			○				15						
		日常生活援助論	1	2				○			60						
		医療安全	2	1			○					15					
		治療援助論	2	1				○				30					
		看護展開論Ⅰ(ナースングプロセス)	2	2			○					30					
		看護展開論Ⅱ(ヘルスアセスメント)	2	2				○				60					
		基礎看護学臨地実習Ⅰ	1	1					○		45						
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	2	2					○				90				
	実践看護学	成人看護学概論	2	2			○					30					
		慢性期成人看護援助論	2	2				○					60				
		急性期成人看護援助論	3	2				○						60			
		高齢者看護学概論	2	2			○						30				
		高齢者看護援助論	3	2				○						60			
		精神保健看護学概論	2	2			○					30					
		精神保健看護援助論	2	2				○					60				
		在宅看護学	2	3			○	○					60				
		エンドオブライフ看護学	3	1			○							15			
		成人看護学臨地実習Ⅰ(慢性期)	3	3					○						135		
		成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)	3	3					○						135		
		高齢者看護学臨地実習Ⅰ	3	1					○						45		
		高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	3	3					○						135		
		精神保健看護学臨地実習	3	2					○						90		
		在宅看護学臨地実習	3	2					○						90		
		地域看護学臨地実習	3	2					○						90		
		ウィメンズヘルス看護学概論	2	2			○						30				
		周産期看護援助論	3	2				○						60			
		ウィメンズヘルス看護学臨地実習	3	2					○						90		
小児保健看護学概論	2	2			○						30						
小児保健看護援助論	3	2				○						60					
小児保健看護学臨地実習	3	2					○						90				

看護専門分野	看護の統合と実践	地域の健康と看護 ★	1	1			○			15						
		公衆衛生看護とヘルスプロモーション ★	2	1			○					15				
		国際看護学Ⅰ	3	2			○						15			
		国際看護学Ⅱ	4		1			○							30	
		地域包括ケアシステム論	1	2			○			30						
		チーム医療と看護システム	4	2			○								30	
		看護教育	2	1			○					15				
		生涯教育論	4		1		○									15
		看護と法律	2	1			○					15				
		看護研究	3	2			○						30			
		看護倫理学	4	2			○								30	
		災害看護学 ★	3	1				○					30			
		看護の統合と実践臨床実習Ⅰ(医療安全と感染看護学)	4	1					○						45	
		看護の統合と実践臨床実習Ⅱ(チーム医療・地域包括ケアシステム)	4	3					○						135	
		研究ゼミナールⅠ	4	1				○							30	
研究ゼミナールⅡ	4	1				○								30		
看護専門分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護支援技術Ⅰ(個人・家族) ★	3		2		○					30				
		公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織) ★	3		1		○					15				
		公衆衛生看護支援技術演習 ★	3		1			○					30			
		学校保健活動論 ★	2		1		○				15					
		産業保健活動論 ★	4		1		○								15	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ ★	4		2		○							30		
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ ★	4		2		○							30		
		公衆衛生看護活動展開論演習 ★	4		2			○						60		
		公衆衛生看護管理論 ★	4		1		○							15		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ ★	4		3				○					135		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ ★	4		2				○						90	
	単位小計		81	20												
合 計		—	118	51												

基礎教養分野24単位以上

(必修15単位、選択：人間の理解から4単位以上、外国語から2単位以上、人間と環境から1単位以上、人間と健康から2単位以上の計9単位以上)

専門基礎分野 22単位

看護専門分野 81単位

■各学年配当単位数(選択科目は最大取得単位数)

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
2023～2025年度入学生	29	15	45	9	34	9	10	18
合 計	44		54		43		28	

2. 2022年度入学生用

★保健師教育課程必修科目 ☆養護教諭二種必修科目

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業形態			年次区分(時間数)							
				必修	選択		講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次	
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎 教養 分野	人間の 理解	コミュニケーション・人間関係論	1	1		選択		○		30							
		情報科学 ☆	1	1				○		30							
		文化人類学	1	1			○				15						
		ナラティブ表現法	1	1		選択		○			30						
		医療人文学	1		1	4単位	○			15							
		哲学	1		1	以上	○				15						
		心理学	1		1		○				15						
		倫理学	1		1		○				15						
		音楽鑑賞	1		1			○			30						
		オルタナティブセラピー	2		1			○				30					
		スピリチュアリティ	3		1			○						15			
	外国 語	English I (日常会話－初級) ☆	1	2		選択		○		60							
		English II (日常会話－中級)	1	2				○			60						
		中国語 I (日常会話－初級)	1		1	選択		○		30							
		中国語 II (日常会話－中級)	1		1	2単位		○			30						
		English III (日常会話－一般)	2		1	以上		○					30				
		看護英語	2		1			○				30					
		論文の書き方(英語)	4		1			○								30	
		原著論文講読(英語)	3		1			○						30			
	人間と 環境	家族社会学	1	1				○				15					
		社会福祉学	1		1			○				15					
		社会学	1		1	選択		○			15						
		経済学	1		1	1単位		○			15						
		国際理解と国際貢献	1	1		以上		○			30						
		南房総の歴史と未来	1		1			○				15					
		ホスピタルアート	1		1			○	○		30						
		日本国憲法 ☆	2		2			○					30				
	人間と 健康	化学	1	1		選択		○		○		30					
		統計学 ☆	2		1			○	○					30			
		生物学	1	1		選択			○		30						
		物理学	1		1	2単位		○		○	30						
		体育 ☆	1		1	以上				○	30						
		身体活動論 ☆	1		1			○				15					
		東洋医学	4		1				○								30
		予防と治療の遺伝学	4		1				○								15
	ゼミ ナール	基礎ゼミナールⅠ	1	1					○		30						
		基礎ゼミナールⅡ	1	1					○			30					
		基礎ゼミナールⅢ	2	1					○				30				
	単位小計			15	26	24単位以上											

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考	授業形態			年次区分(時間数)							
				必修	選択					1年次		2年次		3年次		4年次	
							講義	演習	実験実習	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎分野	生命科学	発達心理学	1	2			○				30						
		疫学Ⅰ(基礎)★	2	1			○						15				
		疫学Ⅱ(応用)★	2		1		○						15				
		保健統計Ⅰ(基礎)★	2	1			○						15				
		保健統計Ⅱ(応用)★	2		1		○						15				
		健康支援と社会保障制度★	2	2			○					30					
		保健医療福祉行政論★	3		2		○						30				
		人間機能学(形態と機能)	1	4			○				60						
		人間病態学Ⅰ	2	3			○	○				60					
		人間病態学Ⅱ	2	4			○					60					
		栄養・生化学	2	2			○						30				
		臨床薬理学Ⅰ(基礎)	2	2			○						30				
		臨床薬理学Ⅱ(応用)	3		1			○						15			
	公衆衛生学★	2	1			○						15					
単位小計			22	5	22単位												
看護専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	2			○			30							
		基礎看護技術論	1	1			○				15						
		日常生活援助論	1	2				○			60						
		医療安全	2	1			○					15					
		治療援助論	2	1				○				30					
		看護展開論Ⅰ(ナースングプロセス)	2	2			○					30					
		看護展開論Ⅱ(ヘルスアセスメント)	2	2				○				60					
		基礎看護学臨地実習Ⅰ	1	1					○		45						
		基礎看護学臨地実習Ⅱ	2	2					○				90				
	実践看護学	成人看護学概論	2	2			○					30					
		慢性期成人看護援助論	2	2				○					60				
		急性期成人看護援助論	3	2				○						60			
		高齢者看護学概論	2	2			○						30				
		高齢者看護援助論	3	2				○						60			
		精神保健看護学概論	2	2			○					30					
		精神保健看護援助論	2	2				○					60				
		在宅看護学	2	3			○	○					60				
		エンドオブライフ看護学	3	1			○							15			
		成人看護学臨地実習Ⅰ(慢性期)	3	3					○						135		
		成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)	3	3					○						135		
		高齢者看護学臨地実習Ⅰ	3	1					○						45		
		高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	3	3					○						135		
		精神保健看護学臨地実習	3	2					○						90		
		在宅看護学臨地実習	3	2					○						90		
		地域看護学臨地実習	3	2					○						90		
		ウィメンズヘルス看護学概論	2	2			○						30				
		周産期看護援助論	3	2				○						60			
ウィメンズヘルス看護学臨地実習	3	2					○						90				
小児保健看護学概論	2	2			○						30						
小児保健看護援助論	3	2				○						60					
小児保健看護学臨地実習	3	2					○						90				

看護専門分野	看護の統合と実践	地域の健康と看護 ★	1	1			○			15						
		公衆衛生看護とヘルスプロモーション ★	2	1			○					15				
		国際看護学Ⅰ	3	1			○						15			
		国際看護学Ⅱ	4	1				○							30	
		地域包括ケアシステム論	1	2			○			30						
		チーム医療と看護システム	4	2			○								30	
		看護教育	2	1			○					15				
		生涯教育論	4		1		○									15
		看護と法律	2	1			○					15				
		看護研究	3	2			○						30			
		看護倫理学	4	2			○								30	
		災害看護学 ★	3	1				○					30			
		看護の統合と実践臨床実習Ⅰ(医療安全と感染看護学)	4	1					○						45	
		看護の統合と実践臨床実習Ⅱ(チーム医療・地域包括ケアシステム)	4	3					○						135	
		研究ゼミナールⅠ	4	1				○							30	
研究ゼミナールⅡ	4	1				○								30		
看護専門分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護支援技術Ⅰ(個人・家族) ★	3		2		○					30				
		公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織) ★	3		1		○					15				
		公衆衛生看護支援技術演習 ★	3		1			○					30			
		学校保健活動論 ★	2		1		○				15					
		産業保健活動論 ★	4		1		○								15	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ ★	4		2		○							30		
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ ★	4		2		○							30		
		公衆衛生看護活動展開論演習 ★	4		2			○						60		
		公衆衛生看護管理論 ★	4		1		○							15		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ ★	4		3				○					135		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ ★	4		2				○						90	
	単位小計		81	19												
合 計		—	118	50												

基礎教養分野24単位以上

(必修15単位、選択：人間の理解から4単位以上、外国語から2単位以上、人間と環境から1単位以上、人間と健康から2単位以上の計9単位以上)

専門基礎分野 22単位

看護専門分野 81単位

■各学年配当単位数(選択科目は最大取得単位数)

	1 年生		2 年生		3 年生		4 年生	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
2022年度入学生	29	15	45	9	33	9	11	17
合 計	44		54		42		28	

Ⅲ．理念、3つのポリシーと教育目標

1．理 念

理 念

本学は、「HEART」に集約された特性をもつ教養豊かな医療人を輩出します。

H : Humanity
E : Empowerment
A : Autonomy
R : Reason
T : Team

学生が人間への愛と尊厳(Humanity)を持って人をケアするために、その人に内在する能力(Empowerment)を高め、学生自ら律する心(Autonomy)を持ち、高い専門性を追求すると共に、ケアを必要とする人々の複雑な問題に対して理性(Reason)を持って考え、チームケア(Team)の推進役として活躍できることを目指します。

ディプロマ・ポリシー

本学では、所定の年限を在学し、看護学部看護学科が定める基礎教養分野及び、専門分野に関する科目に合格し、所定の単位を修得した以下の要件を満たす人に学士(看護学)の学位を授与します。

1. 人間への深い理解と高い倫理観を持ちに、援助的な人間関係を築き、対象の主体性を尊重した看護を実践できる。
2. 対象がもっている潜在的な力を最大限に引き出し、健康レベルの向上と成長・成熟を促すことができる。さらに対象が置かれている環境(文化・社会・風土)に応じたケアを提供できる。
3. 看護専門職に相応しい的確な判断力に基づいて行動できるとともに、生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢を持つことができる。
4. あらゆる場面において、対象の健康課題について科学的根拠に基づく知識・技術・態度をもって看護を実践できる。
5. さまざまな健康課題について、保健医療福祉チームの一員として、看護職の役割と責任を果たすことができる。
6. 国際社会の一員であるという自覚と、意欲をもって行動することができる。

カリキュラム・ポリシー

本学では「Heart」に理念に基づき教養豊かな社会人・医療人としての看護師を育てるカリキュラムを実施します。各科目の編成は、あらゆる対象に向けた包括的看護実践能力を育むために、ディプロマ・ポリシーで示す目標の達成を目指し基礎教養分野、専門基礎分野、看護専門分野で構成しています。

1. 看護師として課題探究能力や幅広い一般教養を兼ね備えた人材を育成するために、1年次には基礎教養分野での科目を多く配置し、汎用的技能や態度・指向性を高めるためのゼミナール学習を含んだ科目を配置しています。
2. 看護職として必要な人体にかかわる知識を土台に、思考・判断を深められるように、専門基礎分野を配置しています。

3. 看護における専門的知識・技術を習得するため、看護専門分野を設定し、対象の健康レベルや生活の場に合わせた看護を段階的に学べるよう科目を配置しています。また、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を果たすために、チーム医療、地域包括ケアに関する実践力を強化できるよう、4年次の看護の統合と実践臨地実習(チーム医療、地域包括ケアシステム)を配置しています。
4. 1年次からの外国語及び、他の関連科目を連動する内容で編成し、4年次には海外研修として学生の選択による研修国で、文化的背景の異なる多様な人々との交流や支援システムの見学を通して、国際的視野をもてるよう、科目を配置しています。また、根拠に基づいた看護実践能力の強化を図り、研究的な能力培うための看護研究、研究ゼミを配置しています。

アドミッション・ポリシー

本学では、多様な専門職との協働により、看護の対象となる人々に包括的な看護実践を提供する能力を有する人材を育成します。そのため、入学生には次のような資質を求めます。従って、基礎的な学力と対人関係を重視した選抜を行います。

1. 人間の尊厳を守り、人々の多様性を理解できる人
2. 相手を思いやり、豊かな人間関係を築ける人
3. 物事への関心と科学的な探究心を持てる人
4. 看護に深い関心を寄せ、主体的に能力を身につけられる人

2. 教育目標

7つの実践力

本学部の教育課程を修了する学生は、卒業時までには右図に示されている必須要素Ⅰ～Ⅶの能力と看護師としての役割遂行に必要な知識・技術・態度を修得していきます。卒業時には、Ⅰ～Ⅵの必須要素が統合され、必須要素Ⅶの包括的な看護を実践できることを目指します。また、必須要素Ⅰ～Ⅶの必須要素は、看護の実践の能力として評価していきます。本学部の教育課程のカリキュラムは、教育目標である必須要素Ⅰ～Ⅶと関連し、授業科目として構成されています。

Ⅰ 教養教育で培う普遍的基礎能力

人間への深い理解と高い倫理観を基に、援助的な人間関係を築くために必要なヒューマンケアリングの基本的な実践能力である。対象の主体性を尊重した看護を実践するために必要な汎用的技術としてのコミュニケーション・人間関係スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力など、また、医療工学やコンピューターなどを理解する包括的な能力である。

Ⅱ 根拠に基づいた看護実践能力

あらゆる対象の健康課題について科学的根拠に基づく知識・技術・態度をもって看護を実践できる能力である。看護の対象理解に必要な基本的知識を基に、看護アセスメントを通して対象を包括的に理解し、根拠に基づいた看護を実践する能力である。

Ⅲ チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力

保健医療福祉チームの一員として、効果的なコミュニケーションによりコラボレーションを図ることで、看護の対象の安全を重視した看護を提供できる能力である。また、看護職の役割と責任を果たすためにチームにおけるリーダーシップ及びメンバーシップを発揮する能力である。

Ⅳ ヘルスプロモーションと予防の実践能力

対象がもっている潜在的な力を最大限に引き出し、健康レベルの向上と成長・成熟を促すために、指導と教育を実践する能力である。また、対象が置かれている地域環境(文化・社会・風土)に応じたケアを提供できる能力である。

Ⅴ 国際的視野と地域貢献能力

国際社会の一員であるという自覚をもって、地域の人々の健康の保持と増進に対して貢献できる能力である。

Ⅵ 継続的に専門性を向上させる実践能力

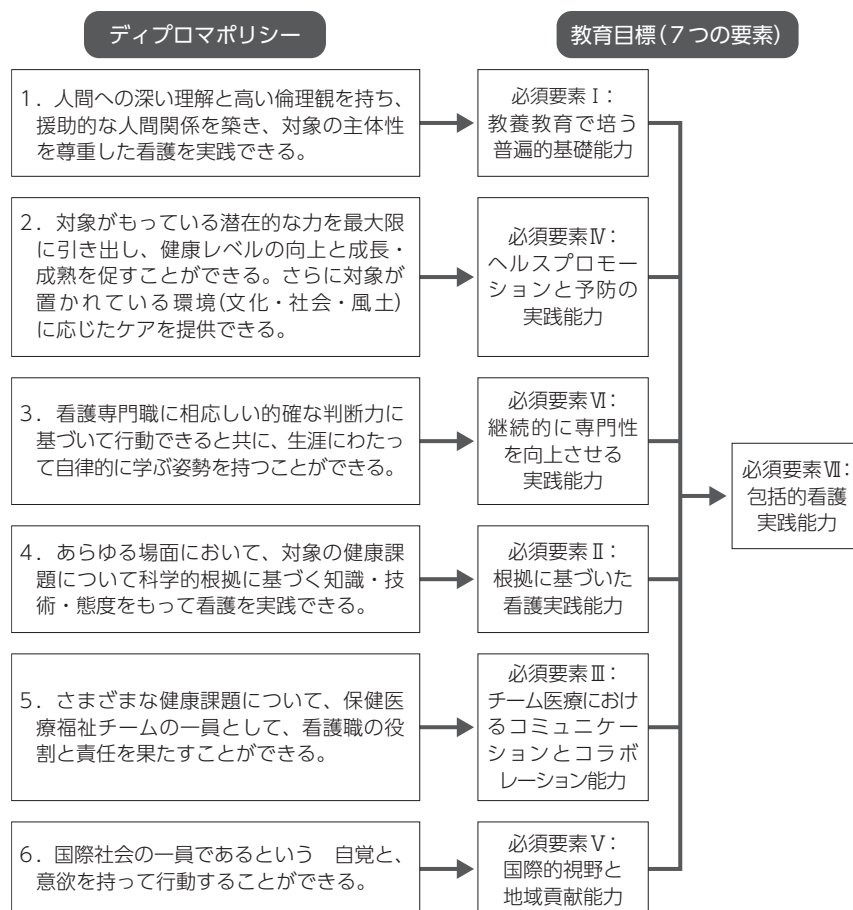
看護専門職に相応しい確かな判断力に基づいて行動でき、生涯にわたって自律的に学ぶ姿勢をもつことができる能力である。

Ⅶ 包括的看護実践能力

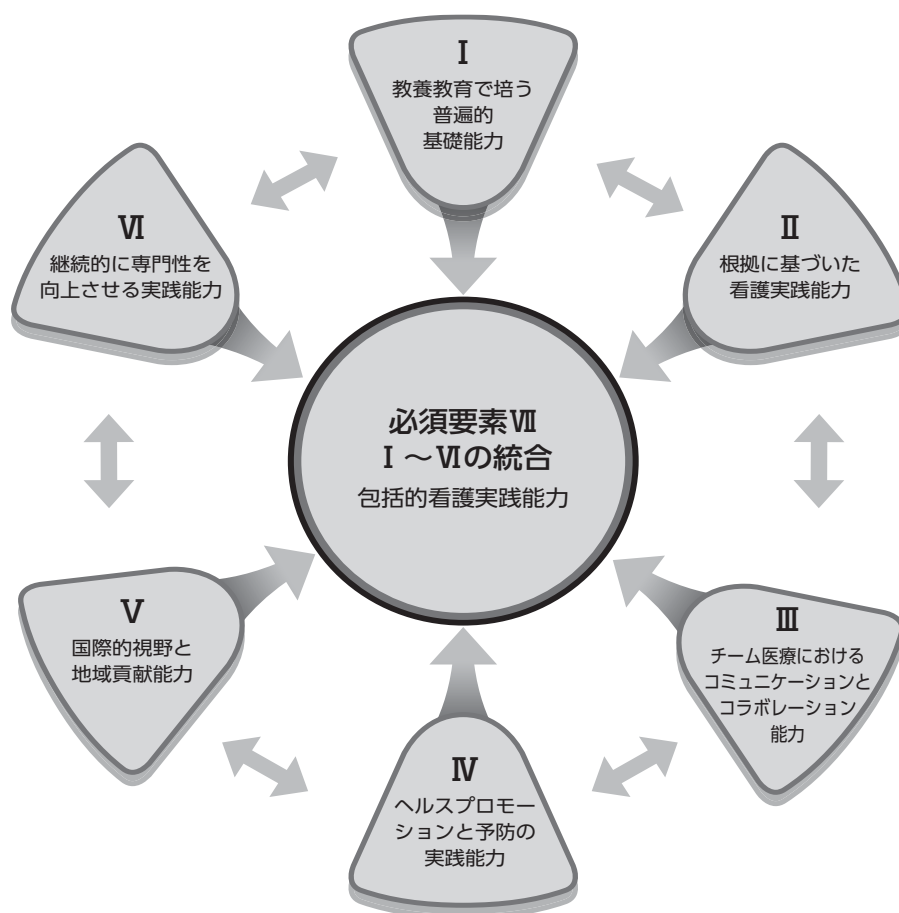
あらゆる発達段階にある個人、家族、集団、そしてコミュニティを対象にして、さまざまな健康状態(健康な状態、急激な健康破綻の状態、慢性期な健康障害の状態など)にある対象に対して看護を実践する能力である。必須要素ⅠからⅥに含まれる専門職者に必要な知識、技術、態度、倫理観を統合し、包括的なケアを提供する能力である。

* 本学では上記教育目標を達成するために、学習者自身が自ら能動的に学ぶアクティブラーニングを取り入れて授業を実施する科目があります。

ディプロマポリシーと教育目標(7つの必須要素)の関連



学修の成果(到達目標)である7つの必須要素と相互関係



- ➡ この印は、IからⅥまでの必須要素が統合されて必須要素Ⅶとなることを示しています。
- ↔ この印は、各必須要素が他の必須要素と相互関係を持っていることを示しています。

表1 履修モデル

2023～2025年度入学生用

亀田医療大学の特色と学士課程で身に付けるべき学修成果を可視化した履修モデル

計127単位以上 学修成果:卒業時到達目標の修得

本学の特色と
授業科目の関係

国際的視野の育成と地域貢献

優れた実践能力の育成

幅広い教養

4 年次

必修.....

- 看護専門分野
 - チーム医療と看護システム
 - 看護倫理学
 - 研究ゼミナールⅠ
 - 研究ゼミナールⅡ

臨地実習科目

- 看護専門分野
 - 看護の統合と実践臨地実習Ⅰ (医療安全と感染看護学)
 - 看護の統合と実践臨地実習Ⅱ (チーム医療・地域包括ケアシステム)

選択.....

- 基礎教養分野
 - 論文の書き方
 - 東洋医学
 - 予防と治療の遺伝学
- 看護専門分野
 - 産業保健活動論
 - 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ
 - 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ
 - 公衆衛生看護活動展開論演習
 - 公衆衛生看護管理論
 - 公衆衛生看護学実習Ⅰ
 - 公衆衛生看護学実習Ⅱ
 - 国際看護学Ⅱ 生涯教育論

3 年次

必修.....

- 看護専門分野
 - 急性期成人看護援助論
 - 高齢者看護援助論
 - 精神保健看護援助論
 - エンドオブライフ看護学
 - 周産期看護援助論
 - 小児保健看護援助論
 - 国際看護学Ⅰ 看護研究
 - 災害看護学

臨地実習科目

- 看護専門分野
 - 成人看護学臨地実習Ⅰ (慢性期)
 - 成人看護学臨地実習Ⅱ (急性期)
 - 高齢者看護学臨地実習Ⅰ
 - 高齢者看護学臨地実習Ⅱ (リハビリ期)
 - 在宅看護学臨地実習
 - 地域看護学臨地実習
 - 精神保健看護学臨地実習
 - ウイメンズヘルス看護学臨地実習
 - 小児保健看護学臨地実習

選択.....

- 基礎教養分野
 - 原著論文講読 (英語)
 - スピリチュアリティ
- 専門基礎分野
 - 保健医療福祉行政論
 - 臨床薬理学Ⅱ (応用)
- 看護専門分野
 - 公衆衛生看護支援技術Ⅰ (個人・家族)
 - 公衆衛生看護支援技術Ⅱ (集団・組織)
 - 公衆衛生看護支援技術演習

2 年次

必修.....

- 基礎教養分野
 - 基礎ゼミナールⅢ
- 専門基礎分野
 - 疫学Ⅰ (基礎)
 - 健康支援と社会保障制度
 - 人間病態学Ⅰ 人間病態学Ⅱ
 - 栄養・生化学 臨床薬理学Ⅰ (基礎)
 - 公衆衛生学
- 看護専門分野
 - 治療援助論
 - 看護展開論Ⅰ (ナースィングプロセス)
 - 看護展開論Ⅱ (ヘルスアセスメント)
 - 医療安全

成人看護学概論
慢性期成人看護援助論
高齢者看護学概論
精神保健看護学概論
在宅看護学
ウイメンズヘルス看護学概論
小児保健看護学概論
公衆衛生看護とヘルスプロモーション
看護教育
看護と法律

臨地実習科目

- 看護専門分野
 - 基礎看護学臨地実習Ⅱ

選択.....

- 基礎教養分野
 - オルタナティブセラピー
 - EnglishⅢ (日常会話—一般)
 - 看護英語
 - 統計学
- 専門基礎分野
 - 疫学Ⅱ (応用)
 - 保健統計Ⅱ (応用)
- 看護専門分野
 - 学校保健活動論

1 年次

必修.....

- 基礎教養分野
 - コミュニケーション・人間関係論
 - 情報科学 文化人類学
 - ナラティブ表現法
 - 家族社会学 化学 生物学
 - EnglishⅠ (日常会話—初級)
 - EnglishⅡ (日常会話—中級)
 - 国際理解と国際貢献
 - 基礎ゼミナールⅠ
 - 基礎ゼミナールⅡ
- 専門基礎分野
 - 発達心理学
 - 人間機能学 (形態と機能)

●看護専門分野
看護学概論
基礎看護技術論
日常生活援助論
地域の健康と看護
地域包括ケアシステム論

臨地実習科目

- 看護専門分野
 - 基礎看護学臨地実習Ⅰ

選択.....

- 基礎教養分野
 - 医療人文学
 - 哲学 心理学
 - 倫理学 音楽鑑賞
 - ホスピタリティ
 - 中国語Ⅰ (日常会話—初級)
 - 中国語Ⅱ (日常会話—中級)
 - 社会学 社会福祉学
 - 経済学 物理学 体育
 - 南房総の歴史と未来

必須要素Ⅶ
包括的
看護実践能力

必須要素Ⅵ
継続的に専門性を
向上させる能力

必須要素Ⅴ
国際的視野と
地域貢献能力

必須要素Ⅳ
ヘルスプロモーション
と予防の実践能力

必須要素Ⅲ
チーム医療における
コミュニケーションと
コラボレーション
能力

必須要素Ⅱ
根拠に基づいた
看護実践能力

必須要素Ⅰ
教養教育で培う
普遍的基礎能力

カリキュラムマップ (2023～2025年度入学生版)

1・2・3年生

HART(Humanity, Empowerment, Autonomy, Reason, Team)

Ⅶ. 包括的看護実践能力

I. 教養教育で培う普遍的基礎能力 II. 根拠に基づいた看護実践能力 III. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力 V. 国際的視野と地域貢献能力 VI. 継続的に専門性を向上させる実践能力

基礎教養分野

専門基礎分野

看護専門分野

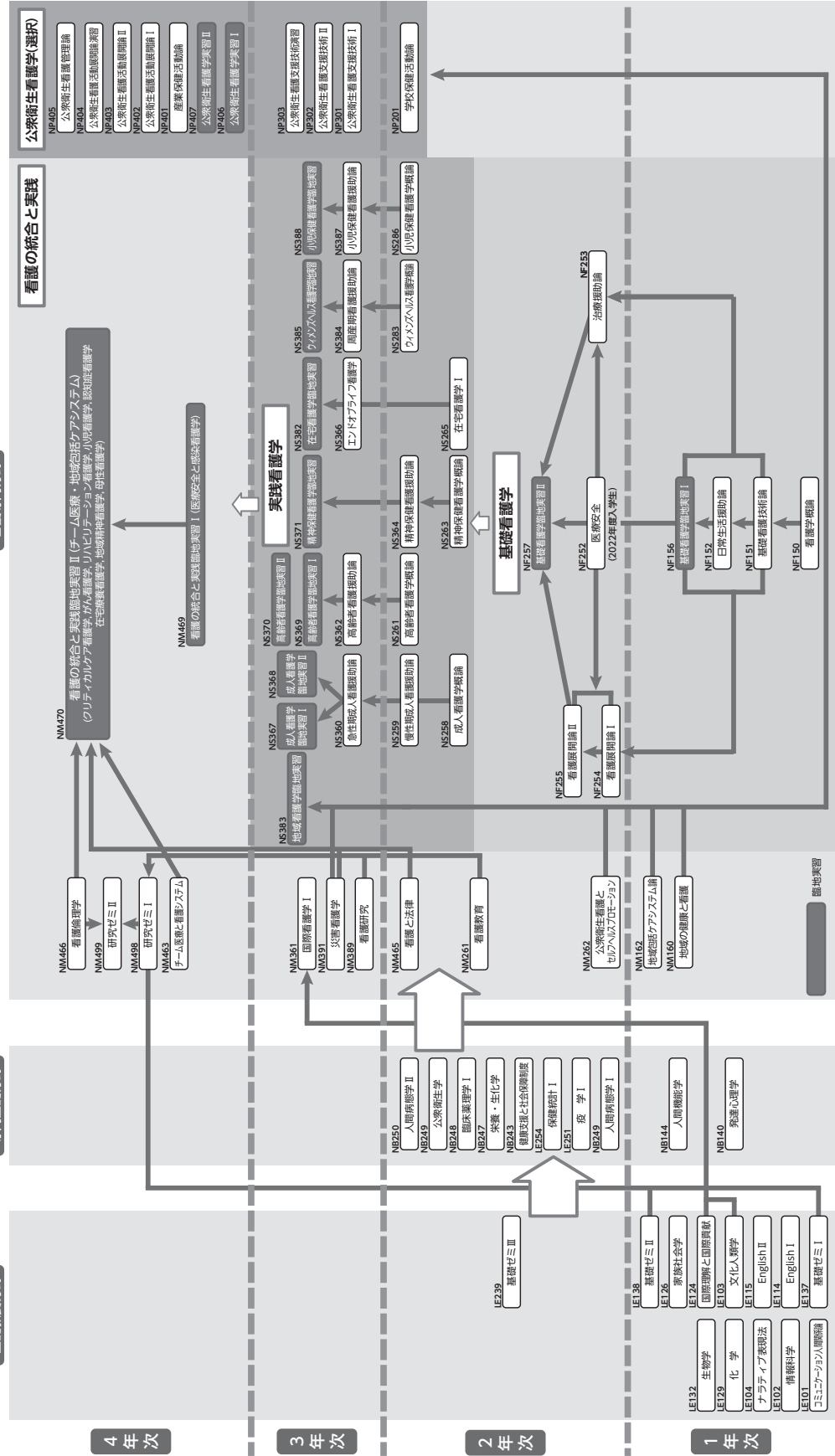


表1 履修モデル

2022年度入学生用

亀田医療大学の特色と学士課程で身に付けるべき学修成果を可視化した履修モデル

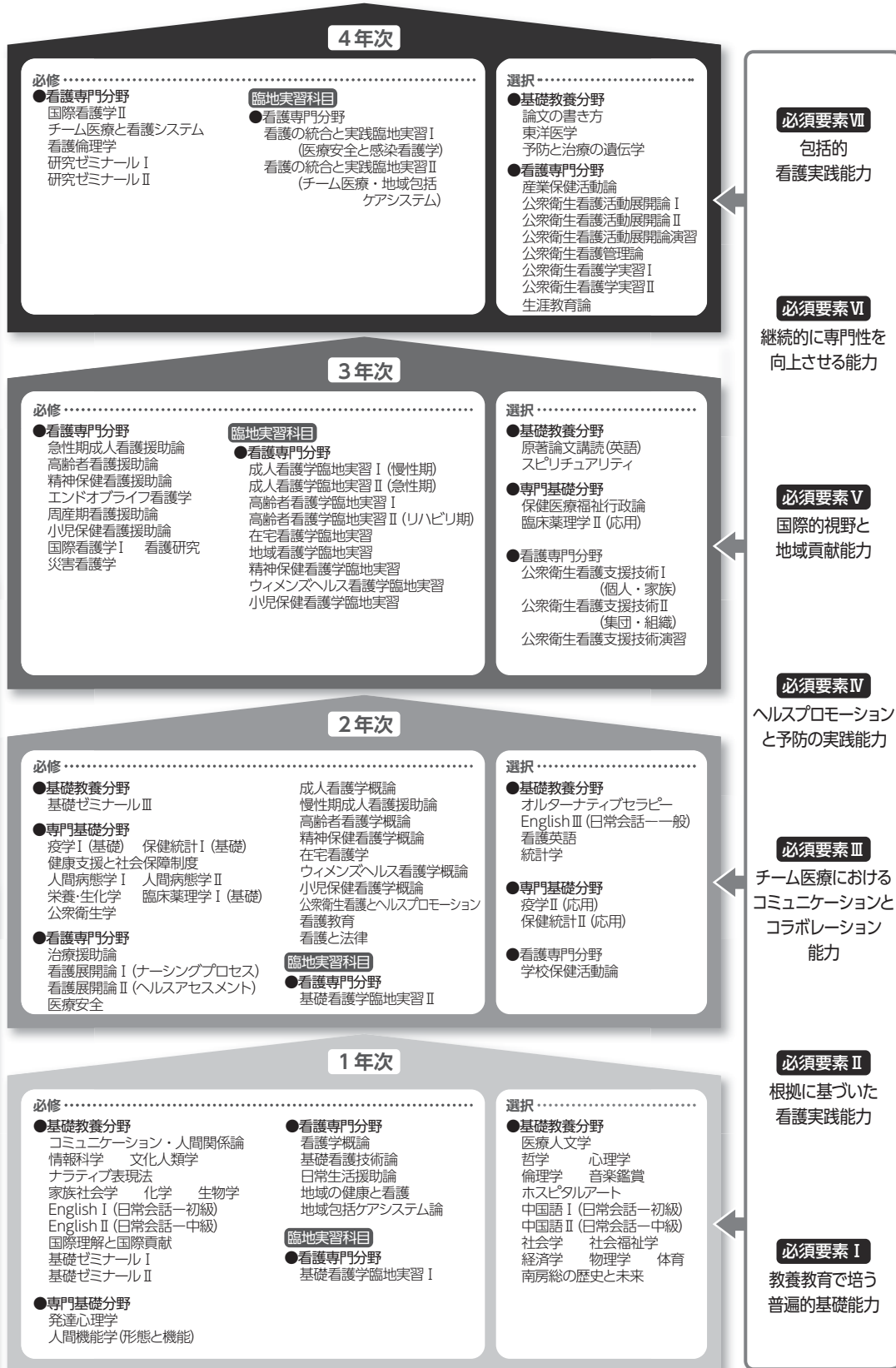
計127単位以上 学修成果:卒業時到達目標の修得

本学の特色と
授業科目の関係

国際的視野の育成と地域貢献

優れた実践能力の育成

幅広い教養



4 年 生

カリキュラムマップ (2022年度入学生版)

HART(Humanity, Empowerment, Autonomy, Reason, Team)

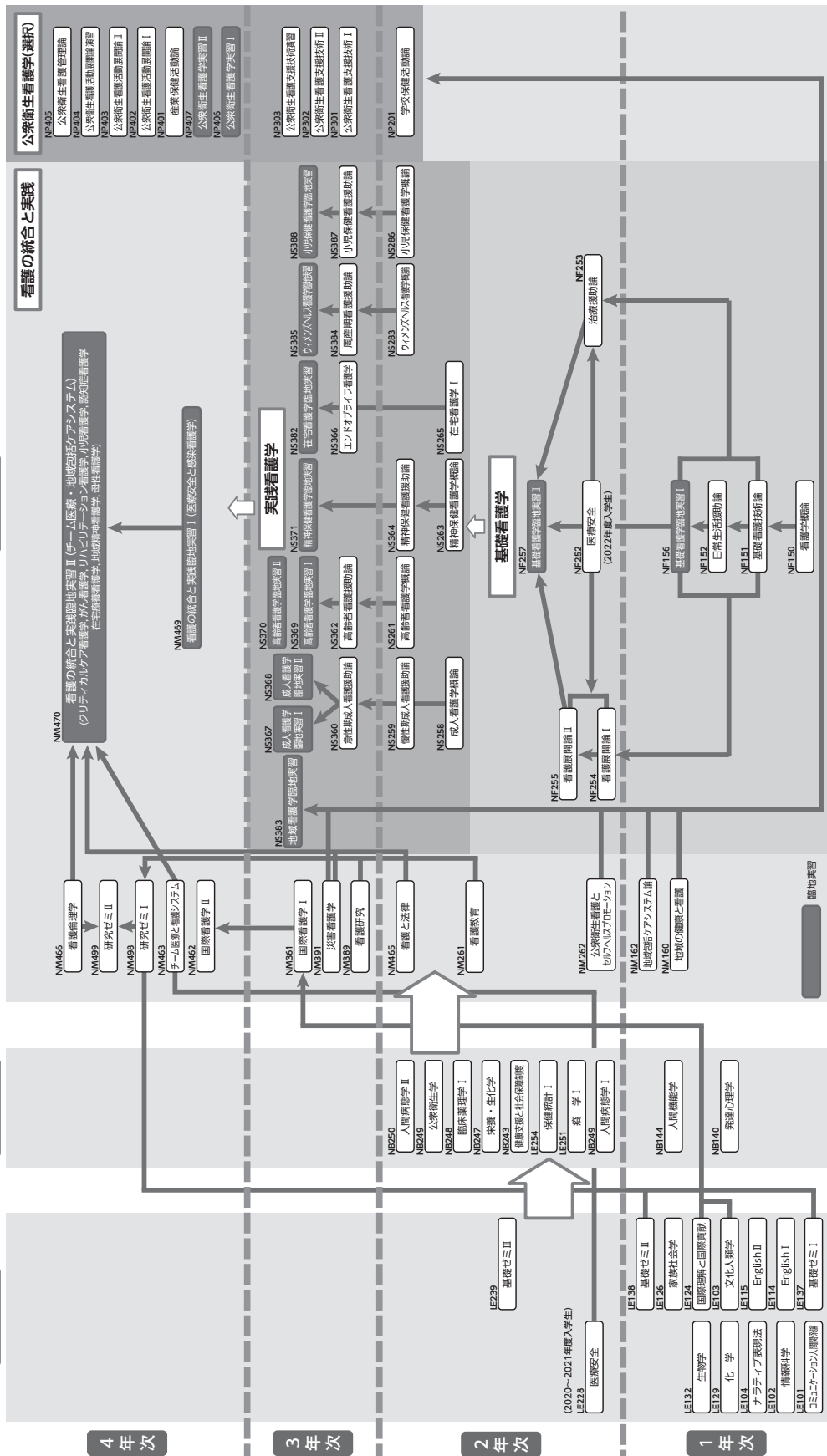
Ⅶ. 包括的看護実践能力

Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力 Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力 Ⅴ. 国際的視野と地域貢献能力 Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力

基礎教養分野

専門基礎分野

看護専門分野



2025

1 年 次

基礎教養分野**[人間の理解]**

コミュニケーション・人間関係論	20
情報科学	21
文化人類学	22
ナラティブ表現法	23
医療人文学	24
哲学	25
心理学	26
倫理学	27
音楽鑑賞	28

[外国語]

English I (日常会話－初級)	29
English II (日常会話－中級)	30
中国語 I (日常会話－初級)	31
中国語 II (日常会話－中級)	32

[人間と環境]

家族社会学	33
社会福祉学	34
社会学	35
経済学	36
国際理解と国際貢献	37
南房総の歴史と未来	38
ホスピタルアート	39

[人間と健康]

化学	40
生物学	41
物理学	42
体育	43
身体活動論	44

[ゼミナール]

基礎ゼミナール I	45
基礎ゼミナール II	46

専門基礎分野**[生命科学]**

発達心理学	47
人間機能学(形態と機能)	48

看護専門分野**[基礎看護学]**

看護学概論	49
基礎看護技術論	50
日常生活援助論	51
基礎看護学臨地実習 I	52

[看護の統合と実践]

地域の健康と看護	53
地域包括ケアシステム論	54

授業科目名		コミュニケーション・人間関係論		担当教員	諏訪 茂樹	科目ナンバリング LE101
必修	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力			

【授業概要】

自己理解を深め、その上でコミュニケーションの知識、技法を学ぶことにより、日常の人間関係を良好に保つ能力を身に付けるとともに、看護の対象となる人との良好な関係づくりの基盤を学ぶ。

【到達目標】

1. 感情に基づく人間関係の問題に対処することができる。
2. 自分から見た自分、自分から見た他者、他者から見た自分などについて、理解することができる。
3. 言語、準言語、非言語により、メッセージを上手く共有することができる。
4. メッセージの影響について、説明することができる。
5. 各場面にふさわしい言葉遣いや言葉かけを実践することができる。
6. 各場面で必要な人間関係を築くことができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 対人感情(好き嫌いの人間関係)
- [02] 対人認知1(他者理解の体験学習)
- [03] 対人認知2(自己理解の体験学習)
- [04] コミュニケーション意欲を高めるトレーニング
- [05] 言語によるメッセージの共有トレーニング
- [06] 非言語によるメッセージの共有トレーニング
- [07] コミュニケーション効果(喜ばれる言葉と嫌われる言葉)
- [08] コミュニケーション技法トレーニング1(うなづき、相槌、繰り返し)
- [09] コミュニケーション技法トレーニング2(要約、共感)
- [10] コミュニケーション技能(ケーススタディ)
- [11] チームワークの基礎となる協力関係トレーニング
- [12] 会議時の人間関係トレーニング
- [13] 危機対処時の人間関係トレーニング
- [14] 通常時の人間関係トレーニング
- [15] まとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

1. 授業中に伝えた教科書のページを、次の授業までに読んでおくこと(1時間)。
2. 授業中に取り組めなかった教科書の単独ワークは、授業後に取り組むこと(1時間)。

【評価方法・評価基準】

1. 授業への参加度(60%)、2. レポート試験の成績(40%)
- なお、トレーニングなどの演習を多数取り入れるため、遅刻すると授業に参加できなくなることもある。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

解答例を示すことがある。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

諏訪茂樹(2019)：看護のためのコミュニケーションと人間関係 第2版－アクティブ・ラーニングで身につける技術と感性、中央法規出版

【参考書】

特になし

【備考】

教科書はワークブックとして使用し、授業中に書き込んでいくため、未使用のものを必ず持参すること。

授業科目名		情報科学		担当教員	桒本 輝樹	科目ナンバリング LE102
必修	開講年次： 1 年前期		単位： 1 単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

効果的なパーソナルコンピュータ(パソコン)の活用を目指して、情報科学の基礎知識とその応用を学び、日常使われているソフトウェアやインターネットの正しい使用法について学ぶ。

【到達目標】

1. ユーザーとして、コンピュータおよびネットワークの利用法や機能について簡単に説明ができる。
2. Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Power Point 等のソフトウェアを正しく使用できる。
3. コンピュータおよびクラウドサービスやネットワークの使用上のエチケットや法的・倫理的ルールを守る。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] アカウント情報の管理、本大学の情報システムの基本的ガイダンスと電子メール(Outlook)・Teams アプリ版の利用
- [02] メールの送受信、セキュリティの基本と大学の講義における Microsoft365の利用
- [03] VDT 作業、タッチタイピングと日本語入力
- [04] Word と Excel の基礎(ユーザーインターフェース、基礎的編集作業)
- [05] ソーシャルネットワークの利用、情報リテラシーの基礎
- [06] 情報セキュリティとソフトウェアアップデート(調査学習型演習を含む)
- [07] 個人情報とその保護
- [08] 医療情報システムと医療情報の保護
- [09] 医療における情報管理と記録の重要性
- [10] 情報リテラシー(情報の信頼性、ドメイン名)
- [11] 著作権法と引用
- [12] 参考文献と書誌検索(図書館の利用)
- [13] 参考文献と書誌検索(オンラインジャーナルとデータベース)
- [14] エビデンスレベルと信頼性
- [15] 生成 AI の利用・文献検索演習

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：タイピング練習および次週内容の予習(1 時間)。

事後学習：当該週内容の復習(インターネットを使用した事例検索)(1 時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(60%)、小課題(30%)、タイピング能力および提出物(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答の掲示

【アクティブラーニング】

体験学習／ワークショップ／調査学習／PBL

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft365(クラウド)／Microsoft Office
Teams(学習教材配布とチェックテスト、リンク共有)
Forms(到達確認クイズ)
ICT プロフィシエンシー検定試験タイピング練習教材

【教科書】

指定しない、必要なレジュメを用意する。

【参考書】

指定なし

【備考】

(養選)保健師国家試験受験資格取得と養護教諭二種免許取得希望者のための選択必修科目

授業科目名		文化人類学		担当教員	上村 淳志	科目ナンバリング LE103
必修	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、V. 国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

文化の多様性と普遍性の認識を高め、異文化に対する感受性を高める。人間の多様な生のあり様をより広い視点から想像的に捉える力を養う。

【到達目標】

1. 文化的・社会的要因が人々の価値観、生活様式、健康に関する理解や態度に影響することを理解し、その理解をケアの現場で活かすことができるようになる。
2. グローバルな社会の中で必要となる態度やマナーを身に付けて、国際人として共存できるようになる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 導入：なぜ文化は問題か？
- [02] 文化人類学と医療人類学の歴史：いかにして医療と病気は文化人類学の対象になったのか？
- [03] 近代医療の普及によって伝統医療は消滅するか？：様々な治療法を併用する人々
- [04] 贈与と感情：事例① 臓器移植
- [05] 生殖の権利と生命の選択：事例② リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生殖医療
- [06] 病気による社会的差別と自助グループの編成：事例③ HIV/AIDS
- [07] 多重な医療実践と「一つの」病気の様々なバージョン：事例④ 生活習慣病(特に2型糖尿病)
- [08] まとめ：医療および病気の文化的・社会的要因に注目する必要性

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次回に扱う映像の全編を見て、内容を理解した上で講義を受けること(1時間)。

事後学習：講義ノートを見直し、授業中に指示する参考文献のうち少なくとも一点以上に当たること(3時間)。

【評価方法・評価基準】

筆記試験：68%(68点満点)、コメントペーパー：32%(4点満点/回×合計8回)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

コメントペーパーは採点した上で、総論回(第1-3回)についてはコメントと得点の両方を、各論回(第4-7回)とまとめ回(第8回)については得点のみを付して返却する。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

これ以外の文献については、授業中に適宜紹介する。

1. 飯田淳子・錦織宏編(2021)『医師・医学生のための人類学・社会学：臨床症例／事例で学ぶ』ナカニシヤ出版。
2. 澤野美智子編(2018)『医療人類学を学ぶための60冊：医療を通して「当たり前」を問い直そう』明石書店。
3. 磯野真穂(2017)『医療者が語る答えなき世界：「いのちの守り人」の人類学』ちくま新書。

【備考】

このグローバル化時代にあって、異文化の人と関わる機会はどんどん増えている。皆さんの中には、将来的に国際支援の現場や海外の病院で活躍する人もいるかもしれない。あるいは、日本に移住や旅行でやってきた異文化の人のケアに関わる機会がある人もいるかもしれない。たとえ自分と同じ文化に属する人だけしかケアしないとしても、ケア対象者の生活環境や個人史といった側面を考慮しなければ十分なケアはできない。そのことを常に念頭において本講義を受けることで、ケアの際にはエビデンスだけではなく「医療および病気をめぐる文化的・社会的要因」についても意識する必要があることを十分に理解し、その理解をケアの現場でも活かせるようになっていって欲しい。講義では、看護師の卵である皆さんのために、文化人類学の中でも医療人類学の分野を中心的に取り上げる。事例についても、大多数が近代的病院で勤務するであろう皆さんのために、日本でも関わる可能性のある事例を取り上げていく。

授業科目名		ナラティブ表現法		担当教員	足立 智孝	科目ナンバリング LE104
必修	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態： 演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力			

【授業概要】

会話表現と話と文章表現の三側面におけるコミュニケーション能力の向上を目指して、「相手とのずれを埋める」ために「相手の視点を取り合う」というコミュニケーションの原理を学ぶ。

【到達目標】

看護師として健康問題の当事者との援助関係を成立させるとともに、看護師やその他の専門職とのチームワークを確立する上で必要な会話及び文章によるコミュニケーションの基礎について、講義と演習を通じて学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] イントロダクションー表現することとナラティブ
- [02] ナラティブについて1ー「聴く」「語る」ことの意味
- [03] ナラティブについて2ーナラティブとケア
- [04] 聴くことについて1ーグループワーク演習
- [05] 聴くことについて2ーグループワーク演習の振り返りとまとめ
- [06] 文章で表現するー文章表現演習1
- [07] 集団・組織におけるコミュニケーション1ーグループワーク演習
- [08] 集団・組織におけるコミュニケーション2ーグループワーク理論とその評価
- [09] 書く基本を学ぶー文章表現演習2
- [10] 感情を文章で表現する
- [11] 文章表現のルール1ー修飾、句読点、段落分け
- [12] 文章表現のルール2ー適切な単語の使用、漢語と大和言葉
- [13] 文章表現のルール3ー文章骨格と文章読解1
- [14] 文章表現のルール4ー文章骨格と文章読解2
- [15] レポート作成の方法ーレポートの自己添削

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次回授業の資料を事前に予習すること(1時間)。

事後学習：授業での学びを日常的なコミュニケーションに生かすように努めること(1時間)。

【評価方法・評価基準】

授業内課題(Kameドリル課題(国語)を含む)60%、中間課題20%、学期末課題20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについて授業時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

1. 学習技術研究会(2019)：知へのステップ 第5版ー大学生からのスタディ・スキルズ、くろしお出版

【参考書】

1. 野口裕二(2002)：物語としてのケアーナラティブアプローチの世界へ、医学書院
2. 宮坂道夫(2020)：対話と承認のケアーナラティブが生み出す世界、医学書院
3. 平田オリザ(2015)：対話のレッスンー日本人のためのコミュニケーション術、講談社
4. 石川ひろの(2020)：保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門、大修館書店
5. 大野晋(1999)：日本語練習帳、岩波書店

【備考】

援助関係の形成能力を習得することを学習目標としており、多くの専門科目と関連があるので、この科目で学んだことを各科目の学習に生かすことを心掛けて欲しい。

授業科目名		医療人文学		担当教員	足立 智孝	科目ナンバリング LE106
選択	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

文学作品には、人間をテーマとして扱ったものが多く、必然的に「生・老・病・死」に関する内容が多く含まれる。本コースでは、これらの医療に係る小説(フィクション、ノンフィクション)、詩、随筆などを取り上げ、医療者や患者・障害者、あるいはその家族の感情の機微に対する理解を深めるとともに、その医療が行われた時代状況や、社会制度を俯瞰し、医療を多角的に捉える視点を学ぶ。

【到達目標】

1. 医療文学の多様性を知り、患者やその家族を多面的に理解する。
2. 時代状況や制度的観点から医療を理解する。
3. 物語能力(読み取る力(読解力)及び書く力(表現力))の必要性を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] イントロダクション：文学と医療
- [02] 病と共に生きること：多田富雄『寡黙なる巨人』
- [03] 死者を見送ること：滝田洋二郎監督『おくりびと』映画
- [04] 認知症を患うこと1：有吉佐和子『恍惚の人』
- [05] 認知症を患うこと2：堤幸彦監督『明日の記憶』映画
- [06] 死を迎えること：トルストイ『イワン・イリイチの死』
- [07] 家族の死を看取ること：砂田麻美監督『エンディングノート』映画
- [08] まとめ：医療を題材にした文学作品・映画からの学びについて

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書使用時は、事前課題に沿って教科書を精読する(2時間以上)。映画鑑賞時は、映画の内容について情報収集する(30分)。

事後学習：教科書使用時は、講義資料ならびに返却リフレクティブレポートをもとに、授業の振り返りをする(30分)。映画鑑賞時は、課題を作成する(1時間)。

【評価方法・評価基準】

授業課題レポート(50%)、学期末レポート(50%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業課題レポートは授業中にフィードバックを行う。学期末レポートは評価後にコメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング】

対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

1. 多田富雄(2010)：寡黙なる巨人、集英社文庫
2. トルストイ(2006)：イワン・イリイチの死、光文社古典新訳文庫
3. 有吉佐和子(1972)：恍惚の人、新潮文庫

【参考書】

1. 青木新門(1996)：納棺夫日記、文春文庫
2. 荻原浩(2007)：明日の記憶、光文社文庫

【備考】

特になし

授業科目名		哲学		担当教員	熊谷 征一郎	科目ナンバリング LE107
選択	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

文明の発祥から現代に至るまでの哲学の展開をたどる。東洋と西洋の哲学的パラダイムを比較し、臨床の知の再生の意味を探究する。人間の生と死、他者と愛、文化と価値観、現代社会の問題点などを哲学的視点から学ぶ。

【到達目標】

現代の哲学的パラダイムの源泉、および人間や人間に関する現象を理解し、説明することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] イントロダクション：授業の履修について
哲学とは何か？
- [02] 「身体」の哲学(西洋：古代～現代)
- [03] 「身体」の哲学(東洋：古代～現代)
- [04] 「心」の哲学(西洋と東洋：古代～現代)
- [05] 「感情」の哲学(東洋と西洋：古代～現代)
- [06] 「愛」の哲学(西洋：古代～現代)
- [07] 「愛」の哲学(東洋：古代～現代)
- [08] 今日における臨床哲学の可能性

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次回の授業で学習する哲学者について、(自分にできる範囲で)調べてくる(1時間)。

事後学習：授業のなかで強調して説明していた内容を中心に、プリントやノートを振り返り、頭のなかを整理する(1時間)。

【評価方法・評価基準】

- 1. 学期末レポート(60%)
- 2. 授業のなかで出される「質問」への「回答」(40%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業のなかで出される「質問」への「回答」には、次の授業のなかでコメントおよび補足説明をする。

【アクティブラーニング】

対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

- 1. 泉治典・渡辺二郎編(1983)：西洋における生と死の思想、有斐閣
- 2. 中村雄二郎(1992)：臨床の知とは何か、岩波書店
- 3. 野家啓一・木村敏監修(2012)「自己」と「他者」——臨床哲学の諸相、河合文化教育研究所

【備考】

第1回の授業動画で、受講の仕方等について、ガイダンスをする。

授業科目名		心理学		担当教員	玉澤 知恵美	科目ナンバリング LE108
選択	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

心理学の歴史や現代心理学の主な理論を学び、人間の心理的な働きを理解してその臨地的応用について理解する。
心理学の発展、知覚や記憶、学習の心理、集団の心理、ストレスとストレスマネジメント等について学ぶ。

【到達目標】

人間の心理的な働きを理解し、人への援助や人間関係の形成の基礎となる知識を取得する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 心理学の歴史
- [02] 知覚について考える
- [03] 記憶について考える
- [04] 社会・集団について考える
- [05] 学習について考える
- [06] 性格について考える
- [07] ストレスについて考える
- [08] 多様性について考える

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：実生活の中で、心理に関する様々な疑問を持っておくこと(1時間)

事後学習：授業で学んだことを実生活の中で意識してみること(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験：100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

毎回の授業終了時に感想や質問を集め、その内容について次の授業の冒頭にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

授業ごとに講師が用意するプリントを使用する

【参考書】

随時紹介

【備考】

特になし

授業科目名		倫理学		担当教員	足立 智孝	科目ナンバリング LE109
選択	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅵ．継続的に専門性を向上させる実践能力			

【授業概要】

現代社会において、様々な領域で倫理の問題が注目されているなか、その問題の倫理学的根拠についてはあまり論議されていない。そこで、本コースでは、善悪の判断が、どのような基準や根拠に基づいているのかを明らかにする学問分野である倫理学の基本を学ぶ。現代社会が直面する問題を幅広く取り上げ、それらの問題を倫理的に考察する。

【到達目標】

1. 医療に関わる倫理的問題を理解する。
2. 現代社会における問題を倫理学的に考察できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 生命倫理とは何か：新しい医療倫理の登場背景
- [02] 生命科学技术と倫理
- [03] 遺伝子・ゲノム医療と倫理
- [04] 生殖補助医療と倫理
- [05] 臓器移植医療と倫理
- [06] 終末期医療と倫理
- [07] 再生医療と倫理
- [08] まとめ：人体改造の倫理

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された課題を行うこと。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習を行うこと。(1時間)

【評価方法・評価基準】

授業課題レポート(40%)、学期末レポート(60%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業課題レポートについては授業中にフィードバックを行う。学期末レポートは評価後にコメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

1. 香川知晶(2021)命は誰のものか増補改訂版ディスカヴァー携書

【参考書】

1. トム・L・ビーチャム、ジェームズ・F・チルドレス(2009). 生命医学倫理 第5版、麗澤大学出版会
2. ジェームズ・レイチェルズ(2017). 現実をみつめる道徳哲学 新版、晃洋書房

【備考】

4年次「看護倫理学」の基盤となる科目であるため、履修を推奨する。

授業科目名		音楽鑑賞		担当教員	山崎 綾子	科目ナンバリング LE110
選択	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態： 演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

多様な音楽を鑑賞する機会を持ち、音楽が与える日常生活への影響について理解を深める。

【到達目標】

音楽を日常生活に取り入れてゆくことがもたらす Quality of Life を認識し、音楽から得ることの出来る一体感、及び協調性を養う。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 講義内容説明 校歌練習音楽理論(階名、音名)
- [02] 校歌練習 音楽理論(譜表と音名、音符と休符) 作品の分析及び練習
- [03] 校歌練習 作品の分析及び練習 DVD 鑑賞(前半)
- [04] 校歌練習 音楽理論(臨時記号) DVD 鑑賞(後半)
- [05] 校歌練習 音楽理論(音符、休符) 復習プリント
- [06] 校歌練習 クラッピングカルテット I DVD 鑑賞(前半)
- [07] 校歌練習 クラッピングカルテット I DVD 鑑賞(後半)
- [08] 校歌練習 音楽理論(リズム) 作品の分析及び練習
- [09] 校歌練習 音楽理論(リズム) DVD 鑑賞(前半)
- [10] 校歌練習 クラッピングカルテット II DVD 鑑賞(後半)
- [11] 校歌練習 クラッピングカルテット II 季節の歌
- [12] 校歌練習 音楽理論(復習) DVD 鑑賞(前半)
- [13] 校歌練習 音楽理論(まとめ) DVD 鑑賞(後半)
- [14] 校歌練習 音楽理論(まとめ)
- [15] 校歌練習 音楽理論(定期試験の傾向と対策)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：配布したプリントの予習をする(1時間)。

事後学習：配布したプリントを復習をする(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験：70%

関心・意欲・態度の評価：30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

希望者には模範解答の提示

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

楽譜や練習問題プリント等を講義時に配布する。

【参考書】

指定なし

【備考】

特になし

授業科目名		English I (日常会話－初級)		担当教員	KELLY JAMES	科目ナンバリング LE114
必修	開講年次：1 年前期		単位：2 単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅴ. 国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

簡単な日常生活のイベント(事象)についての英会話を主とし、それに関連したショートストーリーや E-mail Message を読解する機会を持つ。この科目は English II へ続く。

【到達目標】

1. 英語による簡単な日常会話ができる。
2. 日常に遭遇する簡単な英文や E-mail Message を理解することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] Introductions: Saying 'Hello and Good-bye' (Checking information/ Giving and Receiving Personal Information)
- [02] Introductions: Saying 'Hello and Good-bye' (Checking information/ Giving and Receiving Personal Information)
- [03] Jobs, Daily Schedules and Time (Describing Work, School and Daily Schedules)
- [04] Jobs, Daily Schedules and Time (Describing Work, School and Daily Schedules)
- [05] Shopping, Prices and Personal Items (Demonstratives)
- [06] Shopping, Prices and Personal Items (Demonstratives)
- [07] Preferences, Likes and Dislikes (Opinions, Invitations, Reasons and Excuses)
- [08] Preferences, Likes and Dislikes (Opinions, Invitations, Reasons and Excuses)
- [09] Family and Relationships (Quantifiers)
- [10] Family and Relationships (Quantifiers)
- [11] Routines and Abilities (Adverbs of Frequency)
- [12] Routines and Abilities (Adverbs of Frequency)
- [13] Vacations and Memories (Describing Past Events)
- [14] Vacations and Memories (Describing Past Events)
- [15] Places in the City and Neighborhood (Describing Places)
- [16] Places in the City and Neighborhood (Describing Places)
- [17] Appearances, Styles and People (Describing Appearances and Identifying People)
- [18] Appearances, Styles and People (Describing Appearances and Identifying People)
- [19] Experiences and Unusual Activities (Present Perfect)
- [20] Experiences and Unusual Activities (Present Perfect)
- [21] Travel and Tourism (Advice and Suggestions)
- [22] Travel and Tourism (Advice and Suggestions)
- [23] Health Problems, Medications and Remedies (Advice, Suggestions and Possibilities)
- [24] Health Problems, Medications and Remedies (Advice, Suggestions and Possibilities)
- [25] Restaurants (Ordering, Likes and Dislikes)
- [26] Restaurants (Ordering, Likes and Dislikes)
- [27] The World We Live In (Comparatives and Superlatives)
- [28] The World We Live In (Comparatives and Superlatives)
- [29] Leisure Time and the Telephone (Making Plans and Present Continuous)
- [30] Leisure Time and the Telephone (Making Plans and Present Continuous)

【授業のために必要な事前・事後学習】

Before each lesson, students must do the assigned homework and review the previous lesson (grammar, vocabulary, and phrases) for 1-2 hours. Students should also follow along with the Online Self-Study provided in their textbook. Students are also required to finish the Kame-drill English section before the 16th lesson. Verbal communication is the target for this course.

【評価方法・評価基準】

- | | | | | | |
|---------------------|-----|--------------------------|-----|----------------------------|-----|
| 1. Weekly Quizzes | 15% | 2. Oral English Test × 2 | 50% | 3. Classroom Participation | 10% |
| 4. Short Essays × 3 | 15% | 5. Kame Drill | 10% | | |

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

Students will have their weekly quizzes marked, graded and returned to them on a weekly basis as well as any reports submitted returned with feedback in a timely manner. Also, after the first Oral English Test, students will receive an informal 'mid-term' score.

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

Interchange Level 1 Student's Book, 5th Ed. With Online Self-Study. Richards, Jack C. Cambridge University Press, New York, USA. 2017.

【参考書】

1. Christine's Easy Nursing English Conversation. Chinen, Christine Lee. Igaku Shoin, Tokyo, Japan. 1995
2. In class hand-outs.
3. A Japanese-English Dictionary

【備考】

携帯電話の使用は授業中は絶対禁止。Phones are NOT ALLOWED during class. Phones MUST BE in students' bags for the 90 minutes of the lecture.

(養選)保健師国家試験受験資格取得と養護教諭二種免許取得希望者のための選択必修科目

授業科目名		English II (日常会話－中級)		担当教員	KELLY JAMES	科目ナンバリング LE115
必修	開講年次：１年後期		単位：２単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

English I に続いて、学生は授業中日常会話をすべて英語で会話することが要求される。多様な家庭生活やレストラン、病院などで遭遇するシナリオが用意され、学生は Listening skills を訓練する。簡単な手紙や E-mail Message を作成する。

【到達目標】

1. 日常遭遇する場または事象における英会話表現ができ、また相手の会話が理解できる。
2. インターネット上での英語を使った検索や、簡単な E メールメッセージを作成する能力を身に付ける。

【履修条件】

「English I (日常会話－初級)」を修得していること。

【授業計画】

- [01] Your Childhood (Past and Present, Habitual Actions)
- [02] Your Childhood (Past and Present, Habitual Actions)
- [03] Transportation Services (Quantity, Count and Non-count)
- [04] Transportation Services (Quantity, Count and Non-count)
- [05] Lifestyle Changes and Your Home (Positive and Negative Evaluations)
- [06] Lifestyle Changes and Your Home (Positive and Negative Evaluations)
- [07] Food Recipes and Instructions (Giving Instructions)
- [08] Preferences, Likes and Dislikes (Opinions, Invitations, Reasons and Excuses)
- [09] Family and Relationships (Quantifiers)
- [10] Family and Relationships (Quantifiers)
- [11] Routines and Abilities (Adverbs of Frequency)
- [12] Routines and Abilities (Adverbs of Frequency)
- [13] Vacations and Memories (Describing Past Events)
- [14] Vacations and Memories (Describing Past Events)
- [15] Places in the City and Neighborhood (Describing Places)
- [16] Places in the City and Neighborhood (Describing Places)
- [17] Appearances, Styles and People (Describing Appearances and Identifying People)
- [18] Appearances, Styles and People (Describing Appearances and Identifying People)
- [19] Experiences and Unusual Activities (Present Perfect)
- [20] Experiences and Unusual Activities (Present Perfect)
- [21] Travel and Tourism (Advice and Suggestions)
- [22] Travel and Tourism (Advice and Suggestions)
- [23] Health Problems, Medications and Remedies (Advice, Suggestions and Possibilities)
- [24] Health Problems, Medications and Remedies (Advice, Suggestions and Possibilities)
- [25] Restaurants (Ordering, Likes and Dislikes)
- [26] Restaurants (Ordering, Likes and Dislikes)
- [27] The World We Live In (Comparatives and Superlatives)
- [28] The World We Live In (Comparatives and Superlatives)
- [29] Leisure Time and the Telephone (Making Plans and Present Continuous)
- [30] Leisure Time and the Telephone (Making Plans and Present Continuous)

【授業のために必要な事前・事後学習】

Before each lesson, students must do the assigned homework and review the previous lesson (grammar, vocabulary, and phrases) for 1-2 hours. Students should also follow along with the Online Self-Study provided in their textbook. Verbal communication is the target for this course.

【評価方法・評価基準】

- | | | | | | |
|---------------------|-----|--------------------------|-----|----------------------------|-----|
| 1. Weekly Quizzes | 15% | 2. Oral English Test × 2 | 50% | 3. Classroom Participation | 10% |
| 4. Short Essays × 3 | 15% | 5. Homework | 10% | | |

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

Students will have their weekly quizzes marked, graded and returned to them on a weekly basis as well as any reports submitted returned with feedback in a timely manner. Also, after the first Oral English Test, students will receive an informal 'mid-term' score.

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

Interchange 2 Student's Book. 5th Ed. With Online Self-Study. Richards, Jack C. Cambridge University Press, New York, USA. 2017.

【参考書】

1. Christine's Easy Nursing English Conversation. Chinen, Christine Lee. Igaku Shoin, Tokyo, Japan. 2001
2. In class hand-outs.
3. A Japanese-English Dictionary

【備考】

携帯電話の使用は授業中は絶対禁止。Phones are NOT ALLOWED during class. Phones MUST BE in students' bags for the 90 minutes of the lecture.

授業科目名		中国語Ⅰ（日常会話－初級）		担当教員	呉 宝珠	科目ナンバリング LE116
選択	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

中国と中国文化に関する知識を高め、初歩的な中国語で会話する能力を取得する。この科目は、中国語Ⅱへ続く。

【到達目標】

1. 中国または中国文化に関する知識の学修を中心に、初歩的な中国語でコミュニケーションができる。
2. 簡単な日常の言語の発音ができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 「中国語とは」に関する紹介：中国事情・中国語と普通話(共通語)・中国語の文字・中国語の発音
- [02] 第一課 自己紹介 発音：1. 単母音 2. 声調 3. 軽声 4. 子音
- [03] 第一課 自己紹介 会話・表現：1. 挨拶① 2. 人称代名詞 3. 名前の言い方
- [04] 第二課 どうなさいましたか 発音：1. 単母音の復習 2. 複母音 3. 声調の表記
- [05] 第二課 どうなさいましたか 1. 挨拶② 2. 数字の言い方
- [06] 第三課 この薬はどう飲みますか 発音：1. 複母音の復習 2. 鼻母音
- [07] 第三課 この薬はどう飲みますか 表現：1. 指示代名詞 2. ～の～：“…的…”
3. どう～するか：“怎?”+V
- [08] 第四課 病室はどこですか 発音：1. 声調の変調 2. アール化音(“儿化音”) 3. 発音のまとめ
- [09] 第四課 病室はどこですか 表現：1. 場所代名詞 2. 方向表現
3. ～は～にある/いる：存在主体+“在”+存在場所
- [10] 第五課 具合はいかがですか 発音総復習 会話
- [11] 第五課 具合はいかがですか 表現：1. あまり～ない：“不太…” 2. もうすぐ/まもなく～だ：“快…了”
3. ～だろう/～しょう/～してください：“…?”
- [12] 第六課 心配いりません 会話
- [13] 第六課 心配いりません 表現：1. ～する必要はない/～しなくてもいい：“不用…”
2. ～は～が～だ：“主述述語文” 3. だいぶ/ずっと：“…多了”
- [14] 第七課 退院おめでとう 会話 表現 1. ～してもいい：“可以…”
2. ～しなければならない/～すべきだ：“要…”
- [15] チャレンジ 各課会話のまとめ 初級中国語文法のまとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前予習の記述を行うこと(1時間ぐらい)。

事後学習：講義資料を基に学習内容の復習、課題の記述を行うこと(1時間ぐらい)。

【評価方法・評価基準】

筆記テスト(65%)、授業中発表×3～4回(25%)、グループ討議及び発表(10%)。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

筆記試験、授業中小テストについては次の授業時に纏め説明した上で上返す。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

李 偉・管 虹 著(2018). 協同学習で学ぶ 医療系 中国語会話 白帝社 初版

【参考書】

特になし

【備考】

中国語Ⅰで学習した内容は中国語Ⅱの基礎になる。授業内容と合わせて中国の病院事情を紹介する。

授業科目名		中国語Ⅱ（日常会話－中級）		担当教員	呉 宝珠	科目ナンバリング LE117
選択	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

中国語Ⅰに続いて、中国の経済、ヘルスケア、社会問題に関する知識を高めることによって中国に関する理解を深め、日常の言語の読み、書き、会話の能力を身につける。

【到達目標】

1. 中国の経済、ヘルスケア、社会問題について話し合う。
2. 中国人との中国語会話をする。
3. 中国語の読みかたと発音が正しくできる。

【履修条件】

「中国語Ⅰ(日常会話－初級)」を修得していること。

【授業計画】

- [01] あなたは中国人ですか
- [02] 健康保険証を持っていますか(1)
- [03] 健康保険証を持っていますか(2)
- [04] 家族にはどんな人がいますか
- [05] あそこで少しお待ちください
- [06] 少し話せます
- [07] 検査室に行って検査をしてください(1)
- [08] 検査室に行って検査をしてください(2)
- [09] どうしましたか
- [10] 口を開けてください
- [11] この薬を飲んだことがありますか
- [12] 服をあそこに置いてください(1)
- [13] 服をあそこに置いてください(2)
- [14] 病状はずっと良くなりました(1)
- [15] 病状はずっと良くなりました(2)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前予習の記述を行うこと(1時間ぐらい)。

事後学習：講義資料を基に学習内容の復習、課題の記述を行うこと(1時間ぐらい)。

【評価方法・評価基準】

筆記テスト(65%)、授業中発表×3-4回(25%)、グループ発表(10%)。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

筆記試験、授業中小テストについては次の授業時に纏め説明した上で返す。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

山田真一 著(2009年). 医療系学生のための中国語、白帝社

【参考書】

特になし

【備考】

授業内容と合わせて常に中国の病院の事情、診察システムなどを紹介する。

授業科目名		家族社会学		担当教員	◎大野知代、榎本輝樹、鈴木玲子、高橋玲子、大滝令嗣	科目ナンバリング LE126
必修	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

わが国の家族は、少子・高齢化が進むなかで、育児不安、非行少年問題、離婚の増加などに直面しているだけでなく、高齢者のケアや寝たきり老人の介護など、多数の問題を抱えている。一方、看護職の地域や在宅における役割は拡大しており、家族社会学や家族心理学の知識が要求されている。家族を家族社会的視点から考察し、主に家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス理論に注目し、家族の構造や機能、家族の環境、家族内の人間関係、家族変化の発生、家族のストレスに対する反応などについて考察する。

【到達目標】

1. 人間生活の基盤としての家族を社会的視点からとらえ、その概念を理解することができる。
2. 家族の構造と機能、人間関係、発達段階、家族変化の発生、家族のストレス反応などの概念を理解し、自己の考えを述べることができる。
3. 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス理論の主な内容を理解することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------|
| [01] 家族とは何か－家族の定義、世帯と家族、家族類型等について－ | (大滝) |
| [02] 今の家族と昔の家族－前近代から近代への移行と家族の変化等について－ | (大滝) |
| [03] 現代家族の抱える問題(1)－「結婚難」について－ | (榎本) |
| [04] 現代家族の抱える問題(2)－性別役割分業、賃金労働・家事・育児等について－ | (榎本) |
| [05] 現代家族の抱える問題(3)－育児不安と児童虐待について－ | (高橋(玲)) |
| [06] 現代家族の抱える問題(4)－家族介護と介護の担い手について－ | (鈴木) |
| [07] さまざまな家族のありよう－離婚とひとり親家庭、事実婚、同性婚について－ | (鈴木) |
| [08] 家族をめぐる諸理論－家族システム論・家族ストレス理論等について－ | (大野) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：日頃から、新聞やニュースなどに目を向ける時間を作り、現在の家族の抱える問題と課題について学習を行い授業に臨むこと(1.5時間)。

事後学習：各授業回の内容をより深く理解するために自ら授業を振り返り整理する(1.5時間)。

【評価方法・評価基準】

各授業終了後の授業内容の要約を含む感想文および個人の疑問・課題等について提出したものを100%とし、担当教員間で総合的に評価する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内に求める意見や感想へのフィードバックについては、各授業回の担当教員が行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

特定のものは使用しない。

【参考書】

参考図書は各授業回に紹介する。

家族社会学および家族理論の全体像の理解には、以下の文献が適している。

- (1) 森岡清美・望月嵩(1997)『新しい家族社会学 四訂版』培風館
- (2) 野々山久也・清水浩昭編著(2001)『家族社会学の分析視角 社会的アプローチの応用と課題』ミネルヴァ書房

【備考】

- ・本科目は1年前期に開講される選択科目「社会学」との関連性が深いため、可能な限り「社会学」の履修を勧める。
- ・看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		社会福祉学		担当教員	梓川 一	科目ナンバリング LE127
選択	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

人々の暮らしを支える社会福祉の理念・歴史・仕組み・分野・実際について基本的な学習を行う。さらに福祉の援助に関する基本原則や方法についても分かり易く説明し、生活者の視点に立った社会福祉について学ぶ。

【到達目標】

1. 社会福祉の歴史を学び、社会福祉の理念・思想を理解する。
2. 社会福祉の法律・制度・サービスを理解する。
3. 社会福祉の援助・支援の方法を理解する。
4. 社会福祉と関連する多職種・多機関・多領域との連携を理解する。
5. 地域共生社会への取り組みを理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 社会福祉の理念と思想(人間の基本的欲求、社会生活上の要求、社会福祉の視点、生活ニーズ)
- [02] 社会福祉の歴史(SW・COSの活動、戦後の社会福祉の歩み、社会福祉基礎構造改革、措置と契約)
- [03] 社会福祉の法律・制度・サービス①(社会保障制度の仕組み、児童福祉、高齢者福祉等)
- [04] 社会福祉の法律・制度・サービス②(マクロとミクロのつながり、障害者福祉、医療福祉等)
- [05] 社会福祉の支援方法①(援助の原理、SWの援助のプロセス)
- [06] 社会福祉の支援方法②(実践と理論の統合、SWのモデルとアプローチ)
- [07] 社会福祉と多職種連携(専門職連携、多機関連携、地域共生社会、地域福祉)
- [08] 社会福祉の展望(ボランティア、NPO、SHG、ノーマルな社会、フォーマルとインフォーマルの連携)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：講義前の課題に取り組むこと(1時間)。

事後学習：講義後の課題に取り組むこと(1時間)。

【評価方法・評価基準】

講義内レポート(100%)：毎回の講義で実施する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

講義内レポート内容について、授業中にフィードバックを行う。

集中講義が終了した後、講義ノートは返却する。

【アクティブラーニング】

対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

- 1) 特になし：講義中に資料を配布します

【参考書】

- 1) 岡村重夫(1984)『社会福祉原論』全国社会福祉協議会。
- 2) 糸賀一雄(1968)『福祉の思想』NHK出版。
- 3) 柳田邦男(1986)『死の医学への序章』新潮社。

【備考】

社会学及び家族社会学が関連する科目である。

授業科目名		社会学		担当教員	◎大野知代、志村千鶴子、 榎本輝樹、高野海哉、鈴木玲子	科目ナンバリング LE122
選択	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

人間が生活する環境としての社会を理解するため、社会学の基本的な概念、社会的行為や相互行為、個人と社会、社会と文化などをまず理解し、社会的なものの方、考え方を身につけるための基礎的知識を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会学の基本的概念について理解し説明することができる。
2. 現代社会の諸問題や課題について理解し、自己の考えを述べることができる。
3. 看護師として必要とされる社会的なものの方、考え方を学び実践することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|------|
| [01] 社会学とは何かー社会学の研究対象とその方法 | (大野) |
| [02] 近代社会と個人(1)ー社会の近代化と個人の個人化についてー | (榎本) |
| [03] 近代社会と個人(2)ー地位・役割および役割葛藤と役割距離についてー | (榎本) |
| [04] 近代社会と個人(3)ー世代、階層、地域等についてー | (榎本) |
| [05] 近代社会と個人(4)ージェンダについてー | (志村) |
| [06] 近代社会と個人(5)ー近代社会におけるコミュニケーションの特徴についてー | (高野) |
| [07] 医学・医療と社会学(1)ー「病」の構築についてー | (大野) |
| [08] 医学・医療と社会学(2)ー看護師の専門性、看護における感情労働についてー | (鈴木) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学修：日常生活の中での気づきや、疑問、課題など考えたことを大切に授業に持ち寄り臨むこと(1.5時間)。

事後学修：各授業の内容をより深く理解するために、各授業回の振り返りを整理すること(1.5時間)。

【評価方法・評価基準】

各授業終了後の授業内容の要約を含む感想文および個人の疑問・課題等について提出したものを100%とし、担当教員間で総合的に評価する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業に求める意見・感想へのフィードバック等については各授業回の担当教員が行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

特定のものは使用しない。

【参考書】

参考図書は各授業回に紹介する。

ただし、より広範な知識を求める学生には、以下の入門書を薦める。

- (1) 早坂裕子・広井良典編著(2004)『みらいを拓く社会学看護・福祉を学ぶ人のために』ミネルヴァ書房
- (2) 浅野智彦編著(2002)『本当のことがホントにわかる！ 図解社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版

【備考】

- ・本科目は1年後期に開講される必修科目「家族社会学」と関連が深く、基礎をなす科目である。そのため、選択科目である「社会学」を履修することを勧める。
- ・看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		経済学		担当教員	長谷部 孝司	科目ナンバリング LE123
選択	開講年次： 1 年前期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

ミクロ経済学とマクロ経済学の2つに分けて経済学を学ぶ。ミクロ経済学では、需要・供給と価格の関係、企業や個人の行動と価格形成について学ぶ。マクロ経済学においては、GDP(国内総生産)、消費、投資、政府支出などのマクロ経済変数、マクロ経済の動向を学ぶ。

【到達目標】

1. 現在、日本や世界で起きているさまざまな経済現象の意味をより深く理解する能力を身に付けることができる。
2. 個別の経済現象としては、株式市場、為替相場、金融市場、金融政策、財政政策など、日頃ニュースでよく取り上げられる内容について理解し、説明することができる。
3. 経済の大きな流れとしては、グローバリゼーションとはなにか、その中で日本経済がなぜ衰退したのかについて理解し、説明することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 株価はなぜ変動するの？
 - ・株式会社の機能と仕組みについて
 - ・株式市場の仕組みと株価の動きについて
- [02] 為替相場はなぜ変動するの？
 - ・国際収支の仕組みについて
 - ・為替相場はなぜ動くのかについて
- [03] 銀行と証券会社ってどこが違うの？
 - ・金融機関の種類と機能について
 - ・金融市場の種類と役割について
- [04] 日本銀行は何をしているの？
 - ・中央銀行の三つの機能について
 - ・金融政策の目的と方法について
- [05] 「大きな政府」と「小さな政府」はどちらがよいの？
 - ・財政の三つの機能について
 - ・「大きな政府」と「小さな政府」の違いについて
- [06] 国債大量発行で日本は大丈夫？
 - ・国債発行の目的と種類について
 - ・国債大量発行の現状と問題点について
- [07] グローバリゼーションってなんだろう？
 - ・グローバリゼーションとはなにかについて
 - ・グローバリゼーションが進んだ背景とその影響について
- [08] 「経済大国日本」はどうして衰退したんだろう？
 - ・戦後日本の経済成長の動きについて
 - ・日本経済の長期停滞(失われた30年)について

【授業のために必要な事前・事後学習】

1. 事前学習(合計2時間)
 - ・事前に Teams に授業用資料を掲載するので、予めそれを読んで授業に臨む。
 - ・日々ネットやテレビ、新聞などのニュースに目を向け、日本や世界の経済の現状と課題について考える。
2. 事後学習(合計1時間)
 - ・各回の授業用資料を見ながら、授業で学んだ内容を確認する。
 - ・Forms を通して課題に解答する。

【評価方法・評価基準】

1. 6 回以上の出席(ただし、出席は期末試験受験のための前提条件であり、評価点の割り当ては 0%)
 2. 6 回以上の課題(授業時間外)提出(30%)
 3. 期末試験で60点以上(70%)
- 「1」の条件を満たした上で、「2」と「3」の合計が60%以上で単位取得を認める。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

1. Forms を通して課した課題については、事後に Teams に「模範解答」を掲載する。
2. 期末試験については、事後に Teams に「模範解答」を掲載する。
3. 意見・質問等については、授業の前後・授業中、メール(随時)で対応する。

【アクティブラーニング】

反転授業

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft Teams (Forms) を利用して課題提出などを求める。

【教科書】

なし

【参考書】

事前に Teams に授業用資料を掲載するので、予めそれを読んで授業に臨むこと。

【備考】

日頃からネット、テレビ、新聞などのニュースを見て、いま日本や世界の経済にどのような動きが起きているのかについて関心を持つこと。

授業科目名		国際理解と国際貢献		担当教員	◎大野知代、松本幸枝、潮田千寿子、 KELLY JAMES、何 雨竹、 吉田美和、呉 海松、大滝令嗣	科目ナンバリング LE124
必修	開講年次： 1 年前期		単位： 1 単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、V. 国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

世界の地理や文化を再認識するとともに、急変していく世界情勢や社会、経済、健康・医療や生活問題点を取りあげて討議し、国際的視野の拡大を図る。また国際貢献活動については、世界の国際保健援助活動を展望し、わが国の医療者や福祉関係者の国際活動やボランティアリズムについての理解を深める。

【到達目標】

1. 世界の地理的知識と文化、人々の生活について理解し認識を高めることができる。
2. グループワークを通して国際理解・貢献に必要な人間性、資質、役割等について考えを深めることができる。
3. 世界の人々の健康・医療、貧困、教育等に関心を深め、国際人として身近な国際理解・貢献について自己の考えを述べるができる。
4. 保健医療分野における国際貢献・国際協力とボランティアリズムのあり方について討議することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|-----------------------|
| [01] 授業(演習含む)全体のガイダンス概要 / オリエンテーション | (大野) |
| [02] 日本の国際貢献・国際協力ー日本の ODA、NGO による国際協力についてー | (大滝) |
| [03] 医療保健分野での国際貢献・国際協力: 日本式医療ツーリズムの概要 | (呉) |
| [04] 地域別課題①: アメリカ | (大滝) |
| [05] 地域別課題②: 中国 | (呉) |
| [06] 地域別課題③: カナダ | (大野・Kelly) |
| [07] 地域別課題④: シンガポール | (松本) |
| [08] 地域別課題⑤: 中国 | (潮田・何) |
| [09] 地域別課題⑥: アメリカ | (吉田) |
| [10] ①地域別課題地グループ演習: 国際理解・国際貢献について | (大野・松本・潮田・Kelly・何・吉田) |
| [11] ②地域別課題地グループ演習: 国際理解・国際貢献について | (大野・松本・潮田・Kelly・何・吉田) |
| [12] ③地域別課題地グループ演習: 国際理解・国際貢献について | (大野・松本・潮田・Kelly・何・吉田) |
| [13] ④地域別課題地グループ演習: 国際理解・国際貢献について | (大野・松本・潮田・Kelly・何・吉田) |
| [14] ⑤地域別課題地グループ演習: 国際理解・国際貢献について | (大野・松本・潮田・Kelly・何・吉田) |
| [15] 地域別課題地グループ演習: 学生によるプレゼンテーション | (大野・松本・潮田・Kelly・何・吉田) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学修: 日頃から世界の情報に関心をもち、その情報から得た内容を整理して授業に臨むこと(1.5時間)。

事後学修: 授業で学んだことを通して国際理解・国際貢献に関する問題・課題・役割等について整理できること(1.5時間)。

【評価方法・評価基準】

筆記試験: 70%

課題演習: 30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

学修状況に応じて学生のニーズを把握し、目標に達成できるよう各回の担当教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

演習テーマに沿ったグループワークのあと学生がプレゼンテーションを行う。

【教科書】

特になし

【参考書】

- 池上彰 編著(2016). 世界を救う7人の日本人ー国際貢献の教科書, 朝日新聞出版
 水巻中正 編著(2019). 令和 はばたく医療ツーリズムー国際貢献と連携の新時代, 中央公論新社
 葉田甲太(2019). 僕たちはヒーローになれなかった。あさ出版
 中田正一(1995). 国際協力の新しい風僕たちはヒーローになれなかった。パワフルじいさん奮闘史, 岩波書店
 スー・チュラリー, 勝井信子, 渡辺知花(2012). 異文化理解とヘルスケア, 日本放射線技師会出版
 徳永瑞子(2012). アフリカの詩ー看護師徳永瑞子の日本へのメッセージ, クオリティケア

【備考】

- ・本科目は3年次の「国際看護学Ⅰ」4年次の「国際看護学Ⅱ」に関連する科目のため、授業に関する質問、意見、考え等を深めるために積極的に取り組むこと。
- ・看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		南房総の歴史と未来		担当教員	◎吉野 妙子、松丸 直美、 岡野 大和	科目ナンバリング LE118
選択	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、V. 国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

地域の背景や教養知識を高めることによって如何に地域の活性化や住民の健康や QOL (Quality Of Life) に貢献することができるかについて考察する。学生には、地域を知る機会をつくり、共に意見交換し、地域社会を理解する。

【到達目標】

1. 南房総の地域風土や歴史、人々の暮らしや文化の特徴を理解し、説明することができる。
2. 車いすでの生活を想定し、車いす生活者の視点で課題に気づくことができる。
3. 地域の特性をふまえ、課題の解決や快適な暮らしの提案に向けた自身の考えを述べることができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|------------|
| [01] 科目オリエンテーション・南房総の地域特性 | (吉野・松丸) |
| [02] 地域での活動準備(車いすでの生活を想定したテーマの検討) | (吉野・松丸) |
| [03] 地域での活動準備(地域を活性化するための取り組みについての理解) | (岡野) |
| [04] グループ演習：地域での活動準備(解決策を具体的にするための計画立案) | (吉野・松丸・岡野) |
| [05] 当事者からの情報収集 | (吉野・松丸) |
| [06] グループ演習：地域での活動(情報収集) | (吉野・松丸) |
| [07] グループ演習：地域での活動の振り返りとまとめ | (吉野・松丸) |
| [08] 地域での活動の振り返りとまとめ(プレゼンテーション) | (吉野・松丸・岡野) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

- ・活動に必要な資料を事前に読む(1時間)。
- ・活動後、振り返りを行い、気づきを深める(2時間)。

【評価方法・評価基準】

授業参加状況、地域での活動へのコミットメントの状況について70%。授業終了時に提出するレポートの成績30%。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

地域での活動について、随時、状況に沿って指導助言を行い、学生の考えを確認しながら学習を進める。

【アクティブラーニング】

グループワーク／プレゼンテーション／調査学習／PBL

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【備考】

特になし

授業科目名		ホスピタルアート		担当教員	須藤 光和	科目ナンバリング LE111
選択	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：講義15時間 演習15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

臨床美術の手法により看護師や患者など病院内で生活する人々自らが制作したアート作品を自らの手で展示し、アーティストと協力しながら実践していくホスピタルアートを、演習を通して体験的に学び、ホスピタルアートディレクションを行う基礎を学ぶ。

【到達目標】

1. ホスピタルアートの概念を理解する。
2. 臨床美術の手法で作品制作を楽しみ、作品制作が人にもたらす効果を理解する。
3. 自分で制作した作品を使って、アートが環境に与える影響を体験的に学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] ガイダンス・アートプログラム制作①：目に見えないものを感じて描く「音のアナログ画」
- [02] 講義：ホスピタルアート・臨床美術の概要／制作体験「色面とマチエール」画材への理解
- [03] アートコミュニケーション①：講義「存在論的人間観」
- [04] アートプログラム制作②：実感して描く「リンゴの量感画」
- [05] アートプログラム制作③：立体制作－1「かぼちゃの立体制作」造形表現
- [06] アートプログラム制作③：立体制作－2「かぼちゃの立体制作」色彩表現
- [07] アートコミュニケーション②：共同制作「2人で描くアナログ画」
- [08] アートコミュニケーション③：感性地図を用いたコミュニケーション／鑑賞会のロールプレイング
- [09] 講義：ホスピタルアートの実際
- [10] 作品展示の実践①：展示計画 グループワーク
- [11] 作品展示の実践②：展示準備 グループワーク
- [12] 作品展示の実践③：作品展示 グループワーク
- [13] 実践の基礎①：「さつまいもの量感画」試作
- [14] 実践の基礎②：「さつまいもの量感画」ロールプレイング
- [15] 実践の基礎③：展示作品鑑賞と振り返り・展示撤収 まとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：アートコミュニケーション③では、事前に感性地図を作成する。作品展示の実践①では、校内への作品展示プランについて自分のイメージを描画する(各1時間)。

事後学習：アートコミュニケーション①、講義：ホスピタルアートの実際、作品展示の実践①～③では授業内演習を振り返りレポートを記述する(各1時間)。

【評価方法・評価基準】

授業に取り組む姿勢(特にグループワーク時の出席と能動的な参加姿勢を重視する)・授業内レポートと作品提出 70%

課題レポート 30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題作品については、その都度授業内で振り返りをする。

ロールプレイングについては、グループ内で発表し、授業内で振り返る時間を持つ。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

金子健二編(2007)「臨床美術－認知症治療としてのアートセラピー」日本地域社会研究所

【参考書】

宇野正威・TOPPAN 芸造研(旧：芸術造形研究所)編(2013)『臨床美術－認知症医療と芸術のコラボレーション』金剛出版

関根一夫・TOPPAN 芸造研(旧：芸術造形研究所)編『「いてくれてありがとう」と言えますか?』TOPPAN 芸造研(旧：芸術造形研究所)発行

関根一夫(2020)『いてくれてありがとう－介護家族の話をひたすら聴き続けた牧師が伝えたいこと』いのちのことは社

【備考】

ホスピタルアートの学びは、2年次のオルタナティブセラピーの基礎になる。

臨床美術士として10年以上の現場経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		化学		担当教員	◎山崎 太義、市川 幸治		科目ナンバリング LE129
必修	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間 実験15時間			
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力				

【授業概要】

化学は人間の生命現象や環境に密接な関係を持っている。われわれの身の回りの原子や分子を取り上げながら、化学の基礎的知識を学ぶ。まず無機化学の基礎から始め、有機化学へと進み、薬学、栄養学、病理学、治療法の理解の基礎知識としての視点から学ぶ。

【到達目標】

1. 化学物質と化学反応について理解を深め、人間の正常な生活や疾病とその治療を理解するための基礎知識とする。
2. 看護に関係する物質の性質や利用方法を化学的に説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 講義 1・実験 1	化学の基礎知識(原子・分子・イオン・mol・Eq・浸透圧)	(山崎・市川)
[02] 講義 2	「もの」は何でできているの？	(山崎)
[03] 講義 3	「もの」の量はどうか表す？	(山崎)
[04] 講義 4	「もの」の成り立ち	(山崎)
[05] 講義 5	からだの中の「水」	(山崎)
[06] 講義 6	いきものを化学的に見てみよう 1	(山崎)
[07] 講義 7	いきものを化学的に見てみよう 2	(山崎)
[08] 講義 8	からだの中の化学反応	(山崎)
[09] 実験 2	浸透圧が血漿と同じ生理食塩水とブドウ糖液の作成	(山崎・市川)
[10] 実験 3	酸および塩基のモル濃度水溶液の作成	(山崎・市川)
[11] 実験 4	酸・塩基・塩の水溶液の pH を測定	(山崎・市川)
[12] 実験 5	緩衝液を調整して pH の変化を調べる	(山崎・市川)
[13] 実験 6	金属の炎色反応と物質の簡単な分析	(山崎・市川)
[14] 実験 7	果物の香り物質(エステル化合物)の合成	(山崎・市川)
[15] 実験 8	「香り」の化学	(山崎・市川)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：シラバスを参考に教科書を予習する(1時間)。

事後学習：教科書、配布資料を用い授業内容を復習する。理解できない内容があれば、担当教員に質問するか、あるいは自習によって解決しておくこと(1時間)。

【評価方法・評価基準】

筆記テスト(70%)、実験レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

「実験レポート」には訂正、評価し、返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

NHK 高校講座：化学基礎

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/kagakukiso/>

【教科書】

有本淳一、西沢いづみ著(2013). 看護系で役立つ化学の基本 化学同人

【参考書】

奈良雅之著(2018). 系統看護学講座 基礎分野 化学 医学書院

【備考】

特になし

授業科目名		生物学		担当教員	◎榎本 輝樹、大塚 喜人	科目ナンバリング LE132
必修	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

生命体の特性、自己増殖、外部との物質交換、エネルギーの転換、進化について理解するため、生命現象、細胞の構造、生体維持のエネルギー、生殖機能、遺伝、DNA、等に関する現象を選択的に取り上げて学び、看護学の専門基礎や専門分野の知識を学ぶための基礎知識とする。

【到達目標】

1. 生命体に共通な特徴、つまり自己増殖、外部との物質交換、エネルギーの転換、進化などについて理解する。
2. 細胞(動物と植物)の構造と細胞内器官の形成とその構造について説明できる。
3. 生体のエネルギーの転換のための基礎的なしくみについて説明できる。
4. 生体の生殖と発生、発生の進行、分化と形態形成の現象について説明できる。
5. 遺伝情報の伝達と発現のしくみ、ヒトの遺伝子と遺伝子の変異について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 進化と系統、さまざまな生命	(榎本)
[02] 細胞(動物と植物)の構造	(榎本)
[03] 生体のエネルギー転換(消化)	(榎本)
[04] 細胞内器官の形成と内呼吸	(榎本)
[05] 生体のエネルギー転換(糖代謝)	(榎本)
[06] 生体のエネルギー転換(脂質代謝・タンパク質代謝)	(榎本)
[07] 核酸代謝、DNA の複製と翻訳	(榎本)
[08] 遺伝と生殖	(榎本)
[09] 外呼吸と循環	(榎本)
[10] 恒常性と免疫	(榎本)
[11] 生物学と社会的課題	(榎本)
[12] 微生物分類(細菌・ウイルス・真菌・寄生虫)	(大塚)
[13] 病原微生物と感染症	(大塚)
[14] 感染制御(医療関連感染対策の基本)	(大塚)
[15] 免疫と自己	(榎本)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：Kame ドリルの実施・次週内容の予習(1 時間)。

事後学習：当該週内容の復習および演習(1 時間)。

【評価方法・評価基準】

最終試験60%、小課題および提出物40%

最終試験までに Kame ドリルスタンダードコースの所定科目をクリアすることを単位認定条件とする(詳細は講義内で説明)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答の掲示

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

Teams(学習教材の配布およびチェックテスト、リンク等の共有)

Forms(到達確認クイズ)

【教科書】

数研出版編集部(編集)(2024). 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録(改訂版) 数研出版株式会社

大学教育の差異部分と授業用の主資料は別途配布する。

【参考書】

指定なし

【備考】

特になし

授業科目名	物理学	担当教員	庄司 宏	科目ナンバリング LE133
選択	開講年次：1 年前期	単位：1 単位	授業形態：講義20時間 実験10時間	
関連する教育目標(必須要素)		I. 教養教育で培う普遍的基礎能力		

【授業概要】

人間の形態や生理的現象を理解するための基礎となる物理的原理や現象について学ぶ。生態に直接関係のある物理的 原理、力、圧力、浮力、電気、光と放射線、音と振動、温度と気体、液体、固体の関係や習性などについて理解し、看護学の専門基礎や専門分野の知識を学ぶための基礎知識とする。

【到達目標】

1. 物理学の基礎的知識を理解し、その原理と医学、看護学との関連性を検討する。
2. 人間の健康や安全な医療の提供のために生態現象に直接関係する物理的現象や原理を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 本講義のガイダンス(講義内容、受講の仕方・注意点、実験項目について)、物理学とは何か、物理学の看護学・看護活動への関連性について、力学(重力、重心、エネルギー、加速度、運動方程式、密度。看護学・看護活動への関連性)
- [02] 力学講義の継続 力学関連実験
- [03] 力学講義の継続 力学関連実験
- [04] 圧力(圧力と圧力差、粘性、粘度、毛細管現象流体。看護学・看護活動への関連性)
- [05] 圧力講義の継続
- [06] 熱学(熱運動、熱伝達、比熱と温度変化、理想気体と絶対温度、気体の圧力・体積・温度の関係。看護学・看護活動への関連性)
- [07] 熱学講義の継続 熱学関連実験
- [08] 電気(電気の安全性、電荷、電流、電圧、オームの法則、直流交流、電子部品とその働き、電気と磁気との関係。看護学・看護活動への関連性)
- [09] 電気講義の継続
- [10] 電気講義の継続 電気関連実験
- [11] 光と放射線(照度・輝度、光の屈折とレンズ、光ファイバーの原理、電磁波、放射線。看護学・看護活動への関連性)
- [12] 光と放射線の講義 光の関連実験
- [13] 音と振動(音の性質と特徴、振動と原理と特徴、音波と超音波。看護学・看護活動への関連性)
- [14] 音と振動講義の継続 音と振動関連実験
- [15] まとめ(物理内容と物理学と看護学・看護活動と関連性について)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前の予習として教科書を読みノートに重要と思われる用語・意味、内容を簡潔に纏める(1時間)。
事後学習：教科書、配布プリント、サブノートを用い授業内容を復習し、理解できたかを確認する。理解できない内容があれば、担当教員に質問するか、あるいは自習によって解決しておくこと(30分程度、また学生自身の理解での判断)。

【評価方法・評価基準】

実験レポート(40%)、課題レポート(60%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポート、実験レポートの傾向・重要度について授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

豊岡 了編：系統看護学講座 基礎分野 物理学 最新の“版、刷”で発行されたもの、医学書院

【参考書】

1. 数研出版編集部(編集)(2016)『視覚でとらえるフォトサイエンス 物理図録』数研出版
2. 田辺行人、塚田昌甫共著(1995)『物理学へのガイド』裳華房
3. 池内了編著(2004)『これだけは読んでおきたい科学の10冊』岩波ジュニア新書

【備考】

物理学の基礎的知識を理解することにより、その後の看護学の学習、看護実務に関連することを理解する。

授業科目名		体育		担当教員	森 克昭	科目ナンバリング LE134
選択	開講年次：１年通年		単位：１単位	授業形態：実習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

スポーツや運動における健康と安全に対する知識を深めるとともに、実際の運動を通し身体面や精神面に与える影響について理解する。さらにスポーツや運動を通して健康管理について考える機会とする。

【到達目標】

1. 体育の時間に行う運動を基礎として、日常定期的に運動し、フィジカルフィットネスを維持する習慣を身に付ける。
2. 実施する種目に関して、個人技能・集団技能の基本的な技術を習得する。

【履修条件】

指定なし

【授業計画】

- | | |
|-----------------|--|
| [01] オリエンテーション | 本科目の目的、目標、授業展開の内容やスポーツによる怪我と予防等について説明する。 |
| [02] バレーボール | 基礎(バレーボールのパス・レシーブ等の基本技術の習得) |
| [03] バレーボール | 基礎(バレーボールのアタック・サーブ等の基本技術の習得) |
| [04] バレーボール | 応用(バレーボールの連携プレーの練習及び試合形式での練習) |
| [05] バレーボール | 応用(バレーボールの試合形式の練習) |
| [06] アルティメット | 基礎・応用(アルティメットの歴史やルールの説明、基本技術の説明と技能習得及び実践ゲーム) |
| [07] インディアカ | 基礎・応用(インディアカの歴史やルールの説明、基本技術の説明と技能習得及び実践ゲーム) |
| [08] バトミントン | 基礎(バトミントンのストロークやサービス等の基本技術の習得) |
| [09] バトミントン | 応用(シングルスでの試合形式での練習) |
| [10] バドミントン | 応用(ダブルスでの試合形式での練習) |
| [11] バスケットボール | 基礎(バスケットボールの基本技術の習得) |
| [12] バスケットボール | 応用(バスケットボールの連携プレーの練習及び試合形式での練習) |
| [13] フットサル | 基礎(フットサルの基本技術の習得) |
| [14] フットサル | 応用(フットサルの連携プレーの練習及び試合形式での練習) |
| [15] 女子プロサッカー観戦 | |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：実施種目の基本的な技術やルールを事前に学習しておくこと(1時間)。

事後学習：授業後に個人・集団技能レベルの確認、実施種目の目標達成シートを作成し、次回の授業で提出すること(1時間)。

【評価方法・評価基準】

1. 受講態度(授業に対する積極性や貢献度、参加状況、安全に対する配慮等) 40%
2. 技能(基本技術の習得、各自の目標達成度) 30%
3. 理論(ルール・マナーの理解、レポートによる評価等) 30%とし、総合的に評価する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業後自己評価表で、その時間の成果・課題等を記録する。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

参考資料等は、必要時にクラスにて配布。

【参考書】

参考資料等は、必要時にクラスにて配布。

【備考】

(養選)保健師国家試験受験資格取得と養護教諭二種免許取得希望者のための選択必修科目

授業科目名	身体活動論	担当教員	◎村永 信吾、渡邊 恭啓、 松田 徹	科目ナンバリング LE135
選択	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：講義15時間	
関連する教育目標(必須要素)		I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力		

【授業概要】

自己の健康を保つためのエビデンスをもとに健康なライフスタイルとは何か、食事、睡眠、運動などの生活習慣が人間のライフスタイルにどのような影響を及ぼすか理解する。身体活動(運動)についての生理学的知識や活用法を学び、自己の健康づくりに役立てる能力を培う。

【到達目標】

ヘルスケアの専門職となる前に自らの健康づくりにむけた阻害要因および促進要因を理解する。身体活動の意義を通して、疾病予防のみならず健康増進にむけた正しい認識と知識を修得する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] ヘルスプロモーションの定義、健康日本21
ヘルスプロモーションの定義と健康日本21が掲げる目標を理解し、個人や地域が主体的に健康づくりを進めるための基本的な知識を学びます。健康維持や増進を支える社会的背景と実践の重要性を考察します。(村永)
- [02] メタボリックシンドロームの理解と対策
メタボリックシンドロームの定義、原因、影響を学び、具体的な予防法や改善策について理解を深めます。生活習慣病予防の観点から健康行動の実践と支援の重要性を学びます。(村永)
- [03] ロコモティブシンドロームの理解と対策(フレイル対策)
ロコモティブシンドロームやフレイルの概念を学び、高齢化社会における運動機能維持の重要性を理解します。予防と改善に向けた運動や生活習慣の具体的な方法について考察します。(村永)
- [04] たばこ健康を考える
たばこが健康に与える悪影響について理解を深め、禁煙の重要性や禁煙支援の方法を学びます。喫煙が疾病や生活習慣に及ぼす影響を再確認し、健康的な選択を促進します。(松田)
- [05] 腰痛の理解と対策
腰痛の原因や予防法について学び、適切な身体活動や姿勢管理を取り入れた対策を習得します。腰痛の発生メカニズムを理解し、日常生活での予防意識を高めます。(村永)
- [06] 運動と栄養
運動と栄養が健康維持・向上に与える影響を学び、その相互作用を基にした効果的な健康づくりの実践法を考察します。バランスの取れた生活習慣の重要性を理解します。(渡邊)
- [07] ストレスマネジメント
ストレスの発生メカニズムとその影響を理解し、リラクゼーションやコーピングスキルを用いた効果的なストレス対策を学びます。心理的健康を保つ手法を実践的に考察します。(松田)
- [08] 認知行動療法
認知行動療法の基本的な理論を学び、自分の考え方や行動を見直すことで健康づくりに役立てる方法を習得します。問題解決やストレス軽減の手法としての活用法を理解します。(村永)

【授業のために必要な事前・事後学習】

健康づくりは、運動、栄養、休養を意識した行動変容が大切。頭の理解のみならず自身の生活の振り返りとその改善を含めて取り組んでほしい(2～3時間)。

【評価方法・評価基準】

課題レポート(80%)、授業態度(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

必要に応じて質問を受けつける。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

資料配付

【参考書】

適宜参考書は紹介します。

【備考】

(養選)保健師国家試験受験資格取得と養護教諭二種免許取得希望者のための選択必修科目

授業科目名		基礎ゼミナールⅠ		担当教員	◎潮田千寿子、中川泰弥、千葉恵子、 松本幸枝、上田修代、那須真弓、 鈴木玲子、何雨竹、KELLY JAMES	科目ナンバリング LE137
必修	開講年次：１年前期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力			

【授業概要】

基礎ゼミナールⅠを通し、主体的学習活動に不可欠な基本的なスタディ・スキルズを身につけ、さらに大学での学修を理解する。また、グループワークを通し、コミュニケーション・チームワーク能力を培う。

【到達目標】

1. 基本的スタディ・スキルズ(情報リテラシー・読む・調べる・まとめる・書く・伝えるスキル)を身につける。
2. 大学での学習の実際と看護学の学び方について理解する。
3. グループ演習での学生・教員間の意見交換を通し、自分の考えを伝え、相手の考えを聞き、グループの考えをまとめる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] オリエンテーション・大学で何をどう学ぶか・看護学の学び方について・リーディングスキル・課題の明確化
- [02] ノート・テイキング
- [03] わかりやすい文章
- [04] 文章の要約
- [05] 文献とは何か
- [06] 情報モラル・情報収集(文献・書籍検索・ICTの活用)・情報の分析と整理
- [07] 文献検索と文献リストの作成
- [08] プレゼンテーションの基本スキル
- [09] レポートの作成方法①
- [10] レポートの作成方法②
- [11] 演習①
- [12] 演習②
- [13] グループ演習①：発表
- [14] グループ演習②：発表
- [15] 演習

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書の指定された箇所や資料を読み内容を理解しておく(1時間)。

事後学習：授業内で提示された課題を記述する(2時間)。

【評価方法・評価基準】

演習課題(75%) 課題探究・発表に向けた実践活動(25%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは必要なコメントを付しフィードバックする。演習への取り組みやグループ討議について適宜助言し、進めていく。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

学習技術研究会(2019)：知へのステップー大学生からのスタディ・スキルズ(第5版)，くろしお出版。

【参考書】

佐藤望編著(2020)：アカデミック・スキルズー大学生のための知的技法入門(第3版)，慶應義塾大学出版会。

北尾謙治他(2005)：広げる知の世界ー大学でのまなびのレッスン，ひつじ書房。

【備考】

基礎ゼミナールⅠの学習は、これからの大学でより良い学びをしていくための基礎となるため、主体的・積極的に取り組むこと。

授業科目名	基礎ゼミナールⅡ	担当教員	◎下 睦子、高橋 玲子、榎本 輝樹、 高野 海哉、有家 香、鵜沢 淳子、 路 璐、松谷 典洋、吉田 美和、 田邊 遥	科目ナンバリング LE138
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：演習30時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力		

【授業概要】

個人・家族・集団・地域における健康や環境に関する情報収集を行い、現状を分析し、課題や問題点を導き出す。基礎ゼミナールⅡでは、情報リテラシー、コミュニケーション・チームワーク能力、論理的思考力を培う。

【到達目標】

1. グループで関心のある個人・家族・集団・地域における健康や環境に関するテーマを決定することができる。
2. テーマに関する文献を用いて情報収集を行い、適正に活用できる。
3. テーマに関する情報収集内容を、批判的・論理的に吟味・分析・統合することができる。
4. グループディスカッションを通し、メンバー間の相互理解と検討を重ね、問題点の明確化をはかる。
5. テーマに関する情報収集内容とそこから導き出された問題点について、論理的にまとめ発表できる。
6. グループ内で積極的に意見交換を行い、協力し課題に取り組むことができる。

【履修条件】

「基礎ゼミナールⅠ」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 全体ガイダンス／オリエンテーション、「情報リテラシー」、「グループ学習」について (下・高橋(玲))
- [02] グループ演習：個人・家族・集団・地域における健康や環境に関するテーマについて、意見交換及び決定①
- [03] グループ演習：個人・家族・集団・地域における健康や環境に関するテーマについて、意見交換及び決定②
- [04] グループ演習：個人・家族・集団・地域における健康や環境に関するテーマについて、意見交換及び決定③
- [05] グループ演習：文献を用いたテーマに関する情報収集及び意見交換①
- [06] グループ演習：文献を用いたテーマに関する情報収集及び意見交換②
- [07] グループ演習：文献を用いたテーマに関する情報収集及び意見交換③
- [08] グループ演習：ディスカッションを通し、情報の吟味・分析・統合①
- [09] グループ演習：ディスカッションを通し、情報の吟味・分析・統合②
- [10] グループ演習：テーマに関する問題点の明確化①
- [11] グループ演習：テーマに関する問題点の明確化②
- [12] グループ演習：チームワークを活用した発表準備①
- [13] グループ演習：チームワークを活用した発表準備②
- [14] 全体発表
- [15] 全体発表、まとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前の予習として、教科書の指定された箇所や資料を読み内容を理解しておく(1時間)。

事後学習：グループ演習で必要な課題について調べ記述する(1時間)。

【評価方法・評価基準】

課題演習(70%) 課題探求・発表に向けた実践活動(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては必要なコメントを付しフィードバックする。演習への取り組みやグループ討議について適宜助言し、進めていく。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／調査学習

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

学習技術研究会(2019)：知へのステップ 第5版—大学生からのスタディ・スキルズ。くろしお出版。

【参考書】

佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦(2020)：アカデミック・スキルズ(第3版)——大学生のための知的技法入門。慶應義塾大学出版会。

北尾謙治・石川有香・西納春雄・実松克義・早坂慶子(2005)：広げる知の世界—大学でのまなびのレッスン。ひつじ書房。

【備考】

基礎ゼミナールⅡの学習は基礎ゼミナールⅢ、研究ゼミナールⅠ・Ⅱにつながるため、主体的・積極的に取り組むこと。

授業科目名		発達心理学		担当教員	阿部 慶賀	科目ナンバリング NB140
必修	開講年次： 1 年後期		単位： 2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

人間は身体的、心理的、社会的、霊的側面を持つ統合体であり、生涯にわたって発達していく。また、人間の知能、感情、人格の形成、対人関係、社会的役割などの発達には個人差がある。各発達過程における一般的様相や課題について、主な発達理論を比較しながら考察する。

【到達目標】

人間を生涯発達の視点から見て、各発達過程における特質や発達課題についての知識を取得し、ライフスパンに渡る看護の対象についての理解を深める。「看護現場で活用できる発達心理学の知識」の提供が目標であり、些末な知識の断片を越えて広く人間の「発達」に対して目を開いてもらえるようにすることが目標である。メディアに頻出する発達障害や少子高齢社会での高齢者を取り巻く話題などにも触れ、現場での患者対応の際に支障が出ないようテーマに親しんでもらう。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] はじめに：発達心理学の視点：発達のエリア / 遺伝か環境か / 発達段階と発達課題
- [02] はじめに：発達心理学の方法論：理論と実験 / 発達の順序 / 生得的性質と学習
- [03] 胎児期・新生児期(～生後1か月)：誕生直後の能力 / 気質 / 進化心理学
- [04] 乳児期(1か月～1歳半)：情緒の表現 / 社会性の基礎 / アタッチメント(愛着)
- [05] 乳児期(1か月～1歳半)：第一反抗期 / 言語獲得 / 二足歩行の開始 / 遊びの意味
- [06] 幼児期(1歳半～5歳)前期：語彙爆発と言語習得 / 自己認知 / 社会性の芽生え / うその理由
- [07] 幼児期後期：自我の発達 / 論理の芽生え / 数の概念 / 保育園・幼稚園の生活 / 他者への関心
- [08] 児童期(小学生)：読み書き・計算能力の向上 / 論理的思考と知能指数 / グループといじめ
- [09] 前半の総括と確認(第6回までの内容を出題。第10回にて返却・解説)
- [10] 青年期(中・高、大学生)：人間関係の変化 / 第2次性徴 / 自意識過剰と社会性 / 心理的離乳 / 将来への不安
- [11] 成人期(20代前半～40代前半)：キャリアの積み方、人生のステージ変化(恋愛・結婚・離婚・子育て)
- [12] 成人期(40代後半～60代、定年以降)：中年危機 / 子離れ / 退職後の生活 / 終活
- [13] 技の熟達と熟練者の心理
- [14] さまざまな障害とその支援：身体に関わる障害、脳性麻痺、発育
- [15] さまざまな障害とその支援：自閉症、ADHD、限局性学習障害、アスペルガー症候群、言語障害

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書の該当範囲を事前に読んでおく(1時間)。

事後学習としては発達の視点から看護現場での課題(特に多様な年齢層の患者とのコミュニケーション)を捉えることが望まれる(1時間)。

【評価方法・評価基準】

授業参加と貢献度：40%

中間テスト(期間内に特定課題への試験答案を提出；理解度で評価する)：30%

期末テスト(期間内に特定課題への試験答案を提出；理解度で評価する)：30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

テストに関しては事前に十分なガイダンス(その目的や答案作成のコツなど)を行う。採点結果に関してはその総括を授業内において提示する。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

林洋一(監修)(2010). 史上最強図解よくわかる発達心理学 ナツメ社

【参考書】

指定なし

【備考】

教科書の図や表だけでなく、動画など視聴覚教材も多用しながら、できるだけ分かり易く発達心理学の基本を説明する。

授業科目名		人間機能学(形態と機能)		担当教員	高野 海哉	科目ナンバリング NB144
必修	開講年次： 1 年後期		単位： 4 単位	授業形態： 講義60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

人体で営まれている生命現象を3つの群、①生命を維持する働き(植物機能)と、②生命を活用する働き(動物機能)、そして③人体を保護して種を保存する機能(防御機能)に区別した視点から、解剖学と生理学を連携させながら学ぶ。

【到達目標】

- (1) 人体を構成する器官系の構成および皮膚の構造について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (2) 血液の特徴やはたらきについて、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (3) 体液および循環器系について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (4) 呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (5) 消化器系の構造と栄養素を取り込んで利用する仕組みについて、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (6) 腎臓の働きと泌尿器系の構造について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (7) 全身の骨格、骨格筋や関節、靭帯について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (8) 神経系の構造と機能について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (9) 感覚器系の構造と機能について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (10) 恒常性の維持機構・自律神経系の仕組み・内分泌系の特徴について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (11) 免疫系、生体防御の仕組みについて、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。
- (12) 生殖器系の構造と機能について、用語を正しく暗記し、授業で扱った範囲で理解して説明することができる。

【履修条件】

生物学を修得していること。

【授業計画】

- [01] 授業ガイダンス 人体の基本構造(1)：人体の構造
- [02] 人体の基本構造(2)：人体を構成する器官系 人体を構成する組織
- [03] 血液(1)：血液の概要 血漿の成分 血球の種類
- [04] 血液(2)：血球のはたらき 血球の産生 酸素と二酸化炭素の運搬
- [05] 循環器系(1)：循環器系の概要 心臓
- [06] 循環器系(2)：動脈系 静脈系 循環の調節
- [07] 循環器系(3)：微小循環系(毛細血管) リンパ系
- [08] 呼吸器系(1)：呼吸器系の概要 気道の特徴 肺の形態
- [09] 呼吸器系(2)：ガス交換 呼吸運動 呼吸の調節
- [10] 消化器系(1)：消化器系の概要 口腔から胃まで(咀嚼と嚥下)
- [11] 消化器系(2)：小腸(栄養分の消化と吸収) 大腸(便の形成と排便)
- [12] 消化器系(3)：肝臓・胆嚢・膵臓
- [13] 腎・泌尿器系(1)：泌尿器系の概要 腎臓
- [14] 腎・泌尿器系(2)：尿路 排尿の調節
- [15] 運動器系(1)：骨組織と筋組織の特徴
- [16] 運動器系(2)：体幹の骨格と筋
- [17] 運動器系(3)：四肢の骨格と筋
- [18] 神経系(1)：神経系の概要 神経細胞・神経組織の特徴 中枢神経系の構造
- [19] 神経系(2)：大脳 小脳 脳幹
- [20] 神経系(3)：脳神経 脊髄と脊髄神経 随意運動指令の伝達 体性感覚情報の伝達
- [21] 神経系(4)：脳脊髄膜 脳の血管系
- [22] 感覚器系(1)：体性感覚 嗅覚 味覚
- [23] 感覚器系(2)：視覚 聴覚 平衡覚
- [24] 恒常性の維持・体内環境の調節(1)：自律神経系
- [25] 恒常性の維持・体内環境の調節(2)：内分泌系
- [26] 恒常性の維持・体内環境の調節(3)：体温の調節 血糖の調節 体液の水分電解質の調節
- [27] 生体防御のしくみ(1)：非特異的生体防御 特異的生体防御
- [28] 生体防御のしくみ(2)：特異的生体防御のしくみ 血液型
- [29] 生殖系(1)：男性生殖系 女性生殖系
- [30] 生殖系(2)：胎児の付属構造(胎盤・臍帯) 胎児

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前に講義で使用する「講義テキスト」を配布するので、各回の授業内容に該当する部分を一読し、できれば講義テキスト文章中のカッコ内を埋める。(30分)

事後学習：講義範囲を購入した教科書で調べ、講義中にとったメモやノートに追加してまとめる。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

「Kameドリル」に提示した確認問題の実施状況や解答状況を適宜確認し、進捗状況の確認や内容理解の補足を行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

「Kameドリル」にて授業各回の確認問題を提示し、各回の授業終了後に取り組めるようにして内容理解を促す。

【教科書】

- ・講義前に本講義で使用する「講義テキスト」を配布する。
- ・佐藤達夫【監修】(2016)「からだの地図帳 解剖学用語」(講談社)

【参考書】

1. 板井建 岡田隆夫 宇賀貴紀(2023) 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第11版(医学書院)
2. 武田裕子 林正健二(2023) ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1)解剖生理学第5版(メディカ出版)
3. 橋本尚詞 鯉淵典之(2020) 新体系看護学全書 人体の構造と機能 解剖生理学 第4版(メジカルフレンド社)

【備考】

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を見て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力も求められます。その際、身体に異常に気がつくこと、異常を知ることが必要となるのですが、正常な身体の仕組みと働きが損なわれると異常となることから、異常に気付くには正常な人体の仕組みと働きを知っている必要があります。本科目は、正常な人体の構造と機能について学ぶ科目です。ぜひ真剣に取り組んで、人体の構造と機能に興味を抱いていただけると幸いです。

授業科目名		看護学概論		担当教員	◎休波 茂子、有家 香	科目ナンバリング NF150
必修	開講年次：１年前期		単位：２単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

人間と環境、健康、ケアリング、生活の視点から看護について理解する。看護の概念と本質についてどのように発達して現代に至ったのか理解する。ヒューマンケアの基本に関する看護実践の基礎知識として、人間への愛と尊厳の重視、人権の擁護や倫理性を基本にしたケアの必要性など、多様な看護の視点により探求する。

【到達目標】

1. 人間への愛と尊厳の重視、人権の擁護や倫理性を基本にしたケアの在り方(ケアリング)について説明できる。
2. 看護の定義について説明できる。
3. 主要な看護モデルおよび看護理論の特徴について説明できる。
4. ナイチンゲールの業績と近代看護への貢献について説明できる。
5. 看護学の基礎的概念(人間、環境、健康、看護)について説明できる。
6. 看護の機能と看護活動について説明できる。
7. 看護の役割と看護師としてのキャリアについて説明できる。
8. 看護におけるマネジメントについて説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| [01] 看護とは、ケアリングとは、看護学とは | (休波) |
| [02] 現代の看護の定義と看護モデル | (休波) |
| [03] 主要な看護モデルと看護理論(1) ーニード論及び相互作用論ー | (休波) |
| [04] 主要な看護モデルと看護理論(2) ーシステム論ー | (休波) |
| [05] 主要な看護モデルと看護理論(3) ー全体論ー | (休波) |
| [06] 看護の歴史(1)ナイチンゲールと看護の歴史 | (有家) |
| [07] 看護の歴史(2)諸外国及び我が国の看護の歴史 | (有家) |
| [08] 人間と環境(1) ーグループワークー | (休波・有家) |
| [09] 人間と環境(2) ーグループ発表ー | (休波・有家) |
| [10] 看護の対象「人間」について | (休波) |
| [11] 看護の対象「環境」と「生活」 | (休波) |
| [12] 看護の対象「健康」と保健医療システム | (休波) |
| [13] 看護の4つの概念(人間、健康、環境、看護) | (有家) |
| [14] 看護の法的側面と看護活動 | (有家) |
| [15] 看護の役割とキャリア、看護ケアのマネジメント | (休波) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された課題の記述、毎授業時に提示された内容の予習(2時間)

事後学習：講義資料をもとに重要なキーワードを中心に学習内容の復習、提示された課題の記述(2時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験：80%、課題レポート10%、グループ発表10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

試験や課題レポートについては評価し、傾向をまとめて全体にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

志自岐康子他編集(2022). 基礎看護学① 看護学概論 第7版,MC メディカ出版

【参考書】

松木光子編集(2011). 看護学概論 第5版, NOUVELLE HIROKAWA

松木光子他編集(2012). 看護理論ー理論と実践のリンケージー, NOUVELLE HIROKAWA

【備考】

この科目は看護学分野の基本的な知識となるためキーワードとなる用語や定義は必ず理解しておくこと。
看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		基礎看護技術論		担当教員	◎休波 茂子、鵜沢 淳子	科目ナンバリング NF151
必修	開講年次： 1 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

看護学の学問体系において、その基盤となる専門領域が基礎看護学である。看護師は看護技術を用いて看護を実践していくことから、看護活動の前提となる看護技術を EBN の視点から考察する。さらに、広汎な看護の対象に提供する看護技術を EBN の視点から探求することで、科学的思考やクリティカルシンキング等の基礎的思考能力を修得する。

【到達目標】

1. 看護技術の定義、展開過程、特殊性について説明できる。
2. 看護技術において必要な「観察」について説明できる。
3. 看護実践の前提となる技術について説明できる。
4. 看護技術の原則「安全」と「安楽」について説明できる。
5. 看護技術のエビデンスについて説明できる。
6. 看護技術における倫理的問題について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------|
| [01] 「技術」と「看護技術」 | (休波) |
| [02] 看護技術の展開過程、特殊性と独自性、看護の方法としての「看護技術」 | (休波) |
| [03] 看護技術において必要な「観察」 | (鵜沢) |
| [04] 看護実践の前提となる技術 | (休波) |
| [05] 看護技術の原則「安全」とは | (鵜沢) |
| [06] 看護技術における「安楽性」 | (鵜沢) |
| [07] 看護技術のエビデンス(グループワーク) | (休波・鵜沢) |
| [08] 看護技術における倫理的問題 | (休波) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に事前課題を提示するため必ず行って授業に臨む(2時間)

事後学習：講義時に示された課題を行う。また講義資料をもとに学習内容の復習を行う(2時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験：80%、課題レポート20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

試験や課題レポートについては評価し返却をする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

特になし

【参考書】

- 志自岐康子他編集(2017). ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 第6版, MC メディカ出版.
 川島みどり監修(2003). 実践看護技術学習支援テキスト基礎看護学, 日本看護協会出版会.
 阿曾洋子他(2006). 実践へつなぐ看護技術教育, 医歯薬出版.
 川島みどり(2010). 看護技術の基礎理論, ライフサポート社.

【備考】

この科目は基礎看護学「日常生活援助論」「治療援助論」「看護展開論Ⅱ」と関連が深く基礎となるため理解しておくこと。

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		日常生活援助論		担当教員	◎鵜沢 淳子、有家 香、 中川 泰弥、田邊 遥	科目ナンバリング NF152
必修	開講年次：1年後期		単位：2単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

基礎看護技術に必要な知識・技術・態度の視点から観察技術、感染予防技術、クライアントの環境の整備やプライバシーの保護、身体の清潔、睡眠、移動、衣生活、食事、排泄などの日常生活援助技術を修得する。また援助に伴う患者の心理を考慮した援助方法についての学びを深める。

【到達目標】

1. 日常生活に必要な基礎的生活援助技術とそのエビデンスを学習し、対象に合わせた日常生活行動への支援を修得する。
2. 看護技術の原理・原則を理解し、日常生活行動に関わる基本的技術を安全・安楽に実施する技術を修得する。
3. 看護技術を行う上で感染予防の技術を修得し、その根拠を説明することができる。
4. 看護技術を実施する上で必要な観察技術を身につけ、実施することができる。
5. 日常生活援助を受ける患者の心理状態を考え、患者に配慮した態度について考えることができる。
6. グループでの学習を通して、協働性とコミュニケーション能力の向上を養い、実践的なスキル修得へ向けての考え方を修得する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------------|
| [01] 講義：日常生活援助とは | (鵜沢) |
| [02] 講義：環境を整える | (鵜沢) |
| [03] 演習：環境を整える技術の実際_1 (ベッドメイキング) | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [04] 演習：環境を整える技術の実際_2 (環境整備とシーツ交換) | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [05] 講義：バイタルサイン_1 | (鵜沢) |
| [06] 講義：バイタルサイン_2 | (鵜沢) |
| [07] 演習：バイタルサインの測定_1 (血圧測定の実際) | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [08] 演習：バイタルサインの測定_2 (バイタルサイン測定の実際) | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [09] 講義：活動と休息 | (鵜沢) |
| [10] 演習：活動と休息を促す技術の実際_1 (体位変換) | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [11] 演習：活動と休息を促す技術の実際_2 (車いすとストレッチャーへの移動・移送) | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [12] 演習：技術チェック | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [13] 演習：課題演習_1 | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [14] 演習：課題演習_1 | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [15] 講義：清潔の援助 | (中川) |
| [16] 演習：清潔の援助の実際_1 (寝衣交換) | (中川・鵜沢・有家・田邊) |
| [17] 演習：清潔の援助の実際_2 (全身清拭) | (中川・鵜沢・有家・田邊) |
| [18] 演習：清潔の援助の実際_2 (全身清拭) | (中川・鵜沢・有家・田邊) |
| [19] 演習：清潔の援助の実際_3 (洗髪) | (中川・鵜沢・有家・田邊) |
| [20] 演習：清潔の援助の実際_3 (洗髪) | (中川・鵜沢・有家・田邊) |
| [21] 演習：清潔の援助の実際_4 (部分浴) | (中川・鵜沢・有家・田邊) |
| [22] 講義：食事の援助 | (田邊) |
| [23] 講義：排泄の援助 | (有家) |
| [24] 演習：排泄の援助の実際_1 (便器・尿器の使い方) | (有家・鵜沢・中川・田邊) |
| [25] 演習：排泄の援助の実際_2 (オムツ交換・陰部洗浄) | (有家・鵜沢・中川・田邊) |
| [26] 演習：排泄の援助の実際_2 (オムツ交換・陰部洗浄) | (有家・鵜沢・中川・田邊) |
| [27] 演習：技術チェック_2 | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [28] 演習：技術チェック_2 | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [29] 演習：課題演習_2 | (鵜沢・有家・中川・田邊) |
| [30] 演習：課題演習_2 | (鵜沢・有家・中川・田邊) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に提示された事前課題を行ない、該当単元に必要な基礎的知識を修得する。(1～2時間)

事後学習：授業で使用了した資料をもとに演習の自己練習により、振り返りによる自己評価と自己の課題を明確にする。(2～3時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験(80%)、技術チェック(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各演習で提出した課題レポートについては、教員のコメントを入れ、授業終了後に返却する。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

- 1) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版。
- 2) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版。

【参考書】

- 1) 医療情報科学研究所 編(2024)：看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第2版. メディックメディア.
- 2) 志岐康子他編集(2016)：基礎看護学3. MC メディカ出版.
- 3) 有田清子他 著(2021)：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 第18版 医学書院.
- 4) 深井喜代子他 編(2008)：新・看護生理学テキスト. 一看護技術の根拠と臨床への応用 南江堂.
- 5) 深井喜代子他 編(2019)：改訂第2版 基礎看護学テキスト. EBN 志向の看護実践, 南江堂.
- 6) 深井喜代子他 編(2021)：第5版 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護学Ⅰ. メヂカルフレンド社.
- 7) 深井喜代子他 編(2021)：第5版 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護学Ⅱ. メヂカルフレンド社.
- 8) ナースング・サプリー編集委員会(2023)：第2版 イメージできる解剖生理学. MC メディカ出版.

* その他講義中に適宜提示

【備考】

- ① 看護学概論、基礎看護学技術論での学びをもとに患者に行われる日常生活上展開される援助技術の根拠を明確にし、基本技術を身につける。
- ② 療養生活を送る患者の身体・心理的側面を行われる看護技術の中に反映し、臨床経験の知識をもとに身体的でわかりやすい方法で教授する。

授業科目名		基礎看護学臨地実習Ⅰ		担当教員	◎鶴沢淳子、有家香、中川泰弥、 田邊 遥、休波茂子	科目ナンバリング NF156
必修	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：臨地実習45時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

医療機関の主な部門を見学することにより、その全体像について把握する。看護者のケアに参加することで看護の役割、患者(利用者)の生活環境、看護におけるコミュニケーションの重要性について学ぶ。また、学生が自ら患者(利用者)とのコミュニケーションを行うことで、看護者－患者関係について考える機会とする。

【到達目標】

1. 医療施設の主な部門の全体像について把握することができる。
2. 看護の役割を理解することができる。
3. 患者の生活環境について理解することができる。
4. 患者とのコミュニケーションを通して、その相互作用について気づくことができる。

【履修条件】

看護学概論を修得していること。

【授業計画】

実習1日目 オリエンテーション(実習病院の概要)、カンファレンス
 実習2日～4日目 病院実習、カンファレンス
 実習5日目 面接評価、実習の振り返り

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：看護学概論、基礎看護技術論、日常生活援助論での学びを振り返りまとめる。事前課題としての主要な部門の機能と役割について記述する(2～3時間)。

事後学習：1日の実習終了後に各自体験したことを振り返り記述する。実習での学びを振り返り課題レポートとして記述する(2～3時間)。

【評価方法・評価基準】

実習目標による評価(40%)、施設の主な部門についての学びのレポート(15%)、課題レポート(20%)、カンファレンス参加度(10%)、実習への取り組み(15%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については2年前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

- 1) 志自岐康子他編集(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論，メディカ出版。
- 2) 松木光子編集(2011)：看護学概論第5版，NOUVELLE HIROKAWA。
- 3) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版
- 4) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版
- 5) 深井喜代子他 編(2008)：新・看護生理学テキスト. ー看護技術の根拠と臨床への応用 南江堂。
- 6) 深井喜代子他 編(2021)：第5版 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護学Ⅰ. メディカルフレンド社。
- 7) 深井喜代子他 編(2021)：第5版 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護学Ⅱ. メディカルフレンド社。
- 8) ナーシング・サプリー編集委員会(2023)：第2版 イメージできる解剖生理学. MC メディカ出版。

【備考】

- ① 基礎看護学臨地実習Ⅰでの学びは2年前期の基礎看護学に行われる看護展開論Ⅰ・Ⅱ、治療援助論に関連する。またこの実習の単位を修得していない場合、基礎看護学臨地実習Ⅱの履修はできない。
- ② 看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		地域の健康と看護		担当教員	◎鶴岡 章子、上田 修代	科目ナンバリング NM160
必修	開講年次：１年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

地域看護は、地域で生活する人びとの健康や QOL の向上を目指す活動である。本科目では、人々の生活の場としての「地域」を理解するとともに、地域における看護活動の対象や対象の健康課題を探究し、保健医療福祉介護等の連携・協働、地域における関連機関のネットワーク構築等の社会情勢に応じた対応の必要性を理解する。

【到達目標】

1. 人々の生活の場としての「地域」を理解できる。
2. 地域で生活する人々の健康課題の概要を理解できる。
3. 一次・二次・三次予防に関わる地域看護活動の目的と方法を理解し、人々が自らの健康問題を改善する能力を高めるために、看護職が支援することの意義を理解できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|-------------------------------|------|
| [01] 授業オリエンテーション、地域とは、地域の健康とは | (鶴岡) |
| [02] 社会生活環境の変化と地域の健康課題 | (鶴岡) |
| [03] 地域看護の理念と機能、地域看護活動の歴史 | (鶴岡) |
| [04] 地域看護の目的と対象、活動方法 | (鶴岡) |
| [05] 地域看護活動の場、地域における連携・協働 | (鶴岡) |
| [06] 地域看護活動の展開、地域看護活動の主なツール | (上田) |
| [07] 生活構造・生活習慣と疾病予防 | (鶴岡) |
| [08] 地域看護活動と保健師の役割 | (鶴岡) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：日頃から新聞、メディアの情報等に関心をもち、現代社会における保健医療福祉介護分野の課題を理解しておく。教科書の該当箇所を事前に学習しておく(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を授業時に配布した資料や教科書等で復習しておく(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(80%)、課題レポート(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

鳩野洋子他(2024)：公衆衛生看護学.jp(第6版)，インターメディカル。

【参考書】

厚生労働統計協会：国民衛生の動向(最新版)，厚生労働統計協会。

【備考】

本科目は、後に続く公衆衛生看護学関連科目の基礎となる科目である。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目(看護師教育課程は必修科目)

授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教員	◎本田彰子、岡本明美、長江弘子、東森由香、吉野妙子、鈴木玲子、松丸直美、吉田美和	科目ナンバリング NM162
必修	開講年次：1年後期	単位：2単位	授業形態：講義30時間	
関連する教育目標(必須要素)		IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力		

【授業概要】

地域包括ケアの概念と様々なライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援、サービス提供のシステムを学ぶ。さらに医療施設のみにとどまらず地域で生活する多様な人々を対象とした看護の他職種や患者・家族に対する役割を学び、さらに地域包括システム全体の理解を深め、保健医療と看護についての包括的な視野を得る。

【到達目標】

1. 地域包括の概念について理解できる。
2. さまざまなライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援、サービス提供のシステムについて理解できる。
3. 医療施設のみにとどまらず地域で生活する多様な人々を対象とした看護の多職種や患者・家族に対する役割について理解する。
4. 地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携協働し活動する看護の役割について学ぶ。
5. 地域包括ケアの取り組みの実際を知る。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|------------|
| [01] 地域包括ケアシステムの背景と概要 | (本田) |
| [02] 『学生自身の日常生活を「生活者」の視点で振り返る』課題1 | (東森) |
| [03] 地域での生活を支える保健医療福祉サービス 1回目授業の確認テスト Forms | (本田) |
| [04] 『事例を通して生活を支えるサービス内容を記述する』課題2 | (東森) |
| [05] 地域包括ケアと多職種連携のシステム 3回目授業の確認テスト Forms | (本田) |
| [06] 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 5回目授業の確認テスト Forms | (本田) |
| [07] 地域包括ケアと多職種連携のシステム | (本田) |
| [08] 課題3:『事例のケア内容からケアの担い手と自助・互助・共助・公助を分類する』 | (東森) |
| [09] 課題4『事例の地域生活を支える地域ケアマップを作成する』確認テスト | (本田・東森・鈴木) |
| [10] 地域包括ケアの実際(成人) | (岡本) |
| [11] 地域包括ケアの実際(高齢者) | (長江) |
| [12] 地域包括ケアの実際(精神) | (松丸) |
| [13] 地域包括ケアの実際(ウィメンズ) | (吉田) |
| [14] 地域包括ケアの実際(小児) | (吉野) |
| [15] 住み慣れた地域での暮らしの実現に向けて | (本田) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業内で提示された事前学習を記述する(2時間)。

事後学習：授業の学習内容の復習と課題の記述を行う(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験30% 小テスト30% 課題レポート30% 授業への参加・取り組み・感想文10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについてフィードバックし、学びを深められるようにする。

【アクティブラーニング】

ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

Forms による確認テスト

【教科書】

関永信子編著(2021):『地域包括ケアシステムの基本的理解と実践』翔雲社。

【参考書】

特に指定しない。毎回の授業で資料を配布する。

【備考】

1回目の授業で受講にあたっての注意点を確認する。必ず出席をすること。
看護師として3年以上の臨床経験を持つ教員が移動する。

2025

2 年 次

基礎教養分野**[人間の理解]**

オルタナティブセラピー	58
-------------------	----

[外国語]

English Ⅲ (日常会話—一般)	59
看護英語	60

[人間と環境]

日本国憲法	61
-------------	----

[人間と健康]

統計学	62
-----------	----

[ゼミナール]

基礎ゼミナールⅢ	63
----------------	----

専門基礎分野**[生命科学]**

疫学Ⅰ (基礎)	64
疫学Ⅱ (応用)	65
保健統計Ⅰ (基礎)	66
保健統計Ⅱ (応用)	67
健康支援と社会保障制度	68
人間病態学Ⅰ	69
人間病態学Ⅱ	70
栄養・生化学	71
臨床薬理学Ⅰ (基礎)	72
公衆衛生学	73

看護専門分野**[基礎看護学]**

医療安全	74
治療援助論	75
看護展開論Ⅰ (ナーシングプロセス)	76
看護展開論Ⅱ (ヘルスアセスメント)	77
基礎看護学臨地実習Ⅱ	78

[実践看護学]

成人看護学概論	79
慢性期成人看護援助論	80
高齢者看護学概論	81
精神保健看護学概論	82
精神保健看護援助論	83
在宅看護学	84
ウィメンズヘルス看護学概論	85
小児保健看護学概論	86

[看護の統合と実践]

公衆衛生看護とヘルスプロモーション	87
看護教育	88
看護と法律	89

[公衆衛生看護学]

学校保健活動論	90
---------------	----

授業科目名		オルターナティブセラピー		担当教員	◎千葉 恵子、松岡 純子	科目ナンバリング LE228
選択	開講年次： 2 年前期		単位： 1 単位	授業形態： 演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力の育成			

【授業概要】

補完代替療法の概念を学ぶとともに、患者の身体的・精神的苦痛をいやすことを目的として実施されている代替療法の実際について学ぶ。

【到達目標】

1. 補完代替療法の概念について理解する。
2. 看護におけるオルターナティブセラピー(代替療法)を理解する。
3. 美術療法のひとつとして臨床美術の概念を把握する。
4. 臨床美術の制作と実践を通してその効果を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------|------|
| [01] 補完代替療法の概要について | (千葉) |
| [02] 看護における補完代替療法の現状と問題 | (千葉) |
| [03] 補完代替療法の種類と方法について | (千葉) |
| [04] 症状コントロールと補完代替療法 | (千葉) |
| [05] がん患者と補完代替療法 | (千葉) |
| [06] アートプログラム制作「五感で描く・香りのアナログ画」 | (松岡) |
| [07] 臨床美術の概要とアートプログラム制作「思い出の空」 | (松岡) |
| [08] アートプログラム制作「土偶」 | (松岡) |
| [09] アートコミュニケーション：ギャラリートーク | (松岡) |
| [10] 実践研究：実習プログラム「なすの量感画」試作 | (松岡) |
| [11] 実践研究：実習プログラムのロールプレイング | (松岡) |
| [12] アートプログラム制作「アジの干物を描く」 | (松岡) |
| [13] アートプログラム制作「石のアナログ画」 | (松岡) |
| [14] アートプログラム制作「スイカの残暑見舞い」 | (松岡) |
| [15] 実践研究：実習報告 | (松岡) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業内で提示した内容について事前に準備を行う(2～3時間)。

事後学習：授業内で説明した内容の実習を実施し期日までに提出する(2～3時間)。

【評価方法・評価基準】

小テスト20% レポート45%(講義レポート20%・演習レポート25%) 作品提出35%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習課題レポートについては、授業内で発表し合い共有する時間を持つ。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

- 宇野正威 芸術造形研究所編著(2013)：認知症医療と芸術のコラボレーション 金剛出版
金子健二 編著(2013)：臨床美術～認知症治療としてのアートセラピー 日本地域社会研究所
今西二郎，荒川唱子(編集)(2015)：アロマセラピー入門 日々の看護に生かすホリスティックアプローチ 第2版，日本看護協会出版会
荒川唱子，小板橋喜久代(編集)(2001)：看護にいかすリラクセーション技法 ホリスティックアプローチ，医学書院

【備考】

授業で実施する芸術療法以外の代替療法については、興味を持った書籍を選定し読むようにする。演習では、アクティブラーニングを取り入れ、グループワーク、グループディスカッションを通して双方向で学びを深める。

授業科目名		English III (日常会話－一般)		担当教員	KELLY JAMES	科目ナンバリング LE218
選択	開講年次： 2 年後期		単位： 1 単位	授業形態： 演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、V. 国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

English I と II に比べて、英会話能力を更に向上するための環境と、多様な状況に必要な会話の機会を持つ。英語的表現やリスニングスキルを更に向上させ、会話をすることを恐れず、複数の English Speakers から成り立つグループの中で、カジュアルに会話に参加する態度と能力を身につける。

【到達目標】

1. 英語で自分の感情を表現でき、また複雑な概念を理解できる。
2. 語彙、慣用句、文法スキルと理解力を向上する。
3. 日常会話以外の様々な状況において、自信を持って英語力を発揮できる。

【履修条件】

English I (日常会話－初級) と English II (日常会話－中級) を履修し、各科目で75%以上のスコアを獲得した学生の履修を推奨する。

【授業計画】

- [01] Personalities, Describing personal change; Agreeing and disagreeing.
- [02] Personalities, Describing personal change; Agreeing and disagreeing.
- [03] Personalities, Describing personal change; Discussing the pros and cons.
- [04] Discussing the pros and cons; Describing duties.
- [05] Narrating a story; Describing past events.
- [06] Narrating a story; Describing past events.
- [07] Expressing emotions; Describing cultural expectations; Giving advice.
- [08] Expressing emotions; Describing cultural expectations; Giving advice.
- [09] Describing problems; Making complaints; Explaining needs.
- [10] Describing problems; Making complaints; Explaining needs.
- [11] Having things done; Giving and soliciting advice.
- [12] Having things done; Giving and soliciting advice.
- [13] Presentations, Q&A session.
- [14] Presentations, Q&A session.
- [15] Presentations, Q&A session.

【授業のために必要な事前・事後学習】

Before each lesson, students must do the assigned homework and review the previous lesson (grammar, vocabulary, and phrases) for 2-3 hours. Students should also follow along with the Online Self-Study provided in their textbook. Verbal communication is the target for this course.

【評価方法・評価基準】

授業参加レポート×2	20%	小テスト×5	25%
授業参加	20%	全体発表	35% (発表 20%、質疑応答 15%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては授業中に解答を示し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

Richards, Jack C. Interchange Level 3 5th. Ed. Student's Book 1. Cambridge Univ. Press. New York, NY. 2017

【参考書】

日本語英語辞書

【備考】

携帯電話の使用を禁止する。

授業科目名		看護英語		担当教員	KELLY JAMES	科目ナンバリング LE219
選択	開講年次： 2 年前期		単位： 1 単位	授業形態： 演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、V. 国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

看護の臨地実践に必要な用語や表現、日常英会話能力を身に付け、対象者の文化的背景を考慮した態度やマナーを持って振舞う能力を修得する。

【到達目標】

1. 臨地実践に必要な用語を英語で表現できる。
2. 臨床における簡単な日常英会話が理解でき、相手に自分の意図を理解してもらえる。
3. 異文化の対象者の文化的背景を考慮した態度を身に付ける。

【履修条件】

English I (日常会話－初級)と English II (日常会話－中級)を履修し各科目で75%以上のスコアを獲得した学生の履修を推奨する。

【授業計画】

- [01] Hospital Departments
- [02] Application Forms
- [03] Parts of the Body
- [04] Illnesses
- [05] Consolidation Review
- [06] Daily Routine
- [07] Hospital Objects
- [08] Locations of Hospital Objects
- [09] Hospital Directions and Instructions
- [10] Consolidation Review
- [11] Directions (Outside the Hospital)
- [12] Chatting with a patient
- [13] Taking a Medical History
- [14] Hospital Procedures
- [15] Consolidation Review

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された課題について事前に調べておくこと(1時間)。

事後学習：講義資料を基に学習内容の復習、課題の記述を行うこと(1時間)。

【評価方法・評価基準】

授業参加リフレクションレポート(15%)

小テスト×3(30%)

課題×3(45%)

授業参加・宿題(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては授業中に解答を示し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

Morooka, Vivian. Vital Signs [Revised Edition] Essential English for Healthcare Professionals. Nan'un-Do Co. Ltd., Tokyo. 2018.

【参考書】

指定なし

【備考】

携帯電話の使用を禁止する。

授業科目名		日本国憲法		担当教員	多田 庶弘	科目ナンバリング LE230
選択	開講年次： 2 年前期		単位： 2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

日本国憲法の概要、基本理念・原理、基本的人権の内容と意義について理解する。日本国憲法の構造(国の統治機構と基本的人権)、民法、行政法の基礎について学修し、社会における多様な問題を日常生活と関連させながら憲法に関わる問題について理解を深める。

【到達目標】

憲法の実在意義と他法との相違点、戦争の放棄にみる 正義＞平和論、人権侵害の私人間効力と不法行為論、人権保護と統治権の制限等に注意しながら、公正で論理的な憲法改正論議が出来る。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 国家と憲法—憲法を守るのは誰か
- [02] 日本国憲法の成立—日本国憲法はどのように作られたのか
- [03] 国民主権と象徴天皇制—日本国憲法における象徴天皇制とは
- [04] 平和のうちに生きる権利—憲法9条について考えてみる
- [05] 基本的人権の尊重—アイドルの恋愛禁止から考える幸福追求権
- [06] 表現の自由—わいせつ文章はなぜ規制の対象となるのか
- [07] 人身の自由と適正手続きの保障—黙秘権はなぜ必要か
- [08] 教育の権利と学問の自由—教育権とは何なのか
- [09] 生存権—生存権は憲法で認められた権利といえるのか
- [10] 憲法から考える結婚—平等権、幸福追求権から考えてみよう
- [11] 国会(立法)—国権の最高機関としての国会
- [12] 内閣(行政)—議員内閣制とは
- [13] 司法(裁判)—違憲立法審査権とは
- [14] 憲法改正—人権を制約する改正は認められるのか
- [15] 知憲という視点からの憲法(まとめ)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：新聞報道等から現在憲法について何が議論されているのかを考えてみる(1時間)。

事後学習：講義を聞いて憲法の内容を知るために、不明な部分をさらに調べてみる(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(90%)のほか、授業中の小テストの実施やレポートの課題の提出(10%)などで評価を行う。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては解答するための重要点を授業で示す。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft Teams を活用し事後課題等を行う。

【教科書】

山本聡・渡辺演久(2019).『憲法のおもしろさ(第3版)』北樹出版
授業ごとにプリントを配布する

【参考書】

芦部信喜(高橋和之 補訂)(2023).『憲法(第8版)』岩波書店
南野森・内山奈月(2015).『憲法主義』PHP

【備考】

(養選)保健師国家試験受験資格取得と養護教諭二種免許取得希望者のための選択必修科目

授業科目名		統計学		担当教員	梶本 輝樹		科目ナンバリング LE231
選択	開講年次： 2 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間 演習15時間			
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力				

【授業概要】

基礎的な統計の原理を理解し、数式を使って論理、推論を展開する手法を学ぶ。コンピューターによる統計処理法を含む。

【到達目標】

尺度の区別と代表値、データの表現について基本を理解する。
データの種類の判別と、それに適した基本的な表現を行える。
統計的仮説検定の種類とエビデンスレベルの基本的な判断が行える。
疫学・保健統計への接続性を理解し、統計的な考え方を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 講義：講義概要・記述統計と推測統計・尺度 / 演習：Excel の基礎
- [02] 講義：記述統計・医療と統計 / 演習：尺度とグラフ表現
- [03] 講義：Excel の利用 / 演習：尺度とグラフ表現
- [04] 講義：推測統計の基礎・実験計画法
- [05] 講義：代表値と外れ値 / 演習：分散と標準偏差
- [06] 講義：相関関係と回帰、因果関係
- [07] 講義・演習：95%信頼区間
- [08] 講義・演習：統計的仮説検定
- [09] 講義・演習：相関関係と因果関係、回帰
- [10] 講義・演習：バイアスと交絡
- [11] 演習：データ分析
- [12] 講義・演習：文献における統計モデルとエビデンスレベル
- [13] 講義・演習：文献検索、生成 AI の批判的利用
- [14] 講義：社会的議論におけるシステムティックレビューの利用
- [15] 演習：エビデンスによる社会的問題の検証

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次週内容の予習(講義週2時間・演習週1時間)。
事後学習：当該週内容の復習(事例検索および課題演習)(2時間)。

【評価方法・評価基準】

レポート(60%)、小テスト及び提出物(40%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答を掲示する。課題などについては授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

体験学習／ワークショップ／調査学習

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft365(クラウド)／Microsoft Office を用いた演習
EZR/R(統計処理)
Teams(学習教材配布とチェックテスト、リンク共有)
Forms(到達確認クイズ)
文献 DB(医学中央雑誌 Web、PubMed)、コクランレビュー

【教科書】

浅野嘉延著(2023). 楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計 南山堂 4版

【参考書】

- 1) 新谷歩(2016)：みんなの医療統計12日間で基礎理論と EZR を完全マスター！ 講談社
- 2) 新谷歩(2015)：今日から使える 医療統計 医学書院
- 3) 森本剛(2017)：査読者が教える 医学論文のための研究デザインと統計解析 中山書店

【備考】

(養選)保健師国家試験受験資格取得と養護教諭二種免許取得希望者のための選択必修科目

授業科目名		基礎ゼミナールⅢ		担当教員	◎吉野 妙子、松丸 直美、東森 由香、 酒井 武志、小出 加代子	科目ナンバリング LE239
必修	開講年次： 2 年前期		単位： 1 単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力			

【授業概要】

基礎ゼミナールⅡで導き出された課題や問題点について、問題解決に向け根拠に基づく情報を収集し、統合し、解決策を導く。さらに解決策を実施・評価するという問題解決プロセスを身につける。基礎ゼミナールⅢでは、グループ活動を通して、他者と協調・協働して課題に取り組む姿勢と、問題解決能力、創造的思考力を培う。

【到達目標】

1. 基礎ゼミナールⅡで導き出された健康や環境に関するテーマにおける課題や問題点について、問題解決に必要な情報を収集できる。
2. 情報を批判的に吟味、分析し、根拠に基づく知識を統合し、問題解決に向け解決策を導き出すことができる。
3. 解決策を実施・評価し、解決策を見直すことができる。
4. グループ学習において、自己の考えを言語化し、他者との意見交換を通し、グループでの考えをまとめることができる。
5. テーマに沿った問題解決について論理的にまとめ発表できる。

【履修条件】

「基礎ゼミナールⅡ」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 全体オリエンテーション・問題解決プロセスについて
- [02] グループオリエンテーション・基礎ゼミナールⅡの振り返り
- [03] グループ演習：問題解決に必要な情報収集
- [04] グループ演習：問題解決に必要な情報収集
- [05] グループ演習：情報の吟味、分析、統合
- [06] グループ演習：情報の吟味、分析、統合
- [07] グループ演習：解決策の立案
- [08] グループ演習：解決策の立案
- [09] グループ演習：解決策の一部を実施
- [10] グループ演習：解決策の一部を実施
- [11] グループ演習：評価と見直し案の立案
- [12] グループ演習：評価と見直し案の立案
- [13] グループ演習：発表準備
- [14] グループ演習：発表準備
- [15] 全体発表

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前の予習として、指定された資料を読み、課題を明確にしておく。(1時間)

事後学習：グループ演習での課題について調べ記述する。(1時間)

【評価方法・評価基準】

講義・演習の参加状況(25%) 演習課題(50%) 課題探求・発表に向けた実践活動(25%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは必要なコメントを付しフィードバックする。演習への取り組みやグループ討議について適宜助言し、進めていく。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／PBL

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

学習技術研究会(2019)：知へのステップ 第5版—大学生からのスタディ・スキルズ，くろしお出版

【参考書】

佐藤望 編著(2020). アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門第3版—，慶応義塾大学出版会
北尾謙治(2005). 広げる知の世界—大学でのまなびのレッスン，ひつじ書房

【備考】

基礎ゼミナールⅢの学習は、研究ゼミナールⅠ・Ⅱにつながるため、主体的・積極的に取り組むこと。

授業科目名		疫学Ⅰ（基礎）		担当教員	梶本 輝樹	科目ナンバリング LE251
必修	開講年次：２年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

疫学的思考および方法を理解し、人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探り、地域予防活動に応用するための基礎的能力を培う。

【到達目標】

曝露や因果関係の基本的概念を説明できる。
 疾病の頻度(割合、率、非)を理解する。
 主な疾病についての疫学の意義を説明できる。

【履修条件】

なし

【授業計画】

- [01] 講義：疫学とは(概論)
- [02] 講義：疫学研究の種類、標本抽出
- [03] 講義：研究とエビデンスレベル、症例対象研究とリスク比
- [04] 講義：前向きコホート研究と危険
- [05] 講義：バイアスと交絡
- [06] 講義：さまざまな危険
- [07] 講義：予防とスクリーニング
- [08] まとめと質疑応答(講義内評価を含む)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次週内容の予習(2 時間)
 事後学習：復習および他関連科目項目の確認、課題演習(3 時間)

【評価方法・評価基準】

講義内評価60%、授業内小テストおよび提出物40%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内、あるいはオンライン(Teams アプリあるいはメール)で適宜行う。

【アクティブラーニング】

ワークショップ／ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft365(クラウド)／Microsoft Office を用いた演習
 Teams(学習教材配布とチェックテスト、リンク共有)
 Forms(到達確認クイズ)

【教科書】

浅野嘉延著(2023). 楽しく学べる！看護学生のための疫学保健統計 南山堂 4 版

【参考書】

事例問題から学ぶ 看護疫学・保健統計学
 安武 繁著(2016). 重要事項をねこそぎ check! 医歯薬出版株式会社

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		疫学Ⅱ（応用）		担当教員	梶本 輝樹	科目ナンバリング LE252
選択	開講年次：２年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

人間集団の中で出現する健康課題の様々な事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸課題に対する有効な対策樹立に役立てる。疫学を用いて地域で生活する人々の健康の保持増進に寄与する基礎的能力を培う。

【到達目標】

疫学と公衆衛生の意義を説明できる。

基本的な調査方法について説明し、必要な統計モデルを選択できる。

誤差やバイアス、交絡について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 講義：スクリーニングとその要件
- [02] 講義：スクリーニングにおける各指標、ROC 曲線
- [03] 講義：疾病の予防と感染、感染症法
- [04] 講義：予防接種法、検疫法、感染症の疫学
- [05] 講義：NSTs(非感染性疾患)の疫学
- [06] 講義：新型コロナウイルス感染症の疫学
- [07] 講義：疫学分野のまとめと問題演習
- [08] まとめと質疑応答(授業内評価を含む)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次週内容の予習(2時間)

事後学習：復習および他関連科目項目の確認、課題演習(3時間)

【評価方法・評価基準】

授業内評価60%、授業内小テストおよび演習提出物40%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内、あるいはオンライン(Teams アプリあるいはメール)で適宜行う。

【アクティブラーニング】

ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft365(クラウド)／Microsoft Office を用いた演習

Teams(学習教材配布とチェックテスト、リンク共有)

Forms(到達確認クイズ)

【教科書】

浅野嘉延著(2023). 楽しく学べる！看護学生のための疫学保健統計 南山堂 4版

【参考書】

事例問題から学ぶ 看護疫学・保健統計学

安武 繁著(2016). 重要事項をねこそぎ check! 医歯薬出版株式会社

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		保健統計Ⅰ（基礎）		担当教員	梶本 輝樹	科目ナンバリング LE253
必修	開講年次：２年後期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

疫学と統計学の概念と方法を取り入れ、わが国の衛生関係統計資料の概要および地域に用いられた主要な健康指標や、これらに関する国際的尺度や基本的統計を理解し、地域および国際的健康課題の把握に役立てる基礎的知識や方法論について理解する。

【到達目標】

各種人口統計の意味および近年の動向を説明できる。

わが国の基幹統計および保健統計の動向を理解し、基本的な特徴を説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 講義：概論／人口静態統計
- [02] 講義：人口動態統計、出生と死亡
- [03] 講義：死因統計、生命表
- [04] 講義：国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査
- [05] 講義：社会生活基本調査、さまざまな医療統計(患者調査、がん登録など)
- [06] 講義：情報処理と個人情報
- [07] 講義：生成 AI とその利用 / 演習：生成 AI を利用した統計データ検索
- [08] まとめと質疑応答(講義内評価を含む)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次週内容の予習(2 時間)

事後学習：復習および他関連科目項目の確認、課題演習(3 時間)

【評価方法・評価基準】

講義内評価60%、授業内小テストおよび演習提出物40%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内、あるいはオンライン(Teams アプリあるいはメール)で適宜行う。

【アクティブラーニング】

調査学習／ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft365(クラウド)／Microsoft Office を用いた演習

Teams(学習教材配布とチェックテスト、リンク共有)

Forms(到達確認クイズ)

生成 AI(Microsoft Copilot、ChatGPT)

【教科書】

浅野嘉延著(2023). 楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計 南山堂 4 版

【参考書】

白戸亮吉、鈴木研太著(2018). ていねいな保健統計学 羊土社

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		保健統計Ⅱ（応用）		担当教員	桒本 輝樹	科目ナンバリング LE254
選択	開講年次： 2 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

看護師・保健師として必要な統計学的基礎を身につけることを目的とする。PCソフト(MS Excel)の活用、保健・看護データへの応用を学ぶ。人口統計資料を含む簡単なデータ処理から基本的な保健医療情報の理解を深める。

【到達目標】

保健医療分野の測定方法と尺度の概要を理解する。

それぞれの尺度の意味を説明できる。

基本的な統計分析を行い、その結果を説明できる。

【履修条件】

「保健統計Ⅰ」を修得していること。

【授業計画】

[01] 講義：疾病頻度の指標と相互関係、予防

[02] 講義：人年法、死亡率

[03] 講義：死亡率比較(直接法：年齢調整死亡率・間接法：標準化死亡比)

[04] 講義：健康日本21と健康ちば21

[05] 講義：統計的データ解析

[06] 演習：正規分布、相関と回帰

[07] 演習：統計的仮説検定

[08] まとめと質疑応答(授業内評価を含む) / 演習：地域の統計的データ調査と保健課題

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次週内容の予習(2時間)

事後学習：復習および他関連科目項目の確認、課題演習(3時間)

【評価方法・評価基準】

最終レポート60%、授業内小テスト類40%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内、あるいはオンライン(Teams アプリあるいはメール)で適宜行う。

【アクティブラーニング】

調査学習／ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

Microsoft365(クラウド)／Microsoft Office を用いた演習

Teams(学習教材配布とチェックテスト、リンク共有)

Forms(到達確認クイズ)

文献DB(医学中央雑誌 Web)、e-Stat(政府統計ポータルサイト)

【教科書】

浅野嘉延著(2023). 楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計 南山堂 4版

【参考書】

指定なし

【備考】

演習回については情報処理室を使用します。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		健康支援と社会保障制度		担当教員	酒井 幸子	科目ナンバリング NB243
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

人々の健康と生活の観点からわが国の医療、社会福祉、社会保障制度の概念を学ぶ。保健、医療、福祉領域の職種が如何に連携しあって利用者の意思決定を支える体制を展開していくのか考え、特にその中での各医療従事者の役割について学ぶ。

【到達目標】

1. 社会保障の理念、制度の基本的考え方を理解する。
2. 主な社会保障制度、社会福祉制度を看護と関連付けて理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 社会保障とは何か
- [02] 社会保障制度の目的と機能
- [03] 生活者の視点からみた健康と社会保障
- [04] 医療保障と医療保険
- [05] 日本の医療保険の特徴と課題(1)
- [06] 日本の医療保険の特徴と課題(2)
- [07] 介護保険の概要
- [08] 日本の介護保険の特徴と課題(1)
- [09] 日本の介護保険の特徴と課題(2)
- [10] 所得保障の概要
- [11] 公的扶助の概要
- [12] 社会福祉の概要
- [13] 保健・医療・福祉の連携と統合(1)－高齢福祉と障害福祉－
- [14] 保健・医療・福祉の連携と統合(2)－障害福祉と児童家庭福祉－
- [15] 保健・医療・福祉の連携と統合(3)－包括的支援体制－

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行うこと。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと。(1時間)

【評価方法・評価基準】

平常点(授業参加リフレクティブレポート、授業内小テスト・30%)と筆記試験(70%)の総合評価

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては授業中に傾向について示しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

福田素生他(2025)：系統的看護学講座専門基礎分野健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉〔第26版〕医学書院

【参考書】

- 1) 一般財団法人厚生労働統計協会(2024)「国民衛生の動向2024/2025」
- 2) 社会保障入門編集委員会「社会保障入門2024」中央法規

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		人間病態学Ⅰ		担当教員	高野 海哉	科目ナンバリング NB249
必修	開講年次：2年前期		単位：3単位	授業形態：講義30時間、演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

病気によって対象に何が起きているかを理解するため、病気の成り立ちをメカニズム別(病因別)に「病理病態論」として学修し、その症状や徴候がどのように現れるのかについて「病態症候論」の枠組みで学ぶ。主に人間が生命を維持するために必要な呼吸・循環系、消化器系などの病態について学修する。

【到達目標】

病気の成り立ちや発症するしくみ(病理・病態)について理解し、説明することができる。

主な呼吸器・循環器・消化器・血液・腎泌尿器・生殖器における疾患について、その原因や病態、主な治療について理解して説明することができる。

【履修条件】

「生物学」、「人間機能学(形態と機能)」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 病気とは何か(序論) 老化と死
- [02] 細胞傷害：肥大 過形成 化生 変性 萎縮
細胞の死：ネクローシス アポトーシス
- [03] 腫瘍
- [04] 炎症
- [05] 免疫のしくみと異常(1) 免疫のしくみ
- [06] 免疫のしくみと異常(2) アレルギーとは
- [07] 感染：病原微生物の種類 感染のしくみ 感染症の種類と対応
- [08] 循環障害：充血 うっ血 出血 虚血と梗塞 血栓症と塞栓症 側副循環
- [09] 体液の調節と異常(1) 体液調節のしくみ 電解質異常 酸塩基平衡の異常
- [10] 体液の調節と異常(2) 浮腫
- [11] 外傷 中毒 放射線障害
- [12] 呼吸器系の疾患(1) 気道および肺の疾患
- [13] 呼吸器系の疾患(2) 肺の疾患
- [14] 呼吸器系の疾患(3) 肺・胸郭や胸膜の疾患
- [15] 循環器系の疾患(1) 心不全 不整脈
- [16] 循環器系の疾患(2) 虚血性心疾患
- [17] 循環器系の疾患(3) 心臓弁の疾患 血管の疾患
- [18] 消化器の疾患(1) 食道・胃の疾患
- [19] 消化器の疾患(2) 小腸・大腸の疾患
- [20] 消化器の疾患(3) 肝臓の疾患
- [21] 消化器の疾患(4) 胆嚢・膵臓の疾患
- [22] 血液・造血器の疾患(1) 赤血球の疾患 白血球・リンパ球の疾患
- [23] 血液・造血器の疾患(2) 白血球・リンパ球の疾患 出血性疾患
- [24] 腎・泌尿器系の疾患(1) 慢性腎臓病 急性腎不全
- [25] 腎・泌尿器系の疾患(2) 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群
- [26] 腎・泌尿器系の疾患(3) 尿路結石 膀胱の疾患
- [27] 生殖器・乳腺の疾患(1) 前立腺の疾患 月経困難症 子宮内膜症
- [28] 生殖器・乳腺の疾患(2) 子宮筋腫 子宮がん 卵巣腫瘍 乳がん
- [29] 遺伝子異常・疾患
- [30] 内分泌の疾患 甲状腺疾患 副腎疾患 下垂体腺腫

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に講義資料を配布する。次回授業予定の範囲で、講義資料内の空欄を埋めることで、授業内容を事前に把握して授業における内容理解を促す。(30分)

事後学習：授業の復習として、教科書で授業を受けた項目を一読し、講義資料に追加でメモをするなどして内容定着を促す。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各項目の重要事項の確認となる「確認問題」の進捗状況や解答状況を踏まえて、授業中に学習のポイントやアドバイスを行うことがある。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

各項目の重要事項の確認となる「確認問題」を、「Kame ドリル」にて取り組めるようにする。

【教科書】

1. 山内 豊明【編】(2023)ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進(1)病態生理学(メディカ出版)
2. 1年後期「人間機能学」講義テキスト

【参考書】

【備考】

正常な人体の構造と機能の知識をもとに、正常からの逸脱が起こる原因、逸脱のためにどのような特徴が現れるのかを学び、各器官系における主要な疾患について授業します。

正常な構造と機能に関する知識、すなわち「人間機能学」の内容が基本となるので、解剖生理学の内容も復習しながら疾患や病態や疾患、症候に関する知識を深めていきましょう。

授業科目名		人間病態学Ⅱ		担当教員	高野 海哉	科目ナンバリング NB250
必修	開講年次：2年前期		単位：4単位	授業形態：講義60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

病気によって対象に何が起きているかを理解するため、病気の成り立ちをメカニズム別(病因別)に「病理病態論」として学修し、その症状や徴候がどのように現れるかについて「病態症候論」の枠組みで学ぶ。主に人間の生活や生命に影響を及ぼす神経系の病態、生体の防御に関する感染のメカニズムなどについて学修する。

【到達目標】

主な神経系・運動器系・生体防御機能における疾患について、その原因・病態・治療について理解して説明することができる。
様々な疾患による症候について、発症する仕組みと症状について理解して説明することができる。

【履修条件】

「生物学」、「人間機能学(形態と機能)」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 脳・神経系の疾患① 脳血管疾患
- [02] 脳・神経系の疾患② 認知症 神経変性疾患
- [03] 脳・神経系の疾患③ 脱髄性疾患 末梢神経疾患 運動神経の疾患
- [04] 脳・神経系の疾患④ 髄膜の疾患 脳腫瘍
- [05] 運動器系の疾患① 運動器の外傷 骨折 脱臼
- [06] 運動器系の疾患② 主な骨折 脊椎・脊髄の疾患
- [07] 運動器系の疾患③ 上肢と下肢の疾患
- [08] 運動器系の疾患④ 運動器系の腫瘍 末梢神経の麻痺
- [09] 免疫系・アレルギー疾患① 膠原病
- [10] 免疫系・アレルギー疾患② アレルギー性疾患
- [11] 感染症① 微生物の感染の特徴と検査
- [12] 感染症② 細菌性疾患 真菌性疾患 ウイルス性疾患
- [13] 皮膚の疾患
- [14] 眼の疾患
- [15] 耳鼻咽喉の疾患
- [16] 体温 ・体温の調節 ・発熱のしくみ
- [17] 体温 ・発熱のしくみ ・高体温と低体温
- [18] 呼吸機能の病態と症候 ・呼吸困難と呼吸不全 ・咳嗽と喀痰 咯血
- [19] 呼吸機能の病態と症候 ・咳嗽と喀痰 咯血 ・嘔声 ・チアノーゼ
- [20] 循環系の病態と症候 ・貧血 ・レイノー現象 ・リンパ節腫脹
- [21] 循環系の病態と症候 ・ショック ・浮腫
- [22] 食事に関する病態と症候 ・食欲不振 ・悪心 嘔吐 ・摂食嚥下障害
- [23] 消化器系の病態と症候 ・吐血 ・下血 ・下痢 ・便秘
- [24] 消化器系の病態と症候 ・腹水 ・腹部膨満 ・黄疸
- [25] 体液・腎の病態と症候 ・脱水 ・尿量異常 ・尿所見異常
- [26] 体型変化に関する病態と症候 ・体重の増加と減少 ・肥満
- [27] 「気分」に関する病態と症候 ・倦怠感 ・睡眠障害 ・めまい ・意識障害
- [28] 感覚に関する病態と症候 ・いたみ ・かゆみ
- [29] 感覚に関する病態と症候 ・感覚異常 ・しびれ
- [30] 運動機能に関する病態と症候 ・運動麻痺 ・運動失調

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に講義資料を配布する。次回授業予定の範囲で、講義資料内の空欄を埋めることで、授業内容を事前に把握して授業における内容理解を促す。(30分)

事後学習：授業の復習として、教科書で授業を受けた項目を一読し、講義資料に追加でメモをするなどして内容定着を促す。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各項目の重要事項の確認となる「確認問題」の進捗状況や解答状況を踏まえて、授業中に学習のポイントやアドバイスを行うことがある。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

各項目の重要事項の確認となる「確認問題」を、「Kameドリル」にて取り組めるようにする。

【教科書】

1. 講義前に、本講義で使用する「講義テキスト」を配布する。
2. 山内 豊明【編】(2023)ナースング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進(1)病態生理学(メディカ出版)
3. 1年後期「人間機能学」講義テキスト

【参考書】

【備考】

「人間病態学Ⅰ」に引き続き、正常な人体の構造と機能の知識をもとに、正常からの逸脱が起こる原因、逸脱のためにどのような特徴が現れるのかを学び、各器官系における主要な疾患について授業します。
正常な構造と機能に関する知識、すなわち「人間機能学」の内容が基本となるので、解剖生理学の内容も復習しながら疾患や病態や疾患、症候に関する知識を深めていきましょう。

授業科目名		栄養・生化学		担当教員	高野 海哉	科目ナンバリング NB247
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

食生活が人間の健康や病気に与える影響は大きい。特に最近、ライフスタイルのひとつである食事習慣は生活習慣病予防に重要な位置を占めている。将来看護師としてより効果的な援助者となるため、栄養学の生化学的基礎や人間のライフステージに沿った栄養管理についての知識について学ぶ。

【到達目標】

生体を構成し、栄養素となる基本的な物質に関する生化学的な特徴を理解し、説明することができる。
栄養素や生体物質の代謝異常や障害、それによって起こる主な疾患について理解、説明することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 細胞の構造 細胞のエネルギー代謝
- [02] 糖質の特徴と代謝 血糖調節
- [03] 糖質の代謝異常・疾患：糖尿病・低血糖症
- [04] 脂質の特徴と代謝
- [05] 脂質の代謝異常：脂質異常症
- [06] タンパク質の特徴と代謝
- [07] 血中のタンパク質 酵素の特徴
- [08] 糖質・脂質・タンパク質代謝の連関
- [09] 核酸の特徴と代謝
核酸の代謝異常：高尿酸血症
- [10] ビタミンの種類とはたらき
ビタミン欠乏症
- [11] 水・ミネラルの特徴とはたらき
骨粗鬆症
- [12] 食物と栄養
食事摂取基準
- [13] ヒトのエネルギー代謝と異常
肥満症・メタボリックシンドローム
- [14] ライフステージと栄養
食事摂取基準
- [15] 栄養療法

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に講義資料を配布する。次回授業予定の範囲で、講義資料内の空欄を埋めることで、授業内容を事前に把握して授業における内容理解を促す。(30分)

事後学習：授業の復習として、教科書で授業を受けた項目を一読し、講義資料に追加でメモをするなどして内容定着を促す。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

「Kame ドリル」に提示した確認問題の実施状況や解答状況を適宜確認し、進捗状況の確認や内容理解の補足を行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

「Kame ドリル」にて授業各回の確認問題を提示し、各回の授業終了後に取り組みるようにして内容理解を促す。

【教科書】

・脊山洋右【編】(2024)新体系看護学全書 人体の構造と機能② 栄養生化学 第6版(メジカルフレンド社)

【参考書】

1. 山内 豊明【編】(2023)ナースング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進(1)病態生理学(メディカ出版)
2. 1年後期「人間機能学」講義テキスト

【備考】

人の体は化学物質で構成されており、人が食事として取り込むのも化学物質です。人体と化学物質の関わりについて看護を学ぶ上で知っておいてほしい基本的な事項を扱います。

人間機能学(形態と機能)とあわせて、人体の基本を学ぶ重要な科目として、興味持って講義に参加して学んでください。

授業科目名		臨床薬理学Ⅰ（基礎）		担当教員	◎阿部誠也、中川雄介、鈴木正論、 和泉早矢香、渡辺マコ	科目ナンバリング NB248
必修	開講年次：２年後期		単位：２単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

薬物が生体に及ぼす作用を調べる薬物作用学と、生態が薬物に対して何をするか体内での薬物の動きを研究する薬物動態学の両面からアプローチし、薬の副作用や相互作用とそのメカニズムを理解する。

【到達目標】

薬の薬理作用と薬物動態学の原理を理解し、各疾病に使用される薬についての知識を分類カテゴリーに関連させながら深めていき、安全で効果的な薬の投薬と患者教育、観察に備える。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 薬理学の概念、薬理作用と作用機序、薬物動態、副作用、相互作用	(中川)
[02] 薬物療法に影響を与える因子、小児、妊婦、高齢者の薬物治療	(阿部)
[03] 末梢神経作用薬	(和泉)
[04] 中枢神経作用薬	(渡辺)
[05] 心臓・血管作用薬	(鈴木)
[06] 輸液・腎臓作用薬	(鈴木)
[07] 血液・造血器系作用薬	(中川)
[08] 抗炎症薬	(和泉)
[09] 呼吸器系作用薬	(渡辺)
[10] 消化器系作用薬	(渡辺)
[11] ホルモン系・生殖器系作用薬	(阿部)
[12] 抗感染症薬	(渡辺)
[13] 抗悪性腫瘍薬	(中川)
[14] 医薬品の管理	(阿部)
[15] 漢方薬	(渡辺)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：各項目の最初に記載されている「学習目標」を確認し、その内容に沿って教科書の確認をしておく。(1時間)

事後学習：各章の最後にまとめられている「看護上の留意点」、「学習課題」、「キーワード」を中心に振り返りを行う。
また、「基礎知識」では疾病の病態と治療方針を、「治療薬」では各医薬品の作用機序や分類などを復習し、「看護上の留意点」を理解する。(1時間)

【評価方法・評価基準】

テスト：100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答の提示

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

安原一、小口勝司編(2014)：わかりやすい薬理学(第4版)、ヌーヴェルヒロカワ

【参考書】

編集 大橋京一(2012)：疾患からみた臨床薬理学 第3版 じほう

【備考】

特になし

授業科目名		公衆衛生学		担当教員	◎相崎英樹、吉田弘、若江亨祥、 上田竜大、深野顕人、鈴木亮介、 村上恭子	科目ナンバリング NB249
必修	開講年次：2年後期		単位：1単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

公衆衛生は人文社会科学と自然科学からなる極めて集学的な学問である。本科目では、公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について理解する。さらに、集団レベルでの健康事象の把握方法の基礎を知り、環境要因や生活習慣が健康にもたらす影響とその対策を学修する。

【到達目標】

公衆衛生は人文社会科学と自然科学からなる極めて集学的な学問である。本科目では、公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について理解する。さらに、集団レベルでの健康事象の把握方法の基礎を知り、環境要因や生活習慣が健康にもたらす影響とその対策を学修する。

人は誕生後、健康を損ねる様々な要因に曝される。自然要因として、地球上に存在する物理化学因子や微生物因子や、集団の間での社会的因子の影響を常に受ける。出生から死に至るまでの間に受けるこれら環境要因の作用について、その概略を理解することを第一の目的とする。次に健康の維持向上を図る上で最も効果的な方法を考える姿勢を身に着けることを目指す。健康維持の向上の最良の方法は予防であり、予防医学の実際を意識する姿勢を身に着けることを最終目的とする。

具体的には、人口学・環境衛生学・社会学・社会医学分野を総合した現代公衆衛生学の理解を目指す。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 感染症総論	(相崎)
[02] 血液感染性肝炎と国の対策	(相崎)
[03] ヒトパピローマウイルスによる子宮頸癌の発症機構の考察	(若江)
[04] 経口肝炎、節足動物	(鈴木)
[05] 疾病予防と国際保健	(村上)
[06] 感染症診療の基本(接触感染、飛沫感染、空気感染について梅毒・結核・COVID-19などの具体的な疾患を提示しつつ解説する。また、抗菌薬の適正使用、耐性菌への対策について解説する)	(上田)
[07] 環境水中のウイルス情報	(吉田)
[08] 医薬品による感染症対策	(深野)

【授業のために必要な事前・事後学習】

インターネットによる情報収集・選別を習慣とする姿勢を求める。方法について習熟し、質の高い情報とその活用を絶えず考える姿勢を身に着ける。(事前学習1時間、事後学習1時間)

【評価方法・評価基準】

期末試験。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

タイムリーな公衆衛生的トピックを毎回示し解説を加えるが、取り上げたテーマについて自発的な情報の収集と分析を求め教員と学生の間でディスカッションを行う。

【アクティブラーニング】

対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

菅又昌実、日本の感染症一明らかにされたこと残された課題一 南山堂、東京、2022

【参考書】

随時資料を提供する。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		医療安全		担当教員	◎中川 泰弥、休波 茂子	◎科目ナンバリング NF252
必修	開講年次： 2 年前期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力			

【授業概要】

安全な医療を提供するための組織としての取り組みと看護における安全対策についての知識と技術を修得する。医療機関における安全対策、院内感染予防対策、安全文化についての基礎的知識を初め、看護における安全対策、感染予防対策について学ぶ。

【到達目標】

1. 医療安全が注目されている理由について説明できる。
2. 安全の定義とリスクマネジメントについて説明できる。
3. 医療事故の定義と事故発生のメカニズムについて説明できる。
4. 医療事故予防策について説明できる
5. 医療機関における安全文化とはなにかについて説明できる。
6. 集団感染のメカニズムについて説明できる。
7. 集団感染と予防策について説明できる。
8. 学生が医療安全を学ぶ意義について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---------|
| [01] 医療安全(Medical Safety)と感染管理(Infection Control) | |
| 安全の定義とリスクマネジメント、医療事故の定義と分類 | (休波) |
| [02] 医療安全に関する社会の注目と拡大とその理由、医療機関における安全文化 | (休波) |
| [03] ヒューマンエラーと医療事故予防策 | (中川) |
| [04] 医療事故発生のメカニズム、医療事故分析ツールについて | (中川) |
| [05] 医療事故分析モデルを用いた事故分析(グループワーク) | (中川・休波) |
| [06] 医療事故防止策：TeamSTEPPS ① | (中川) |
| [07] 医療事故防止策：TeamSTEPPS ②(グループワーク) | (中川・休波) |
| [08] 集団感染のメカニズム スタンダードプリコーション | (中川) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：基礎看護学臨地実習Ⅰを想起し、発生しうる医療事故や医療関連感染について考察する。(2時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習を行う。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験(80%),課題レポート(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートや試験は授業中に傾向について示しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

- 1) 河野龍太郎(2004). 医療におけるヒューマンエラー、医学書院.
- 2) 医療安全管理部(2012). チームステップス[日本版] 医療安全チームで取り組むヒューマンエラー対策、メジカルビュー.
- 3) 出河雅彦(2009). ルポ 医療事故、朝日新書.
- 4) 医療情報科学研究所(2018). 病気がみえる, 免疫・膠原病・感染症, 第2版, メディックメディア.

【備考】

臨地実習において、学生も医療チームの一員であり、安全で質の高いケアの提供に努めることが求められる。本講義はすべての臨地実習と密接に関わっている。特に4年次「看護の統合と実践臨地実習Ⅰ」を受講する上での基盤となる。本講義で得た知識・技術を確実に身に付け、臨地実習で活用できるよう学修に取り組むこと。看護師として実務経験が5年以上ある教員が指導する。

授業科目名	治療援助論	担当教員	◎鶴沢 淳子、有家 香、 中川 泰弥、田邊 遥	科目ナンバリング NF253
必修	開講年次：2年前期	単位：1単位	授業形態：演習30時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力		

【授業概要】

生活援助技術に続いて、治療を受ける患者に必要な看護技術(投薬、注射、導尿など)、検査に関する看護技術を修得する。エビデンスに基づいた看護技術、安全・安楽の確保に基づく看護技術の方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 治療援助で行われる看護技術について、エビデンスに基づいて対象者への安全・安楽を考えた看護技術を身につける。
2. 治療援助における無菌操作の重要性を理解し、感染予防の知識をもとに医療器具を安全に取り扱う技術を身につける。
3. グループの学習を通して、実践的なスキルの修得へ向けての考え方を修得する

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------------|
| [01] 講義：感染予防の技術 | (鶴沢) |
| [02] 演習：感染予防の技術の実際(滅菌物の取り扱い) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [03] 講義：検査に伴う看護技術 | (鶴沢) |
| [04] 演習：検査に伴う看護技術の実際_1 (静脈内採血) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [05] 演習：検査に伴う看護技術の実際_1 (一時的導尿①) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [06] 演習：検査に伴う看護技術の実際_2 (一時的導尿②) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [07] 講義：呼吸・循環を整える技術 | (鶴沢) |
| [08] 演習：呼吸・循環を整える技術の実際 (一時的吸引法・酸素ボンベの取り扱い) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [09] 講義：薬物療法における看護技術_1 | (鶴沢) |
| [10] 講義：薬物療法における看護技術_2 | (鶴沢) |
| [11] 演習：薬物療法の実際_1 (皮下注射) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [12] 演習：薬物療法の実際_2 (点滴静脈内注射の管理) | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [13] 演習：技術チェック | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [14] 演習：課題演習 | (鶴沢・有家・中川・田邊) |
| [15] 演習：課題演習 | (鶴沢・有家・中川・田邊) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に提示された事前課題を行い、該当単元に必要な基礎的知識を修得する。(1～2時間)

事後学習：授業で使用了資料をもとに、演習の自己練習により、振り返りによる自己の評価と課題を明確にする。(2～3時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験(80%)、技術チェック(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各演習で提出した課題レポートについては、教員のコメントを入れ、授業終了後に返却する。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

- 1) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナースング・グラフィカ基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版
- 2) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版

【参考書】

- 1) 医療情報科学研究所 編(2024)：看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第2版. メディックメディア.
- 2) 志自岐康子他編集(2016)：基礎看護学3. MC メディカ出版.
- 3) 有田清子他 著(2021)：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ. 第18版 医学書院.
- 4) 深井喜代子他 編(2008)：新・看護生理学テキスト. 一看護技術の根拠と臨床への応用 南江堂.
- 5) 深井喜代子他 編(2019)：改訂第2版 基礎看護学テキスト. EBN 志向の看護実践, 南江堂.
- 6) 深井喜代子他 編(2021)：第5版 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護学Ⅰ. メディカルフレンド社.
- 7) 深井喜代子他 編(2021)：第5版 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護学Ⅱ. メディカルフレンド社.
- 8) ナースング・サプリー編集委員会(2023)：第2版 イメージできる解剖生理学. MC メディカ出版.

*その他講義中に適宜提示

【備考】

①看護学概論、基礎看護学技術論、日常生活援助論での学びをもとに患者に行われる治療の援助技術を安全・安楽に患者への配慮を含めて学びを深める。

②行われる看護技術の根拠を臨床経験の知識をもとに具体的でわかりやすい方法で教授する。

授業科目名		看護展開論Ⅰ（ナーシングプロセス）		担当教員	◎有家 香、中川 泰弥	科目ナンバリング NF254
必修	開講年次：２年前期		単位：２単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

看護を計画的に立案、実施、評価し、看護の質の向上をはかるため、看護過程について学ぶ。看護過程の構造、看護診断・看護介入分類・看護結果分類、中範囲理論についての理解を深める。また、看護過程において重要な基本的理論について探究する。

【到達目標】

1. 看護過程の概要・構造及び特徴について説明できる。
2. 看護過程に必要な能力について説明できる。
3. 看護過程と理論の関係について説明できる。
4. 看護過程のステップと、看護アセスメントの枠組みについて説明できる。
5. 紙上事例を用いて、情報を分類・整理し、解釈・判断した後に看護上の問題を抽出することができる。
6. 看護過程と看護記録の関係及び記録の重要性について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|--------------|
| [01] 看護過程の概要・構造、問題解決過程としての看護過程 | (有家) |
| [02] 看護過程に必要な能力、看護過程への看護理論の応用 | (有家) |
| [03] 看護過程と理論：ヘンダーソン看護論 | (有家) |
| [04] 看護過程と理論：ロイ看護モデル、オレム看護論 | (有家) |
| [05] 看護過程のステップ、看護アセスメントの枠組み | (有家) |
| [06] アセスメントとは、データ収集の方法 | (有家) |
| [07] 看護上の問題の明確化 | (有家) |
| [08] 看護計画、実施、評価 | (有家) |
| [09] 看護診断、看護成果・介入分類、看護診断と中範囲理論
アセスメント、看護上の問題の明確化、看護目標及び看護計画立案の実際 | (有家)
(有家) |
| [10] ナーシングプロセス演習 | |
| [11] 看護過程と看護記録：看護記録とは、看護記録の種類、記録システムの型 | (有家) |
| [12] 看護過程と看護記録：電子カルテの実際 | (有家) |
| [13] 看護過程の実際－グループ討議(分析：情報の分類と整理) | (有家・中川) |
| [14] 看護過程の実際－グループ討議(分析：解釈と判断) | (有家・中川) |
| [15] 看護過程の実際－グループ発表、まとめ | (有家・中川) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題についての学習を行う。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行う。(2時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験：80%、課題レポートおよびグループ討議：20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては授業中に傾向について示しフィードバックを行う。グループ討議やその記録については評価し講義終了後に返却予定とする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

特に指定しない。

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

1. 渡邊トシ子編集(2011). ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版. NOUVELLE HIROKAWA.
2. 黒田裕子編集(1998). 事例で学ぶ看護過程実践マスター. 日総研.
3. 松本光子編集、休波茂子他(2004). 看護診断・実践・評価の実際. 南江堂.
4. 松本光子編集、休波茂子他(2004). ロイ看護モデルを使った看護の実践第2版. NOUVELLEHIROKAWA.

【備考】

・看護展開論Ⅱ（ヘルスアセスメント）と関連が深く、また全ての看護領域における看護実践の方法論として用いられるための学習を積み重ねていけるように自ら取り組む。

授業科目名		看護展開論Ⅱ（ヘルスアセスメント）		担当教員	◎有家 香、鵜沢 淳子、 中川 泰弥、田邊 遥	科目ナンバリング NF255
必修	開講年次：２年前期		単位：２単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

人の成長、発達段階・健康レベルに応じたヘルスアセスメントの方法について学び、看護の対象の健康状態を判断するためにフィジカルアセスメントスキルを修得する。アセスメント技術を系統的に学び、発達段階と健康レベルに応じたアセスメント能力を修得する。

【到達目標】

1. 看護アセスメントの概念と必要な技術、視点について説明できる。
2. 看護アセスメントの枠組みによる系統的データ収集の方法について説明できる。
3. 紙上事例を通して、ゴードンの11の機能的健康パターンを用いたアセスメント、全体像の描写、問題点の抽出、看護計画の立案をすることができる。
4. フィジカルアセスメントの技術を用いて身体審査を行い、逸脱の判断をすることができる。
5. 基礎看護学で学習した看護技術を患者の状況に合わせて統合できる。

【履修条件】

原則、「看護展開論Ⅰ(ナースングプロセス)」を修得していること。

【授業計画】

[01] 看護ヘルスアセスメントの概念	(有家)
[02] 看護ヘルスアセスメントに必要な技術	(有家)
[03] 看護ヘルスアセスメントの視点(1)ゴードンの11の機能的健康パターン	(有家)
[04] 看護ヘルスアセスメントの視点(2)身体的側面のアセスメント	(有家)
[05] 看護ヘルスアセスメントの視点(3)心理・社会的側面のアセスメント	(有家)
[06] 事例アセスメントの方法、事例アセスメント：健康知覚／健康管理パターンのアセスメント	(有家)
[07] 演習：ヘルスアセスメントと「問診」	(有家・中川・鵜沢・田邊)
[08] バイタルサイン、「呼吸機能のフィジカルアセスメント」	(中川)
[09] 演習：身体診査法(1)「呼吸機能のフィジカルアセスメント」	(中川・有家・鵜沢・田邊)
[10] 事例アセスメント	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[11] 「循環機能のフィジカルアセスメント」	(中川)
[12] 演習：身体診査法(2)「循環機能のフィジカルアセスメント」	(中川・有家・鵜沢・田邊)
[13] 事例アセスメント	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[14] 「消化機能のフィジカルアセスメント」	(田邊)
[15] 演習：身体診査法(3)「消化機能のフィジカルアセスメント」	(田邊・有家・鵜沢・中川)
[16] 事例アセスメント	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[17] 「脳神経機能のフィジカルアセスメント」	(鵜沢)
[18] 演習：身体診査法(4)「脳神経機能フィジカルアセスメント」	(鵜沢・有家・中川・田邊)
[19] 事例アセスメント	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[20] バイタルサイン、呼吸機能・循環機能のフィジカルアセスメントの方法(技術確認)	(中川・有家・鵜沢・田邊)
[21] 「運動機能のフィジカルアセスメント」	(鵜沢)
[22] 演習：身体診査法(5)「運動機能のフィジカルアセスメント」	(鵜沢・有家・中川・田邊)
[23] 事例アセスメント	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[24] 統合演習：グループワーク①	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[25] 統合演習：グループワーク②	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[26] 統合演習：グループ発表	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[27] その他身体各部のフィジカルアセスメント／血液検査データのアセスメント／看護実践への中範囲理論の活用	(中川・有家)
[28] 事例アセスメント：全体像について	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[29] 事例アセスメント：ケアプランについて	(有家・鵜沢・中川・田邊)
[30] まとめ「看護過程とヘルスアセスメント」	(有家・鵜沢・中川・田邊)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された課題の記述、事例アセスメントの記述(1～2時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、フィジカルアセスメント技術の練習、事例アセスメントの振り返り(1～2時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験70%、技術確認試験10%、事例アセスメントレポート20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

事例アセスメントレポートは、その都度担当教員が評価をして返却をする。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

1. 松尾ミヨ子他編集(2022). 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ. メディカ出版.

【参考書】

1. 山内豊明(2011). フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 一目と耳でここまでわかる. 医学書院.
2. 横山美樹(2020). はじめてのフィジカルアセスメント 第2版. メヂカルフレンド社.

【備考】

- ・この科目は、看護展開論Ⅰ(ナースングプロセス)の理解が必要不可欠である。また事例演習で行われるアセスメントの記述が十分に行われていなければ、基礎看護学臨床実習Ⅱの受け持ち患者の理解に影響があるため理解を深めておく。

授業科目名		基礎看護学臨地実習Ⅱ		担当教員	◎有家 香、鶴沢 淳子、中川 泰弥、 田邊 遥、休波 茂子	科目ナンバリング NF257
必修	開講年次：2年後期		単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力			

【授業概要】

入院中の患者を一人の生活者としてとらえ、その生活や環境について学ぶ。日常生活に関わる援助を通して、看護の働き・機能について学ぶ。健康上に問題がある個人(患者)を対象に、人間関係を保ちながら、患者の健康状態のアセスメントを通して、健康と生活に関わる問題を明らかにする。さらに、その援助過程を学ぶことにより、対象理解を深め、看護職者としての態度を培う。

【到達目標】

1. 患者との関わり(相互作用)を振り返ることで、円滑な人間関係を築く過程について理解する。
2. 健康上に問題のある患者の生活と環境について理解することができる。
3. 患者の健康障害に焦点をあて、アセスメントを通して健康や生活に関わる問題とその援助について明らかにすることができる。
4. 患者にとって必要な援助を実施することができる。
5. 患者への看護を通して看護職者としての態度を養うことができる。

【履修条件】

看護学概論、基礎看護技術論、日常生活援助論、治療援助論、看護展開論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学臨地実習Ⅰを修得していること。

【授業計画】

- 実習1日目 オリエンテーション(実習病院の概要)、カンファレンス
 実習2～9日目 病院実習－受け持ち患者を通して看護を実践－
 実習10日目 実習の振り返り、まとめ、評価面接

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学習：基礎看護学で学習した看護展開論Ⅰ・Ⅱ、日常生活援助論などの学びを振り返りまとめる(2～3時間)。
 看護技術(バイタルサインの測定、日常生活の援助技術)については、安全・安楽に実施できるよう事前学習する(2～3時間)。
 事後学習：1日の実習終了後に各自体験したことを振り返り記述する(2～3時間)。実習での学びを振り返り課題レポートとして記述する(3時間)。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価(60%)、課題レポート(15%)、実習態度(15%)、カンファレンス(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については3年前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし。

【参考書】

基礎看護学で使用した以下のテキストを参考書とする。

1. 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版。
2. 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版。

【備考】

- ・看護展開論Ⅰ・Ⅱで学ぶ「看護過程」と「ヘルスアセスメント」について理解をしておく。
- ・基礎看護学臨地実習Ⅱの学びは3年次の看護専門分野の基礎となる。
- ・看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		成人看護学概論		担当教員	◎岡本 明美、千葉 恵子、 何 雨竹	科目ナンバリング NS258
必修	開講年次：2 年前期		単位：2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

成人期にある人の生活や健康を包括的に理解するうえで、現代を生きる成人の健康生活を多角的にとらえ、成人期にある人を対象とした看護の基盤となる考え方や理論と援助方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 成人期にある人の健康問題の特徴について説明できる。
2. 成人期にある人を看護するための基本的な考え方について説明できる。
3. 健康の保持・増進に取り組む成人と看護のあり方について説明できる。
4. 健康状態が急激に悪化した成人の特徴と看護のあり方について説明できる。
5. 慢性疾患と共存する成人の特徴と看護のあり方について説明できる。
6. 人生の最期のときを迎える成人の特徴と看護のあり方について説明できる。
7. 成人看護における倫理的課題と看護師の役割について説明できる。
8. 成人患者を対象に看護過程が展開できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|-----------|
| [01] ガイダンス：成人看護学とは | (岡本) |
| [02] 成人をとりまく今日の状況：家族、生活スタイル、環境問題、死生観 | (岡本) |
| [03] 成人期にある人々の健康①：健康とは、保健・医療・福祉政策と健康問題 | (岡本) |
| [04] 成人期にある人々の健康②：生活習慣・職業・ストレス・セクシュアリティに関連する健康問題 | (岡本) |
| [05] 成人期にある人を看護するための基本的な考え方：セルフケア、大人の学び、意思決定支援 | (岡本) |
| [06] 健康の保持・増進に取り組む成人と看護のあり方 | (岡本) |
| [07] 健康状態が急激に変化し急性の状態にある成人と看護のあり方 | (岡本) |
| [08] 慢性疾患と共存する成人と看護のあり方 | (岡本) |
| [09] 生活の再構築を必要としている成人と看護のあり方 | (岡本) |
| [10] 人生の最期のときを迎える成人と看護のあり方 | (岡本) |
| [11] 看護過程の展開(講義) | (千葉) |
| [12] 成人看護における倫理的課題と看護師の役割 | (岡本) |
| [13] 看護過程の展開(グループワーク)：アセスメント、問題の明確 | (千葉・岡本・何) |
| [14] 看護過程の展開(グループワーク)：具体策の立案 | (千葉・岡本・何) |
| [15] 看護過程の展開(講義)：評価 | (千葉) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業内容に合わせて教科書等を読む。授業時に提示された事前学習課題を行うこと。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容を復習し理解を深める。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験：60%、課題レポート30%、看護過程に関する課題：10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

筆記試験問題の解答は何らかの形で開示する。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

林直子他編集(2025)、看護学テキスト NiCE、成人看護学 成人看護学概論(改訂5版)、南江堂

【参考書】

図説国民衛生の動向 2023/2024 厚生労働統計協会／編集

【備考】

特になし

授業科目名		慢性期成人看護援助論		担当教員	◎千葉 恵子、岡本 明美	科目ナンバリング NS259
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 2 単位	授業形態： 演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ：根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

慢性疾患の概念を理解し、慢性期疾患を持つ人がその人らしく生き、療養生活を送るための援助方法について学ぶ。あらゆる健康障害のある成人の診断、治療過程に伴う変化や、反応、体験を機能障害の視点から理解し、それらに対する援助方法を習得する。各論においては、あらゆる健康障害のある成人の診断、治療過程に伴う変化や、反応、体験を機能障害の視点から理解し、看護援助方法を修得する。

【到達目標】

1. 慢性期・回復期にある成人の健康問題と生活の特性を理解する。
2. 慢性疾患を持つ人への療養生活支援についての知識と技術を習得する。

【履修条件】

「成人看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 慢性期看護の特徴 (千葉)
- [02] 慢性期看護の支援技術 (岡本)
- [03] 慢性的な機能障害のある人への支援技術 呼吸機能障害のある患者への支援技術 COPD (千葉)
- [04] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開①(COPD) (千葉・岡本)
- [05] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開②(COPD) (千葉・岡本)
- [06] 循環機能障害のある患者への支援技術 心不全 (千葉)
- [07] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開③(心不全) (千葉・岡本)
- [08] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開④(心不全) (千葉・岡本)
- [09] 消化機能障害のある患者への支援技術 肝炎 (岡本)
- [10] 消化機能障害のある患者への支援技術 潰瘍性大腸炎・クローン病 (岡本)
- [11] 脳神経機能障害のある患者への支援技術 パーキンソン病 (千葉)
- [12] 脳神経機能障害のある患者への支援技術 ALS (千葉)
- [13] 脳神経機能障害のある患者への支援技術 脳出血 (千葉)
- [14] 脳神経機能障害のある患者への支援技術 脳梗塞 (千葉)
- [15] 腎機能障害のある患者への支援技術 慢性腎不全 (岡本)
- [16] 免疫機能障害のある患者への支援技術 関節リウマチ・全身性エリテマトーデス (岡本)
- [17] 代謝機能障害のある患者への支援技術 糖尿病 (千葉)
- [18] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑤(糖尿病) (千葉・岡本)
- [19] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑥(糖尿病) (千葉・岡本)
- [20] 成人がん看護学 がんの発生と疫学 (岡本)
- [21] がん治療と看護 (手術・がん薬物療法・放射線療法) (岡本)
- [22] がんの診断から治療プロセス (岡本)
- [23] 臓器別がんと看護の特徴 咽頭がん 喉頭がん (岡本)
- [24] 臓器別がんと看護の特徴 肺がん (岡本)
- [25] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑦(肺がん) (千葉・岡本)
- [26] 事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑧(肺がん) (千葉・岡本)
- [27] 臓器別がんと看護の特徴 肝がん 膵がん (千葉)
- [28] 臓器別がんと看護の特徴 子宮がん・卵巣がん 前立腺がん (千葉)
- [29] 臓器別がんと看護の特徴 白血病 (千葉)
- [30] 臓器別がんと看護の特徴 脳腫瘍 (千葉)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：人間機能学(形態と機能)、人間病態学Ⅰ・Ⅱで学んだ人間の正常な形態と機能、疾患の成り立ちと治療法について復習しておく。(2～3時間)

事後学習：テキストを基に講義中の内容をくわえ、ノートを作成し復習を行うこと。(2～3時間)

【評価方法・評価基準】

定期試験60%、課題学習40%で評価をする

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

試験の回答は試験期間後にフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション

【ICT・オープン教育リソース】

Web アンケートシステム(Microsoft Forms)を活用した双方向型授業を行う。

【教科書】

宮脇郁子 旗持知恵子 編集(2024)：看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術－慢性看護 第3版 メヂカルフレンド社
安藤祥子 編集(2022)：看護学専門分野教科書シリーズ 成人がん看護学 第1版 理工図書株式会社

【参考書】

鈴木久美 旗持知恵子 佐藤直美 編集(2023)：看護学テキスト NICE 成人看護学 慢性期看護(改訂第4版) 病気とともに生活する人を支える 南江堂
黒江ゆり子 編集(2021)：新体系看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 第2版 メヂカルフレンド社

【備考】

事例で考える慢性疾患の看護：看護過程の展開では、グループディスカッションにより、自分で考え、他学生とその考えを共有する
としたアクティブラーニングで展開する。

ICTを活用し、事前学習の成果の確認、復習に活用する。

授業科目名		高齢者看護学概論		担当教員	◎長江弘子、那須真弓、酒井武志、 阿部美鈴、久保正治	科目ナンバリング NS261
必修	開講年次：２年後期		単位：２単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

高齢者の健康増進や QOL(Quality of Life)の向上についての学問的追求と知識の向上をはかることは、長寿社会を迎えた日本、特に高齢化率の高い南房総地区においては重要な課題である。このコースは、高齢者を身体・生理的側面、ライフステージ、社会的側面から理解し、適切は看護を実践するための理論と技術を学ぶ。

【到達目標】

目的：高齢者看護学の基礎的理解のために、高齢者の理解を深め、高齢者にとっての健康とは何か、幸せとは何かについて考える。そのうえで高齢者の希望や生きがい、健康レベルに応じた看護実践に求められる基礎的な知識と技術と態度を習得する。

1. 高齢者を取り巻く社会状況や保健医療制度について説明できる。
2. 高齢者の発達課題や健康について自分の考えを述べることができる。
3. 高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
4. 高齢者が保持している能力を活用しながら看護を展開する必要性と、その方法について説明できる。
5. 身体・精神機能の加齢変化を理解し、予防的視点から高齢者看護について説明できる。
6. 高齢者看護に応用される理論について述べることができる。
7. 高齢者看護領域における倫理的問題について説明できる。
8. 老いること、死んでいくことについて自らの考えを述べるができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------------|
| [01] 講義のオリエンテーション老年期を生きる人の理解と老年看護
AL 課題と課題レポート①～⑤の提示 | (長江) |
| [02] 身体面の加齢変化と生活への影響、体力測定・交流会の説明 | (酒井) |
| [03] 加齢による心理・社会的側面の変化 | (那須) |
| [04] 高齢者の暮らしを支える社会資源・厚生統計からみた高齢者像 | (長江) |
| [05] 演習：高齢者の体力測定体験：リハーサル | (長江・那須・酒井・阿部) |
| [06] 演習：高齢者の体力測定補助と交流：実際 | (長江・那須・酒井・阿部) |
| [07] 演習：高齢者の体力測定補助と交流：実際 | (長江・那須・酒井・阿部) |
| [08] 老年看護に活用できる理論・アプローチ | (長江) |
| [09] 高齢者の健康生活の支援(ICF) | (那須) |
| [10] 高齢者とその家族への看護 | (酒井) |
| [11] 高齢者の人生の最終段階における看護(エンドオブライフケア) | (長江) |
| [12] 高齢者の倫理的課題 | (酒井) |
| [13] 高齢者が豊かな人生を送ることを支える地域とは
高齢者の権利擁護と倫理的課題(鴨川市の取り組みと寸劇) | (久保・長江) |
| [14] 高齢者が豊かな人生を送ることを支える地域とは
高齢者の権利擁護と倫理的課題(鴨川市の取り組みと寸劇) | (久保・長江) |
| [15] 「高齢者との対話」を経験して、高齢者の多様な生き方や価値観を学ぶ | (長江・那須・酒井・阿部) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された AL 課題並びに事前課題をテキスト・参考文献等を活用して自己学習してワークシートにまとめ、授業に臨むこと、又、授業に関連した疑問や質問を明確にする。(1時間)

事後学習：授業資料や教科書を読み、該当課題に追記し学習内容の補充・復習を行う。授業後の小テストに備える。小テスト終了後、当該課題のワークシートを提出する(2時間)

【評価方法・評価基準】

- ・試験成績70%(小テスト合計(20%)+定期試験(50%))
- ・AL 課題及び課題レポート学習30%(課題レポートには①高齢者擬似体験、②高齢者体力測定と交流、③高齢者虐待予防法、④権利擁護(寸劇)、⑤対話体験)
- ・成績は試験得点合計が60%以上で課題学習点を含めた総合点とする

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

小テストの問題は回収せずに正解を1週間掲示し、レポートは評価点を記載して学期内に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／調査学習／反転授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

水谷信子他監修三重野英子他編集(2025)。最新老年看護学第4版日本看護協会出版

【参考書】

適宜提示

【備考】

特になし

授業科目名		精神保健看護学概論		担当教員	◎中島 洋一、松丸 直美、 松谷 典洋	科目ナンバリング NS263
必修	開講年次：2 年前期		単位：2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

精神保健看護の基本理念についての学習に焦点を当てる。精神の健康問題は人々の重大な関心事である。特にノーマライゼーションが注目を浴びている近年、これに対する看護職の社会的役割と機能が拡大している。精神疾患や精神障害を持つ人が社会に参加しながら、自分らしく生活するための支援体制の一環として看護職が寄与する方向を探り、看護職としての社会的責務を果たすための必要な知識と技術について学ぶ。また、精神科に限らず、他診療科においても精神障害の症状を見かけることも少なくない。本科目では、それらの人々の看護援助のために、精神疾患を専門に扱う施設及び病棟以外で患者が精神症状を示した場合の対応や看護援助活動についても学ぶ。

【到達目標】

1. 精神保健(メンタルヘルス)を巡る国際的および国内の状況について理解する。
2. 心の構造とその形成過程、および心の発達過程について理解する。
3. ストレスとその対処方法、メンタルヘルスを維持する方法について理解する。
4. 精神保健医療の歴史的変遷・法制度について理解する。
5. 精神疾患・精神障害の分類体系について理解する。
6. 代表的な精神障害の病態像・症状・治療・経過について理解する。
7. 自殺予防の看護について理解できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|------|
| [01] 心の健康と社会－精神保健を巡る国際的および国内の状況 | (中島) |
| [02] 心の構造とその形成過程－人格の構造と自我防衛機制 | (田中) |
| [03] 心の発達過程－心理社会的発達と危機 | (中島) |
| [04] ストレスへの対処と適応 | (中島) |
| [05] 精神保健医療の歴史1－精神医学の成り立ち | (中島) |
| [06] 精神保健医療の歴史2－日本における歴史 | (中島) |
| [07] 精神保健医療の法制度 | (中島) |
| [08] 精神疾患、精神障害の分類体系－ICD、DSM、ICF | (中島) |
| [09] 統合失調症(急性期・慢性期)－病態像・症状・治療・経過 | (中島) |
| [10] 双極性障害・抑うつ障害－病態像・症状・治療・経過 | (松丸) |
| [11] 不安障害・強迫性障害・心的外傷およびストレス関連障害－病態像・症状・治療・経過 | (松谷) |
| [12] パーソナリティ障害－病態像・症状・治療・経過 | (中島) |
| [13] 摂食障害と物質関連障害－病態像・症状・治療・経過 | (中島) |
| [14] 発達障害－病態像・症状・治療・経過 | (松丸) |
| [15] 自殺予防の看護 | (中島) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書や参考書やネットで、授業に関連する内容を、1時間程度事前に調べ、疑問を整理しておくこと。

事後学習：①心と社会の関連について、日頃からニュース報道や新聞報道でも関心を払い、心の問題と社会との関係について自分の見識を深めていくこと。②心の病から回復した当事者の本を読み、心を病むこととそこから回復することについて、経験のレベルで理解するよう努めること。1時間程度の事後学習。

【評価方法・評価基準】

期末試験(50%)、授業の際に実施する小テスト(30%)、授業参加リフレクティブレポート(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業参加リフレクティブレポート、授業の際に実施する小テストについて、授業時間中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

太田保之編(2014)：学生のための精神医学 第3版 医歯薬出版

田中美恵子編著(2024)：精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版

【参考書】

融道男、小宮山実(2005)：ICD-10 精神および行動の障害-臨床記述と診断ガイドライン、医学書院

American Psychiatric Association (2023)：DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル、医学書院

世界保健機構(WHO)(2002)：ICF 国際生活機能分類、中央法規出版

小俣和一郎(2002)：近代精神医学の成立、人文書院

八木剛平・田辺英(2002)：日本精神病理学、金原出版

G.O. ギャバード(1998)：精神力動的な精神医学①理論編、岩崎学術出版

前田重治(1985)：図説 臨床精神分析学、誠信書房

田中美恵子・濱田由紀編著(2023)：ナースングポケットマニュアル 第3版、医歯薬出版

田中美恵子編著(2009)：精神障害者の退院計画と地域支援、医歯薬出版

【備考】

この科目は、特に精神保健看護援助論、精神保健看護学臨床実習と深いつながりをもつので、さらに深い学習のために、この科目をきちんと学んでおくことが重要である。

看護師として10年以上の臨床経験をもつ教員が講義をする。

授業科目名		精神保健看護援助論		担当教員	◎中島 洋一、松丸 直美、 松谷 典洋、三井 健治	科目ナンバリング NS264
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 2 単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力			

【授業概要】

精神保健看護学概論に基づいて、このコースは、精神看護の展開に必要な看護の方法論について学ぶ。看護師は、ケアの人間関係や人としての尊厳を尊重し、対象者とのコミュニケーションの技法(関係性のアセスメント、寄り添うこと、傾聴、話をすること、コンフロンテーション、プロセスレコーディング、グループワーク)について学ぶ。

【到達目標】

1. 精神看護の目的・機能、精神看護に特徴的な倫理について理解する。
2. セルフケア看護理論に基づいて看護を展開できる能力を養う。
3. 精神状態のアセスメントの技法を身につける。
4. 対人関係の展開をプロセスレコードを使って内省する能力を養う。
5. 精神科の基本的な治療方法と看護の役割について理解する。
6. 精神科リハビリテーションの概念、地域包括ケア、家族ケア、訪問看護等について理解する。
7. セルフヘルプグループやリカバリーの概念について理解する。
8. 代表的な精神疾患患者への看護援助方法について理解する。
9. 入院治療の特徴と安全管理について理解できる。
10. リエゾン精神看護の概念、技法について理解する。
11. 統合失調症患者、気分障害患者への看護計画を立案できる。
12. 当事者の視点について理解する。

【履修条件】

「精神保健看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

[01] 精神看護の目的・機能、および精神看護倫理	(中島)
[02] 精神障害者へのセルフケア看護	(中島)
[03] セルフケア行動変容の演習 課題をもとに演習形式で進める	(中島・松丸・松谷)
[04] 対人関係とコミュニケーション1ー患者ー看護師関係の形成とプロセスレコード	(中島)
[05] 対人関係とコミュニケーション2ープロセスレコードの演習 グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[06] 対人関係とコミュニケーション3ープロセスレコードの演習 グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[07] 精神状態のアセスメント	(中島)
[08] 薬物療法と看護	(中島)
[09] 精神療法・集団療法と看護	(松丸)
[10] SST・心理教育・認知行動療法	(中島)
[11] 家族への援助	(松丸)
[12] 精神科リハビリテーションと多職種連携、地域包括ケア	(松丸)
[13] 精神障害者への訪問看護	(松丸)
[14] セルフヘルプグループとリカバリー	(松丸)
[15] 統合失調症(急性期)患者への看護	(松谷)
[16] 統合失調症患者(慢性期)への看護	(松谷)
[17] 双極性障害患者・抑うつ障害患者への看護	(松丸)
[18] パーソナリティ障害患者への看護	(中島)
[19] 摂食障害患者、物質関連障害患者への看護	(中島)
[20] 不安障害・強迫性障害・心的外傷およびストレス因関連障害患者への看護	(松谷)
[21] 発達障害患者・患児への看護	(松丸)
[22] 精神科における身体合併症患者への看護と精神科ターミナル	(松谷)
[23] 精神科入院治療の目的と看護援助	(三井)
[24] 安全管理とリスクマネジメント	(中島)
[25] リエゾン精神看護1ー定義・目的、身体疾患患者の抑うつ・不安・せん妄へのケア	(松谷)
[26] リエゾン精神看護2ーコンサルテーションと看護師のメンタルヘルス支援	(松谷)
[27] 看護計画立案の演習1(統合失調症急性期患者) グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[28] 看護計画立案の演習2(統合失調症慢性期患者) グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[29] 看護計画立案の演習3(気分障害患者) グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[30] 当事者の視点	(中島・松丸・松谷)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：概論で学んだ各精神疾患の病態像・症状・治療・経過を復習しておくこと。(1時間程度)

事後学習：臨地実習に備えて、授業内容で不明であったことを調べ、復習すること。(1時間程度)

【評価方法・評価基準】

期末試験(50%)、小テスト・リフレクティブレポート(30%)、提出物(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

リフレクティブレポート、及び小テストについて授業時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション/グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

田中美恵子編著(2024)：精神看護学ー学生ー患者のストーリーで綴る実習展開、第2版、医歯薬出版、

【参考書】

1. 田中美恵子編著(2010)：精神障害者の退院計画と地域支援、医歯薬出版
2. 田中美恵子・濱田由紀編著(2017)：ナースングポケットマニュアル精神看護学、第2版、医歯薬出版
3. 野嶋佑由美監修・粕田孝行著(2000)：セルフケア看護アプローチ、第2版、日総研
4. 野末聖香編(2011)：リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版

【備考】

この科目は、特に精神保健看護学臨地実習と深いつながりをもつので、さらに深い学習のために、この科目をきちんと学んでおくことが重要である。

看護師として10年以上の臨床経験をもつ教員が講義をする。

授業科目名	在宅看護学	担当教員	◎本田彰子、伊藤隆子、東森由香、鈴木玲子、千葉恵子、木村奈津子、鈴木茂樹、齋藤 恵、鎌田喜子、吉野有美子	科目ナンバリング NS265
必修	開講年次：2年後期	単位：3単位	授業形態：講義30時間 演習30時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力		

【授業概要】

在宅看護の対象者を理解し、地域で生活する在宅療養者と家族への支援に求められる看護の基礎的知識と技術を習得する。

【到達目標】

1. 在宅看護の対象者を理解し、地域で生活する在宅療養者と家族への支援に求められる看護の基本的知識と技術を習得する。
2. 在宅看護を取り巻く社会状況・制度やサービスについて述べられる。
3. 在宅療養者と家族に対する看護を表現できる。
4. 医療処置の必要な在宅療養者の観察項目を述べられる。
5. 在宅療養者に実施される医療・看護技術を体験する。
6. 訪問看護における情報収集を模擬収集することができる。
7. 訪問看護を疑似体験する。
8. 在宅療養者・家族への専門職の支援について討議できる。
9. 家族介護者の体験を傾聴できる。
10. 在宅療養者と家族の心情を感じとれる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 在宅看護をとりまく社会状況と法・制度 (本田)
- [02] 訪問看護の機能と訪問看護ステーション【課題1-1】「プロフェッショナル仕事の流儀」 (本田・東森)
- [03] 在宅における訪問看護「訪問看護において必要な倫理と態度」Forms 確認テスト1(制度) (本田)
- [04] 【対談】インクルーシブな教育を実現するために「看護」は必要か？(ゲストスピーカー) (東森・鈴木玲)
- [05] 障害のある小児の療養者と家族への看護 (木村)
- [06] 在宅の事故対応 (鈴木玲)
- [07] 排泄機能障害のある療養者と家族への在宅看護 Forms 確認テスト2(訪問看護・事故) (鈴木玲)
- [08] 在宅における住環境の整備【課題3】住環境 (東森)
- [09] 【課題1-2】「地域包括ケアシステムの実践」 (東森)
- [10] 神経難病のある療養者と家族への在宅看護 Forms 確認テスト3(小児・排泄・住環境) (鈴木玲)
- [11] アドバンスケアプランニング【体験型学習】 (千葉・東森)
- [12] 訪問看護導入における視点と態度(演習)【課題4】訪問看護疑似体験 (本田・東森・鈴木玲)
- [13] 在宅療養者と家族を支える専門職連携 Forms 確認テスト4(難病) (東森)
- [14] 【課題2-1】訪問看護における情報収集(介護保険) (鈴木玲)
- [15] 栄養摂取困難のある療養者と家族への在宅看護 Forms 確認テスト5(連携) (鈴木玲)
- [16] 認知症サポーター養成講座(鴨川市) (東森・鈴木玲)
- [17] 呼吸障害のある療養者と家族への在宅看護 (鈴木玲)
- [18] 【課題2-2】訪問看護における情報収集(医療保険) Forms 確認テスト6(栄養・呼吸) (東森)
- [19] 家族アセスメントと療養者・家族への教育 (伊藤)
- [20] ロールプレイによって在宅における家族看護のあり方を考える (伊藤・東森・鈴木玲)
- [21] ロールプレイによって在宅における家族看護のあり方を考える【演習】Forms 確認テスト7(アセスメント) (伊藤・東森・鈴木玲)
- [22] ロールプレイによって在宅における家族看護のあり方を考える【全体発表】 (伊藤・東森・鈴木玲)
- [23] 在宅酸素療法(HOT)と人工呼吸器使用の療養者への支援 (鈴木茂)
- [24] 【演習】HOTと人工呼吸器使用療養者への支援 訪問看護における情報収集(医療保険) (鈴木茂・鈴木玲・東森)
- [25] 在宅療養者と家族介護者の生活 (本田・東森・鈴木玲)
- [26] 【対談】在宅療養者と家族介護者の生活 (本田・東森・鈴木玲)
- [27] 在宅看護における職種間連携 在宅看護における職種間連携 ケアマネージャーによる支援の実践 (本田・東森・鈴木玲・齋藤)
- [28] 入院患者・家族への退院調整看護師による退院支援の実践 ソーシャルワーカーによる支援の実践 (鎌田・吉野)
- [29] 南房総における訪問看護【シンポジウム】「やりがい事例と苦悩事例」(ゲストスピーカー) (本田・東森・鈴木玲)
- [30] 【シンポジウム】「やりがい事例と苦悩事例」グループ討議 (本田・東森・鈴木玲)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行い授業に臨むこと。(2時間)

事後学習：各講義の事後学習として翌週に小テストを実施する。指定された課題を指定用紙に記載して提出する。(1時間)

【評価方法・評価基準】

試験成績(定期試験)60%、課題学習40%にて評価する。

合格は試験得点が60%の得点(36点/60点)以上で、総合点が60点以上とする。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

レポートは評価点を記載して学期内に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習/グループディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/ワークショップ/対話・議論型授業/ロールプレイ/反転授業

【ICT・オープン教育リソース】

Formsによる確認テスト

【教科書】

特に定めなし。

【参考書】

指定なし。授業の度に資料を配布し、参考文献等を提示する。

【備考】

1回目の授業で受講にあたっての注意点を確認する。必ず出席すること。

看護師として3年以上の臨床経験を持つ教員が移動する。

授業科目名		ウィメンズヘルス看護学概論		担当教員	◎志村 千鶴子、下 睦子、 小出 加代子、吉田 美和	科目ナンバリング NS283
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

女性の健康を心理、社会、文化的側面を重視する視点から考え、女性の健康の基礎となる主要な概念について論議する。主な概念として女性のリプロダクティブ・ヘルスと権利、ジェンダーとセクシュアリティ、ヘルスプロモーション、家族看護、メンタルヘルス、ヘルスアセスメントを含む。更に女性のライフサイクル(生涯)を通じて、女性の健康を支援するための考え方と看護支援を学ぶ。

【到達目標】

1. 女性の健康に関連する概念や理論および女性の生涯の健康における生涯発達の視点から支援の必要性を理解し、説明することができる。
2. 女性生殖器の形態と機能、性周期と月経について理解し、説明することができる。
3. 女性のライフサイクル各期におけるヘルスプロモーション、健康問題とその看護について理解し、説明することができる。
4. 母性の健康や次世代の健康の継承のために、母性看護の役割や課題について理解し、説明することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|--------|
| [01] ウィメンズヘルスの概念、人間にとっての性、母性の特徴 | (下) |
| [02] 女性の健康問題とその看護、女性生殖器の形態と機能、妊娠成立のメカニズム | (下) |
| [03] ライフサイクル各期の女性の健康問題とその看護(グループワーク；テーマ・内容抽出) | (下・志村) |
| [04] ライフサイクル各期の女性の健康問題とその看護(グループワーク；内容整理・発表準備) | (下・志村) |
| [05] ライフサイクル各期の女性の健康問題とその看護(グループワーク；発表・討議) | (下・志村) |
| [06] 思春期の健康問題と看護(性の健康、性感染症、人工妊娠中絶と避妊など) | (下) |
| [07] 成熟期の健康問題と看護(不妊看護、出生前診断など) | (下) |
| [08] DV とその看護 | (下) |
| [09] 更年期・老年期の健康問題と看護(更年期障害・骨粗しょう症・尿失禁など) | (下) |
| [10] 周産期医療体制と事故防止 | (下) |
| [11] 人間の生(性)について 映画“うまれる”の鑑賞と討論(グループワーク) | (小出) |
| [12] 人間の生(性)について 映画“うまれる”の鑑賞と討論・発表(グループワーク) | (小出) |
| [13] 在日外国人妊産婦および母子への支援 | (吉田) |
| [14] 母子への災害支援(グループワーク) | (吉田) |
| [15] 母子保健統計、母子保健に係る法律と施策、母子保健の展望と課題 | (下) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：講義テーマに応じ、提示された事前課題の学習を行うこと(1時間)。

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと(1時間)。

【評価方法・評価基準】

筆記試験の成績(60%)、毎回の授業出欠席表の記載内容(10%)、3～5回目授業への貢献度および発表内容(15%)、11・12回目授業の課題レポートの記載内容(15%)により総合的に評価する。再試験は実施しない。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

学生は、授業出欠席表に毎回の授業コメントを記載し、質問等があれば、教員が対応する。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

渡邊浩子他(2022). 母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護,メヂカルフレンド社.

【参考書】

特に指定しない。授業の度に資料を配布し、参考文献等を提示する。

【備考】

- ・ウィメンズヘルスに関連する概念、女性のライフサイクル各期の健康とその看護について理解することは、3年次前期の周産期看護援助論を学習するための基盤となる。
- ・助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が教授する。

授業科目名		小児保健看護学概論		担当教員	◎大野 知代、吉野 妙子、 高橋 玲子	科目ナンバリング NS286
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

変化する社会のなかで、子どもと家族のおかれている状況を的確に判断し、成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を学ぶ。

また、小児看護の対象である家族との関わりの中で、子どもが本来持っている力を引き出す看護について学ぶ。

【到達目標】

1. 子どもの成長・発達段階に応じて子どもと、その家族への看護の必要性を理解することができる。
2. 地域社会に置かれた子どもとその家族の健康・生活状況をふまえて学習することができる。
3. 家族看護学および小児看護学の概念を理解し、総合的に看護・支援等について考えることができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--------------------------------|------|
| [01] 全体ガイダンス／オリエンテーション、小児看護の概要 | (大野) |
| [02] 小児看護で用いる理論について | (大野) |
| [03] 小児看護の変遷と課題について | (高橋) |
| [04] 小児と家族を取り巻く社会について | (高橋) |
| [05] 小児看護における倫理について① | (吉野) |
| [06] 小児看護における倫理について② | (吉野) |
| [07] 小児の成長発達について | (吉野) |
| [08] 小児の栄養について | (吉野) |
| [09] 乳児期の小児の成長発達の特徴について | (吉野) |
| [10] 乳児期の小児の健康問題と看護について | (吉野) |
| [11] 幼児期の小児の成長発達の特徴について | (吉野) |
| [12] 幼児期の小児の健康問題と看護について | (吉野) |
| [13] 学童期～青年期の小児の成長発達の特徴について① | (吉野) |
| [14] 学童期～青年期の小児の健康問題と看護について② | (吉野) |
| [15] 学童期～青年期の小児の健康問題と看護について③ | (吉野) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：小児の発達心理学をはじめ既習の関連教科をもとに予習し授業に臨むこと(2時間)。

事後学習：各授業回の終了時には、既習の知識の再確認と復習を行い次年度の援助論につなげること(2時間)。

【評価方法・評価基準】

筆記試験：80%、課題レポート：20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

試験やレポート等のフィードバックについては、口頭で全体にコメントまたは必要に応じて添削し個々に返却する。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

1. 奈良間美保他(2020). 小児看護学【1】小児看護学概論・小児臨床看護総論、医学書院
2. 奈良間美保他(2020). 小児看護学【2】小児臨床看護各論、医学書院

【参考書】

1. 中野綾美編集(2019). ナーシンググラフィカ小児看護学小児の発達と看護、メディカ出版
 2. 松尾宣武・濱中喜代編集(2019). 小児看護学概論・小児保健、メヂカルフレンド社
 3. 二宮啓子他編集(2017). 小児看護学概論、南江堂
 4. 日本子どもを守る会編集(2021). 子ども白書、草土文化
 5. 母子愛育会愛育研究所(2022). 日本子ども資料年鑑、KTC 中央出版
 6. 日本小児看護学会編集(2007). 小児看護事典、へるす出版
 7. 服部祥子著(2020). 生涯人間発達論、医学書院
- 上記以外の参考書については授業で適宜紹介する。

【備考】

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		公衆衛生看護とヘルスプロモーション		担当教員	◎上田修代、鶴岡章子、田中有里、 栗原美由紀、鈴木早苗、茅谷志津子	科目ナンバリング NM262
必修	開講年次：2年後期		単位：1単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

公衆衛生看護の概念と公衆衛生看護活動を担う保健師の役割・機能と活動の場について理解する。特に、保健所保健師や市町村保健師の役割と活動の特徴について理解を深める。また、地域に顕在および潜在している健康課題を把握・分析し、ヘルスプロモーションの理念に基づいた個別および集団支援、地域づくりの方法について学修する。

【到達目標】

1. 公衆衛生看護の概念、活動の場の特性、保健師の役割と機能を理解できる。
2. 保健所保健師および市町村保健師の役割を理解できる。
3. 地域に顕在および潜在している健康課題を把握・分析する手法を理解できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---------|
| [01] 授業オリエンテーション、公衆衛生看護の定義、目的、活動の場
保健所および市町村保健センターの機能、保健所保健師の役割と機能および活動の特徴 | (上田) |
| [02] 市町村保健師の役割と機能および活動の特徴 | (田中) |
| [03] 健康管理支援室・健康施設の看護 | (栗原) |
| [04] 健康維持施設(外来)の看護 | (鈴木) |
| [05] 学校保健活動 | (茅谷) |
| [06] 地域診断の目的と方法(コミュニティ・アズ・パートナーモデル) | (上田) |
| [07] 地域診断の実際① | (上田・鶴岡) |
| [08] 地域診断の実際② | (上田・鶴岡) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：新聞、メディアの情報等に関心をもち、現代社会における健康課題と公衆衛生看護活動の関連について理解しておく(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を授業時に配布した資料や教科書等で復習しておく(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

嶋野洋子他(2024)：公衆衛生看護学.jp(第6版),インターメディカル。

【参考書】

厚生労働統計協会：国民衛生の動向(最新版),厚生労働統計協会。

【備考】

本科目は、1年次の「地域の健康と看護」を基盤とし、かつ後に続く公衆衛生看護学関連科目の基礎となる科目である。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		看護教育		担当教員	◎有家 香、中川 泰弥	科目ナンバリング NM261
必修	開講年次：2 年後期		単位：1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、 Ⅵ．継続的に専門性を向上させる実践能力			

【授業概要】

教育とは何か、看護教育とは何か、従来の教育学(ペダゴジー)と成人教育学(アンドラゴジー)の概念など基礎的理論について学ぶ。また、人々の発達に応じた学習について理解し、相手の理解力や立場に合わせた看護の教育的かわりや指導について理解する。

【到達目標】

1. 教育の定義と概念について説明できる。
2. 自己教育と生涯教育について説明できる。
3. 教育学(ペダゴジー)と成人教育学(アンドラゴジー)の概念など基礎的理論について説明できる。
4. 看護教育の概要、看護の授業過程の展開について説明できる。
5. 教育課程(自己教育)の展開ができる。
6. 看護の場のさまざまな教育について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---------|
| [01] 教育の定義と概念、自己教育と生涯教育 | (有家) |
| [02] 教育学(ペダゴジー)と成人教育学(アンドラゴジー)の概念など基礎的理論、
看護の場のさまざまな教育(看護基礎教育、看護継続教育、卒後教育) | (有家) |
| [03] 看護教育の概要、看護の授業過程の展開 | (中川) |
| [04] 学習計画の立案①：グループワーク | (中川・有家) |
| [05] 学習計画の立案②：グループワーク | (中川・有家) |
| [06] 学習計画の評価修正：グループワーク | (中川・有家) |
| [07] 学習計画の成果報告：グループワーク | (中川・有家) |
| [08] 患者教育に必要な理論と応用、看護教育の実践の統合 | (有家) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前に提示された課題を行って講義に臨む(1時間)。

事後学習：教育の概要、基礎的理論など講義内容を振り返り理解を深める。学習計画に基づいた実施(2時間)。

【評価方法・評価基準】

課題レポート70%、グループ討議30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

グループワークは、実施後にフィードバックする。課題レポートは必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

特に指定しない。

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

毎回の授業で資料を配布する。

【備考】

看護教育について学ぶことで、今後の学習の動機づけになるため、各自学びを深められるように授業に臨む。

授業科目名		看護と法律		担当教員	中島 洋一	科目ナンバリング NM265
必修	開講年次： 2 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力			

【授業概要】

人々の健康を守るためのサービス提供機関と医療従事者の役割や機能についての基本的な法律や問題などについて、特に看護師に焦点を当てながら関係法規を中心に学ぶ。

【到達目標】

1. 保健医療福祉制度・政策の歴史から、看護の現状と動向を説明できる。
2. 社会政策や看護政策が看護の発展に影響を及ぼしてきたことを説明できる。
3. 保健師助産師看護師法、医療法及び関連する法律と看護実践との関連について説明できる。
4. 保健、医療、福祉のなかで看護の果たす役割についての認識を高める。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 医療関連法規の概要
- [02] 医療提供に関連する法律(保健師助産師看護師法)①
- [03] 医療提供に関連する法律(保健師助産師看護師法)②
- [04] 医療施設に関連する法律(医療法)
- [05] 労働に関連する法律(労働基準法、労働安全衛生法)
- [06] 社会福祉及び障害者に関連する法律(障害者基本法)
- [07] 社会福祉に関連する法律(生活保護法)
- [08] まとめ(学んだことの振り返り)グループワーク

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の学習を行うこと。(2時間程度)

事後課題：授業内容を復習し、他の科目と関連付けて理解を深めること。(2時間程度)

【評価方法・評価基準】

課題レポート90%、グループワーク10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては授業中に傾向を示しフィードバックを行う。グループ討議やその記録については評価し前期終了前に返却する。

看護師として10年以上の臨床経験をもつ教員が講義をする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 村岡潔他(2021). 保健医療福祉のしくみ・看護と法律 第13版,メヂカルフレンド社.
2. 藤内修二他(2017). 保健医療福祉行政論第4版,医学書院.
3. 田中幸子(2020). 看護関係法規,南江堂.
4. 森山幹夫(2020). 看護関係法令,医学書院.

【備考】

2年次前期で開講される医療安全と関係が深く、また全ての看護領域における制度や法律とも関連するため学習を積み重ねていけるように自ら取り組むこと。

看護師として10年以上の臨床経験をもつ教員が講義をする。

授業科目名		学校保健活動論		担当教員	齊藤 理砂子	科目ナンバリング NP201
選択	開講年次： 2 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

学校保健の目的、意義を理解し、学校保健分野における保健活動の歴史的な変遷や現在の諸施策および今日的課題について理解を深める。また、学校保健における健康課題と活動体制を理解し、公衆衛生看護活動との連携および協働について学修する。さらに、養護教諭の職務と役割、対象の健康レベルに応じた活動方法を理解する。

【到達目標】

1. 学校保健の目的・意義、関係法規を学び、学校環境衛生、学校における安全管理と安全教育等の学校保健全般に関わることを理解する。
2. 児童生徒における発育発達と健康課題、それを踏まえた保健管理、保健教育、組織活動について学び、実態に応じた学校保健活動が展開できるようになるための基礎力を身につける。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 学校保健の歴史・目的・意義・関係法規
 - [02] 児童生徒の健康状態の把握と評価
 - [03] 学校環境衛生
 - [04] 学校における保健教育
 - [05] 学校における安全管理と安全教育
 - [06] 学校における感染症の予防と対応
 - [07] 学校保健組織活動及び学校保健計画
 - [08] まとめ
- 健康課題を抱える子どもたちへの組織的な支援のあり方

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行うこと。(2時間)
- 事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと。(2時間)

【評価方法・評価基準】

レポート試験：70%、授業やクラスへの貢献：30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは授業時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

齊藤理砂子(2022)：学校看護論－子どもの健康を守り育てる保健活動－、現代図書

【参考書】

学校保健ハンドブック〈第7次改訂〉教員養成系大学保健協議会編集、2019、ぎょうせい

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

2025

3 年 次

基礎教養分野

スピリチュアリティ	94
-----------------	----

[外国語]

原著論文講読(英語)	95
------------------	----

専門基礎分野**[生命科学]**

保健医療福祉行政論	96
-----------------	----

臨床薬理学Ⅱ(応用)	97
------------------	----

看護専門分野**[実践看護学]**

急性期成人看護援助論	98
------------------	----

高齢者看護援助論	99
----------------	----

エンドオブライフ看護学	100
-------------------	-----

成人看護学臨地実習Ⅰ(慢性期)	101
-----------------------	-----

成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)	102
-----------------------	-----

高齢者看護学臨地実習Ⅰ	103
-------------------	-----

高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	104
--------------------------	-----

精神保健看護学臨地実習	105
-------------------	-----

在宅看護学臨地実習	106
-----------------	-----

地域看護学臨地実習	107
-----------------	-----

周産期看護援助論	108
----------------	-----

ウィメンズヘルス看護学臨地実習	109
-----------------------	-----

小児保健看護援助論	110
-----------------	-----

小児保健看護学臨地実習	111
-------------------	-----

[看護の統合と実践]

国際看護学Ⅰ	112
--------------	-----

看護研究	113
------------	-----

災害看護学	114
-------------	-----

[公衆衛生看護学]

公衆衛生看護支援技術Ⅰ(個人・家族)	115
--------------------------	-----

公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織)	116
--------------------------	-----

公衆衛生看護支援技術演習	117
--------------------	-----

授業科目名	スピリチュアリティ	担当教員	瀬良 信勝	科目ナンバリング LE313
選択	開講年次：3年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間	
関連する教育目標(必須要素)		I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、III. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、VI. 継続的に専門性を向上させる実践能力		

【授業概要】

人間を全人的に捉え、理解し、愛と尊厳、倫理性をもって相互的かつケアリングな関係を形成するためには、まず自己を知ることから始まり、「自分は何者か、何のために生きているのか、どんな価値観をもち、人生に何を見出そうとしているか」などについて問い直す必要がある。「スピリチュアリティ」の定義とそれが持つ意味や概念を理解することで、自己についての認識を高め、豊かな援助的関係を形成するための能力を培う。

【到達目標】

1. スピリチュアリティとは何かの説明が出来る。
2. スピリチュアリティが人間にとって大切な要素であることを認識する。
3. 自己のスピリチュアリティについて内省する。
4. 人間のスピリチュアリティの理解が、相互的・全人的相互関係の形成に欠かすことの出来ない要素であることを理解する。
5. シミュレーションの場で、スピリチュアリティ・アセスメントの技法を実践できる。
6. スピリチュアル・コンピテンシーの要素について説明できる。
7. 人々のスピリチュアリティ・ニーズを踏まえた保健医療福祉システムのサービスとその成果について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] スピリチュアリティについて ～スピリチュアリティの視座～
- [02] スピリチュアリティへの自己認識 ～ライフレビュー・家族関係を通して～
- [03] スピリチュアリティの理解 ～大切な“人”・“もの”・“こと”を確認する体験を通して～
- [04] スピリチュアリティ ～超越的視点を交えて～
- [05] ケアとスピリチュアリティ ～Not doing, but being～
- [06] グリーフケアとスピリチュアリティ
- [07] スピリチュアリティの視点で人と関わる ～ケースを通して～
- [08] 自己のスピリチュアリティをケアにつなげる

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事後学習となる授業リフレクション・レポート作成が、次の授業につながることを意識して作成すること。(必要な学習時間：30分～90分間)

事後学習：授業での経験や気づきを深めるために、指定文献などを参考にして授業リフレクション・レポートを作成し、次の授業時に提出。(必要な学習時間：30分～90分間)

【評価方法・評価基準】

- 1) 毎回の授業リフレクション・レポート : 50%
 - 2) 「自己のスピリチュアリティについて」論文 : 50%
- ⇒主観的な感想文で留まることなく、文献等を参照し、学術性のあるレポートや論文であること

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業リフレクション・レポートは、必要に応じてコメントを記載し各学生に返却し、さらなる学びにつながるようフィードバックをする。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

田村恵子・河正子・森田達也・編(2017) 看護に活かす スピリチュアルケアの手引き, 第2版, 青海社

【参考書】

<入門書>

- ・岡本拓也(2017) 絵でわかる口述スピリチュアルケア, 中外医学社
- ・窪寺俊之・井上ウィマラ(2009) スピリチュアルケアへのガイドーいのちを見まもる支援の実践ー, 青海社

<参考書>

1. 佐藤泰子(2011) 苦しみと緩和の臨床人間学ー聴くこと、語ることの本当の意味ー, 晃洋書房
2. 野口裕二(2002) 物語としてのケアーナラティブ・アプローチの世界へー, 医学書院
3. 品川博二・赤水誓子(2005) 死別から共存への心理学ースピリチュアル・ペインとケア・カウンセリングー, 関西看護出版
4. 坂口幸弘(2012) 死別の悲しみに向き合うーグリーフケアとは何か, 講談社現代新書
5. エリザベス・キューブラー・ロス/鈴木晶・訳(2001) 死ぬ瞬間ー死とその過程についてー, 中央公論新社
6. ミルトン・メイヤロフ/田村真・向野宣之・訳(1987) ケアの本質ー生きることの意味ー, ゆみる出版

【備考】

- ・授業は、ワークショップスタイルが中心で、上記教科書の他、毎回の配布資料に基づき行う。
- ・「コミュニケーション・人間関係論」、「文化人類学」、「ナラティブ表現法」、「医療人文学」、「哲学」、「心理学」、「倫理学」、「社会学」、「家族社会学」などの授業内容について理解があることで、より重層的に学習を深めることが期待できる。

授業科目名		原著論文講読(英語)		担当教員	◎足立 智孝、吉田 美和	科目ナンバリング LE321
選択	開講年次：３年前期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

短い小説・エッセイ、詩歌、論説文・学術論文等の中から抜粋された短い文章の読解から始め、徐々に学術雑誌の記事を読む能力を養う。

【到達目標】

1. 看護学の文献を英語のキーワードを使って検索し、英語で読解する力を取得する。
2. 看護に関する学術雑誌の抄録や論文の構成を理解する。
3. 英語で検索した論文を理解し、論文の概要についてまとめることができる。
4. 限られた長さの原著論文(学術雑誌の記事または小冊子)を講読できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--------------------------------------|------|
| [01] データベースを用いた文献検索 1 | (足立) |
| [02] データベースを用いた文献検索 2 | (足立) |
| [03] 学術論文の英文抄録の読み方 | (足立) |
| [04] 学術論文の構成 | (足立) |
| [05] 学術論文の講読 1 | (足立) |
| [06] 学術論文の講読 2 | (足立) |
| [07] 学術論文の講読 3 | (足立) |
| [08] 学術論文の講読 4 | (足立) |
| [09] Nightingale, Notes on Nursing 1 | (吉田) |
| [10] Nightingale, Notes on Nursing 2 | (吉田) |
| [11] Nightingale, Notes on Nursing 3 | (吉田) |
| [12] Nightingale, Notes on Nursing 4 | (吉田) |
| [13] Nightingale, Notes on Nursing 5 | (吉田) |
| [14] Nightingale, Notes on Nursing 6 | (吉田) |
| [15] Nightingale, Notes on Nursing 7 | (吉田) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示される課題の準備。(1時間)

事後学習：授業で購読した範囲の振り返り。(1時間)

【評価方法・評価基準】

1. 学術論文講読レポート50%
2. 原著講読レポート50%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては、授業時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

プレゼンテーション／対話・議論型授業／調査学習

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

Nightingale, Florence (2010). Notes on Nursing, the original edition. Pacific Publishing Studio.

【参考書】

特になし。

ただし英和辞典(電子辞書可)は毎時間必携。

【備考】

学術・臨床両分野で必要とされる英語力を養成するための端緒となるよう積極的に取り組むこと。

授業科目名		保健医療福祉行政論		担当教員	高木 晴良	科目ナンバリング NB344
選択	開講年次：3 年前期		単位：2 単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

保健医療福祉行政の法的基盤とその目標を理解し、保健医療福祉活動を推進する行政の仕組み、制度、役割について理解する。また、人々の生活、健康問題、疾病構造の変化などに対応した、社会保障制度や保健医療福祉行政の実践について学ぶ。保健医療福祉行政のマネジメントの観点から、計画と評価、それに関連した管理に必要な視点を修得し、都道府県および市町村の保健医療福祉行政について理解を深める。

【到達目標】

1. 保健医療福祉行政の考え方(理念)を歴史的に説明することができる。
2. 保健医療福祉行政の仕組みと活動概要を対象者別に説明することができる。
3. 保健医療福祉行政の財政の仕組みについて説明することができる。
4. わが国の社会保障制度の概要を説明することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---|
| <p>[01] ガイダンス
保健医療福祉行政の基本となるもの
1. 保健医療福祉行政の根拠
2. 公衆衛生の理念と戦略</p> <p>[02] 公衆衛生の基盤形成
1. 世界の公衆衛生の曙
2. 日本の近代公衆衛生
3. 戦後の公衆衛生政策の基盤形成
4. 近年の公衆衛生政策の発展</p> <p>[03] 保健医療福祉行政の動向(平成以降)
1. 保健所法から地域保健法へ
2. 少子化対策の進展
3. 各分野における政策の転換と充実</p> <p>[04] 保健医療福祉行政の動向(平成以降)
1. 各分野における政策の転換と充実</p> <p>[05] 国・都道府県・市区町村の行政のしくみと役割
1. 行政のしくみと役割
2. 公衆衛生行政</p> <p>[06] 行政における保健師の役割と活動
1. 保健師の配置
2. 保健師の活動体制
3. 地域における保健師の保健活動に関する指針</p> <p>[07] 保健医療福祉の財政
1. はじめに：財政とは
2. 国と地方公共団体の財政のしくみ
3. 予算の機能と原則
4. 社会保障の給付と財源、国民負担</p> <p>[08] 公衆衛生に関する国際的な活動
1. 国際保健の潮流
2. 保健医療分野の国際協力
3. 国際保健に関するおもな国際機関</p> <p>[09] 地域保健に関する公的機関
1. 地域保健体系における都道府県と市町村の役割分担
2. 都道府県型保健所(県型保健所)
3. 政令市保健所(市型保健所)
4. 市町村保健センター
地域・職域連携の推進
1. 地域保健と学校保健の連携</p> | <p>2. ボランティア・NPO との協働</p> <p>[10] 社会保障制度と政策
A 社会保障制度の理念としくみ
1. 社会保障制度とは
2. 社会保障給付費
3. 社会保障の法規と行政体系
4. 社会保障制度をめぐる環境の変化と制度改革</p> <p>[11] 医療制度と政策
1. 医療制度と医療保険のしくみ
2. 医療提供体制の管理と整備
3. 医療安全対策
4. 医療対策と医療提供体制</p> <p>[12] 介護保険制度
1. 介護保険制度の概要
2. 介護保険サービスの内容
3. 地域包括支援センター
4. 地域包括ケアシステムにおける自治体の役割
5. 介護保険事業の実施状況と保健師の役割</p> <p>[13] 社会保障・社会福祉の制度
1. 年金保険
2. 雇用保険と労働者災害補償保険
3. 公的扶助(生活保護)
4. 児童家庭福祉
5. 高齢者福祉
6. 障害者福祉
7. 成年後見制度と日常生活自立支援事業</p> <p>[14] 地方公共団体の保健医療福祉計画
1. 保健医療福祉計画の種類と目的
2. 地域の保健医療福祉施策の各種計画</p> <p>[15] 保健計画の策定プロセス
1. 所属内でのコンセンサスづくり
2. 保健計画の策定についての学習
3. 現状の課題やニーズの把握
4. 対策や取り組みの検討
5. 目標値の設定
6. 政策決定への住民参加
7. 保健計画策定とエンパワメント</p> |
|---|---|

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：テキストの該当部分を事前に読み、キーワード等をチェックしておくこと。(1時間)

事後学習：講義で出てきた重要なキーワードについて復習すること。(1時間)

【評価方法・評価基準】

授業への参加度やミニレポート等(40%)＋筆記試験(60%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

質問等があれば、講義後に対応する。

【アクティブラーニング】

対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

・標準保健師講座－別巻1 ・保健医療福祉行政論 第6版 医学書院

【参考書】

国民衛生の動向2024/2025 厚生労働統計協会、図説 国民衛生の動向2024/2025 厚生労働統計協会

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		臨床薬理学Ⅱ（応用）		担当教員	安室 修	科目ナンバリング NB349
選択	開講年次：3年前期		単位：1単位	授業形態：演習15時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

薬物治療を主とした特定疾患の事例を中心に、看護ケアに必要な薬理学の理解を深めることができる。事例を通して薬物療法の効果や副作用を分析する能力を修得できる。

【到達目標】

1. 薬物療法の意義や目的について理解できる。
2. 病群ごとの患者事例を通して薬物の効果や副作用のリスクについて理解できる。
3. 看護師の薬物に関するモニタリングの役割について理解できる。

【履修条件】

「臨床薬理学Ⅰ（基礎）」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 悪性腫瘍
- [02] 高血圧症
- [03] 糖尿病
- [04] 心疾患
- [05] 脳血管障害
- [06] 精神神経疾患
- [07] 免疫アレルギー疾患
- [08] 感染症

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：疾患について代表的な臨床症状や臨床検査値異常などについて予習する。（1時間）

事後学習：各章の最後にまとめられている「看護上の留意点」、「学習課題」、「キーワード」を中心に振り返りを行う。
特に「学習課題」に関しては、「キーワード」を含めてまとめると効果的な事後学習が可能になる。また、教科書中の図表を利用して視覚的に薬理作用を理解するとよい。（1時間）

【評価方法・評価基準】

テスト：100%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

模範解答の提示

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

安原一、小口勝司編(2014)：わかりやすい薬理学(第3版)、ヌーヴェルヒロカワ

【参考書】

指定なし

【備考】

特になし

授業科目名		急性期成人看護援助論		担当教員	◎松本 幸枝、岡本 明美、 千葉 恵子、何 雨竹	科目ナンバリング NS360
必修	開講年次：3年前期		単位：2単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力			

【授業概要】

慢性期成人看護学に続いて、成人看護学各論を学ぶ。急性期にある人々への看護援助、外科的治療を受ける人の援助、そして健康の危機的状況にある人の状態の判断と支援に関する看護の役割について学ぶ。

【到達目標】

1. 急性期にある人々の看護援助に関する基礎知識を理解し、説明できる。
2. 外科的治療を受ける患者の周術期を通して、継続的な観点から援助する能力を養うとともに、周術期の患者のリスクを予測に基づいた予防的な看護能力を取得し、実践できる。
3. 健康の危機状態に面している患者及び家族に対して、適切な支援を実践できる。

【履修条件】

「成人看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- | | |
|------------------------------|--------------|
| [01] ガイダンス / 急性期の概念と対象の理解 | (松本) |
| [02] 周手術期看護の特徴：術前看護 | (松本) |
| [03] 周手術期看護の特徴：術中看護 | (松本) |
| [04] 周手術期看護の特徴：術直後の看護 | (松本) |
| [05] 周手術期看護の特徴：術後回復期の看護 | (松本) |
| [06] 周手術期看護：消化器① | (岡本) |
| [07] 周手術期看護：消化器② | (岡本) |
| [08] 周手術期看護：消化器③ | (岡本) |
| [09] 周手術期看護：脳神経 | (松本) |
| [10] 周手術期看護：呼吸器 | (松本) |
| [11] 周手術期看護：乳腺 | (何) |
| [12] 周手術期看護：生殖器 | (何) |
| [13] 周手術期看護：泌尿器 | (何) |
| [14] 周手術期看護：運動器 | (松本) |
| [15] 周手術期看護：循環器① | (松本) |
| [16] 周手術期看護：循環器② | (松本) |
| [17] 救急看護① | (松本) |
| [18] 救急看護② | (松本) |
| [19] 事例で考える周手術期看護：事例展開① | (松本) |
| [20] 事例で考える周手術期看護：事例展開② | (松本) |
| [21] 事例で考える周手術期看護：事例展開③ | (松本) |
| [22] 事例で考える周手術期看護：事例展開④ | (松本) |
| [23] 周手術期の看護技術① | (松本・岡本・千葉・何) |
| [24] 周手術期の看護技術② | (松本・岡本・千葉・何) |
| [25] 周手術期の看護技術③ | (松本・岡本・千葉・何) |
| [26] 周手術期の看護技術④ | (松本・岡本・千葉・何) |
| [27] 周手術期に必要な知識と技術①グループワーク | (松本) |
| [28] 周手術期に必要な知識と技術②グループワーク | (松本) |
| [29] 周手術期に必要な知識と技術③プレゼンテーション | (松本) |
| [30] 周手術期に必要な知識と技術④プレゼンテーション | (松本) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学修：人間機能学、人間病態学Ⅰ・Ⅱについて復習しておくこと。
急性期成人看護援助論で指示された事前学習課題を期限内に提出すること。
事前学修：指示された振り返りについてレポート提出する。

【評価方法・評価基準】

定期試験50%、小テスト10%、課題提出物40%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

- 小テストの問題は返却しない。
事例展開については質問があれば説明する。

【アクティブラーニング】

体験学習、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、対話・議論型授業、ロールプレイ、反転授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

- 林直子、佐藤まゆみ：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 改訂第4版、南江堂
佐藤まゆみ、林直子：成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア 改訂第4版、南江堂
野崎真奈美、林直子：成人看護学 成人看護技術 改訂第3版、南江堂

【参考書】

- 病気が見えるシリーズ
2年生の慢性期成人看護援助論で使用した教科書(新体系看護学全書、メディカルフレンド社、呼吸器・循環器・消化器・脳神経・腎泌尿器・運動器)

【備考】

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		高齢者看護援助論		担当教員	◎那須真弓、長江弘子、酒井武志、阿部美鈴、畑中綾美、比護文也	科目ナンバリング NS362
必修	開講年次：3年前期		単位：2単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

さまざまな健康及び機能障害にある高齢者を対象に、そのひとがこれまでに生きてきた過程、家族関係、地域社会での役割などの理解を深める。加齢や機能障害によって、高齢者の日常生活行動がどのように変化するか、QOLにどのような影響を及ぼすのか学ぶ。また、その機能を維持しながら生活できるよう、その機能を十分に発揮できるよう、高齢者の看護援助について学ぶ。

【到達目標】

1. 高齢者の機能低下に伴う健康上のリスクを示し、アセスメントの方法と看護について説明できる。
2. 高齢者に用いられる ADL 評価の指標を挙げて説明することができる。
3. 摂食・嚥下障害のある人の看護について説明できる。
4. 療養高齢者の生活を整える看護技術の方法及び観察点、注意点を理解し、安全に実施できる。
5. 認知症の看護について説明できる。
6. 高齢者の疾患とその治療に伴って生じやすいリスクと看護について説明できる。
7. 高齢者を介護している家族を支援することの必要性と家族支援の方法について説明できる。
8. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度の概要について説明し、チームの中での看護の役割について述べることができる。
9. 高齢者の終末期看護の特徴と必要とされる看護について説明できる。
10. 老年看護領域の倫理的問題について具体例を挙げ、権利擁護という視点から説明することができる。

【履修条件】

「高齢者看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 講義の概要説明／高齢者の QOL を考える (那須・長江)
- [02] 高齢者の健康障害の臨床的特徴：老年症候群・フレイル・廃用症候群・高齢者の臨床的特徴 (那須)
- [03] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：摂食嚥下障害・低栄養・脱水 (那須)
- [04] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：呼吸器系、肺炎等の呼吸器感染症・慢性閉塞性肺疾患 (那須)
- [05] 【演習】①摂食嚥下機能評価／②食事介助 (那須・酒井・阿部・長江)
- [06] 【演習】③口腔ケア(含嗽が可能な場合、不可能な場合) (那須・酒井・阿部・長江)
- [07] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：外皮系、感覚器系、褥瘡・視力・難聴 (酒井)
- [08] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：運動器系、転倒・骨粗鬆症・骨折 (那須)
- [09] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：内分泌系、睡眠障害・甲状腺機能低下症 (那須)
- [10] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：脳・神経系、脳卒中・高次脳機能障害 (酒井)
- [11] 健康障害と看護：せん妄・うつ・認知症 (酒井)
- [12] 健康障害と看護：認知症高齢者の理解、看護の基本、認知症高齢者とのコミュニケーション (酒井)
- [13] 【演習】認知症高齢者のアセスメント (酒井)
- [14] 健康障害と看護：様々な場での認知症看護の実践、アクティビティケア (酒井)
- [15] 【講義&演習】高齢者の生活のアセスメントと身体機能評価、自立への援助 (畑中・比護・那須・酒井・阿部)
- [16] 【講義&演習】高齢者の生活のアセスメントと身体機能評価、自立への援助 (畑中・比護・那須・酒井・阿部)
- [17] 包括的な健康アセスメントの方法、看護過程の展開演習の進め方・事例提示 (長江・酒井・阿部・那須)
- [18] 【演習】高齢入院患者の看護過程の展開①(アセスメント・問題抽出) (長江・酒井・阿部・那須)
- [19] 【演習】高齢入院患者の看護過程の展開②(GW：包括的アセスメント・関連図) (長江・酒井・阿部・那須)
- [20] 【演習】高齢入院患者の看護過程の展開③(GW：問題抽出) (長江・酒井・阿部・那須)
- [21] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：循環器系、心不全 (酒井)
- [22] 身体機能・構造の加齢変化、健康障害と看護：消化器系、泌尿器系、排便障害・排尿障害 (阿部)
- [23] 【演習】①オムツ交換 ②車椅子移乗 ③体位変換・ポジショニング (酒井・阿部・那須・長江)
- [24] 【演習】①オムツ交換 ②車椅子移乗 ③体位変換・ポジショニング (酒井・阿部・那須・長江)
- [25] 【演習】高齢入院患者の看護過程の展開④(GW：目標設定・計画) (長江・酒井・阿部・那須)
- [26] 【演習】高齢入院患者の看護過程の展開⑤(GW：ICF の活用) (長江・酒井・阿部・那須)
- [27] 治療を受ける高齢者の看護：薬物療法 (那須)
- [28] 治療を受ける高齢者と生活期の看護：手術療法、リハビリテーション、退院支援、高齢者施設における看護 (酒井)
- [29] 老年看護における倫理的課題と対応：虐待・身体拘束 (那須)
- [30] 老人看護専門看護師の実践／臨地実習課題の説明 (酒井・那須)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された AL 課題並びに事前課題をテキスト・参考文献等を活用して自己学習してワークシートにまとめ、授業に臨むこと、又、授業に関連した疑問や質問を明確にする。(1 時間)
事後学習：授業資料や教科書を読み、該当課題に追記し学習内容の補充・復習を行う。授業後の小テストに備える。
小テスト該課題のワークシートを提出する。(2 時間)

【評価方法・評価基準】

- 小テスト・定期試験、課題学習にて評価する。
①試験成績70%(小テスト20%+定期試験50%の合計)
②課題学習30%
③試験成績(①)と課題学習(②)の総合点を成績とする。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

- ・小テストの問題は回収せずに正解を1週間掲示し、レポートは評価点を記載して学期内に返却する。
- ・看護過程の課題レポートは、臨地実習の事前学修で使用するため、最終日に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／反転授業

【ICT・オープン教育リソース】**【教科書】**

1. 水谷信子、水野敬子、高山成子(2024)最新老年看護学 第4版 日本看護協会出版会

【参考書】

1. 中島健二他編(2020)：認知症ハンドブック 第2版. 医学書院
2. 本田美和子ら(2014)：ユマニチュード入門. 医学書院
3. 鶴若麻理他編(2023)：認知症ケアと日常倫理 実践事例と当事者の声に学ぶ. 日本看護協会出版会
4. ICF とリハビリテーション看護を考える会(2023)：マンガと図説でわかる ICF 国際生活機能分類の使いかた 「生きること」へのリハビリテーションに向けて. メディカ出版
5. 浜松市リハビリテーション病院高次脳機能センター(2021)高次脳機能障害の病態・ケア・リハがトータルにわかる. 照林社
6. 日本摂食嚥下障害看護研究会(2024)：摂食嚥下障害看護スタンダード. 照林社
7. 日本老年医学会(2015)：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015(学会ホームページより無料ダウンロード可)
8. 山田律子他編(2020)：生活機能からみた老年看護過程病態・生活機能関連図(第4版). 医学書院
9. 江川隆子編(2019)：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(第6版). ノーヴェルヒロカワ
10. 医療情報科学研究所(2020)看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版. メディックメディア

【備考】

講義毎に資料の配布・文献の紹介を行う。

授業科目名	エンドオブライフ看護学	担当教員	◎千葉 恵子、東森 由香、 鈴木 玲子	科目ナンバリング NS366
必修	開講年次：3年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力		

【授業概要】

人生の最後の時間を家庭で家族とともに過ごしたいという患者が少なくはない。在宅看護を含む緩和ケアと終末期のケアにおける看護師の役割について考察する。また終末期における緩和ケアの方法論(薬剤その他の活用による)について学修する。

【到達目標】

1. 緩和ケア看護学の考え方について説明できる。
2. ターミナル期にある人の特徴について説明できる。
3. 緩和ケアを含む終末期ケアにおける看護の役割と方法について説明できる。

【履修条件】

「在宅看護学」を修得していること。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| [01] エンドオブライフケアの概要 | (千葉・東森・鈴木玲) |
| [02] エンドオブライフケアにおける患者・家族への看護 | (千葉) |
| [03] エンドオブライフにおける倫理的問題 | (千葉) |
| [04] 疼痛マネジメント・痛みのある患者への看護支援を考える | (千葉) |
| [05] 症状マネジメント | (千葉) |
| [06] 在宅における看取り・臨死期の看護 | (千葉) |
| [07] 患者の意思決定を支えるコミュニケーション | (千葉) |
| [08] エンドオブライフケアにおける退院支援 | (千葉・東森・鈴木玲) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業で指定された事前課題にそって、在宅看護学・成人看護学概論・慢性期成人看護援助論の授業と統合しながら学習する。(1時間)

事後学習：身近な人との別れの体験や死への思いや考えを想起し、課題について記述できるようにする。講義資料を基に、疼痛マネジメント、症状マネジメントについて復習を行うこと。(2時間)

【評価方法・評価基準】

課題レポート(20%)・試験(80%)で評価します。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題については、成績評価後に返却する。

【アクティブラーニング】

グループワーク/ワークショップ

【ICT・オープン教育リソース】

Web アンケートシステム(Microsoft Forms)を活用した双方向型授業を行う。

愛知医科大学看護学部/東京保険大学和歌山看護学部で公開されている教材「看護学生の慢性疼痛教育コンテンツ」を活用する。

【教科書】

指定なし

【参考書】

- 田村恵子編(2019)『終末期看護 エンド・オブ・ライフケア 経過別成人看護学④』メヂカルフレンド社。
 長江弘子監修(2018)『看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア第2版』日本看護協会出版会。
 谷本真理子 増島真理子編集(2022)『看護学テキスト NICE エンドオブライフケア』南江堂

【備考】

エンドオブライフケア、緩和ケア、臨死期のケア、グリーフケア、ビリーフメントケアなど語句の意味と看護の役割を踏まえ、看護の領域と統合させ学習が蓄積できるよう取り組みましょう。

授業科目名	成人看護学臨地実習Ⅰ（慢性期）	担当教員	◎千葉 恵子、岡本 明美、 何 雨竹	科目ナンバリング NS367
必修	開講年次：3年後期	単位：3単位	授業形態：臨地実習135時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅵ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力		

【授業概要】

対象の慢性的・長期的に経過する健康障害や機能障害の特性を理解し、適切な看護過程の展開を経験する。成人期にある対象の生活やセルフケア能力に焦点をおき、疾患管理、日常生活行動の自立、QOLの維持向上について学ぶ。この実習において、学生は慢性疾患や機能障害を持つ患者の看護に関わるが、グループ内でのカンファレンスを通して、多様な患者の看護問題を理解し、チームとして患者を支えることの意味を学修する。

【到達目標】

目的：慢性疾患・機能障害をもつ患者を対象として、その健康レベルとニーズに合わせた看護実践を行う。

1. 慢性疾患・機能障害をもつ患者の身体的・精神的・社会的状況を把握し、看護上の問題を述べるができる。
2. 患者の生活上の問題を把握し、患者の到達目標を明確にし、必要な看護援助を計画・実践・評価できる。
3. 患者に合わせた安全で確実な援助が実践できる。
4. 慢性疾患・機能障害を持つ患者の治療や生活支援に関わる医療・保健チームの役割と必要な社会資源を理解し、連携に果たす看護の役割を理解する。
5. 自己の課題を明確にして自主的・自発的に学習活動を展開できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「成人看護学概論」、「慢性期成人看護援助論」、「急性期成人看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 実習1週目初日 午前：学内でのオリエンテーション 午後 技術練習①
2日目：病棟オリエンテーション 同行実習
3日目：同行実習
4日目・5日目：受け持ち患者紹介 担当看護師と同行実習
- [02] 実習2週目
病棟実習
6日目：カンファレンス① 技術練習②
7日～10日目 担当看護師と同行実習
9日目：カンファレンス②
- [03] 実習3週目
11日～14日目：病棟実習
14日目：最終カンファレンス
15日目 学内で評価面接、最終記録提出

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：成人看護学で学習した内容(特に成人看護学概論、慢性期成人看護援助論)を資料、教科書、参考書を用いて学習し、各自ノートを作成する。基礎看護技術は各自が実施可能であることを前提に実習が行われるため、自己学習によって練習を行うことを推奨する。血圧測定の練習を希望する場合、教員に相談すること。(2～3時間)

事後学習：実習での学びや自己の体験を省察するため、実習終了時にケースレポートを提出する。(2～3時間)

【評価方法・評価基準】

事前学習10%、目標評価70%、カンファレンス10%、レポート10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録物は4年前期に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

成人看護学で使用した教科書だけではなく紹介したテキスト・資料も参考書とする。

1. 新体系 看護学全書 成人看護学(テキスト購入分)、メヂカルフレンド社。
2. 新体系 看護学全書 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア、メヂカルフレンド社。

実習に必要な文献は、図書館で入手し、患者把握や看護計画に役立てる。自分で所有する携帯サイズの参考書などは実習場に持参可能。

【備考】

- ・看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。
- ・成人看護学臨地実習Ⅰ実習要項にて詳細を確認すること。
- ・成人看護学で学習した内容(特に成人看護学概論、慢性期成人看護援助論)を各自ノートを作成しまとめておくこと。

授業科目名		成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)		担当教員	◎松本 幸枝、岡本 明美、 路 璐	科目ナンバリング NS368
必修	開講年次： 3 年後期		単位： 3 単位	授業形態： 臨地実習135時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力			

【授業概要】

これまでの学びや、「成人看護学」で学んだ講義、演習を臨地実習の中で実践として活用し、侵襲的治療を受けたり、周手術期にある人を援助する能力を養うとともに、実習を通して自己の看護観・倫理観を高める。

【到達目標】

1. 成人期にある対象者が手術を受けるために必要な検査、治療、処置の内容を理解し、対象者が安全に手術を受けることができるように必要な方法、技術を習得できる。
2. 治療・手術による形態的变化や障害を理解し、対象者の生体侵襲(手術、麻酔による影響など)および身体的状況と結びつけて捉え、個別的な看護を実践できる。
3. 対象者の回復過程を理解し、社会復帰に向け心理、社会、身体的側面からの援助を他職種およびチームの一員として連携し、健康教育、退院支援を行うことができる。
4. 急性期にある対象者を通して看護過程が展開できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「成人看護学概論」、「慢性期成人看護援助論」、「急性期成人看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

- 実習1～2日目 成人看護学臨地実習Ⅱのオリエンテーション、事例展開、VR・高機能シミュレーターを活用した
学内実習
- 実習3日目 手術室・ICU 見学実習
- 実習4～9日目 病棟実習 / 術前から回復期までの看護計画と看護ケア
- 実習10日目 中間カンファレンス
- 実習11～13日目 病棟実習 / 術前から回復期までの看護計画と看護ケア
- 実習14日目 最終カンファレンス
- 実習15日目 面接評価

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学習：急性期成人看護援助論の授業内容：講義や演習で行った事例の復習をしておく（2時間）。
バイタルサインの測定や、フィジカルアセスメント、日常生活援助が実践できるように各自復習、練習を
しておく（2時間）。
指示があった事前課題を期限内に提出する。
- 事前学習：その日に学んだ内容を振り返り、翌日の実習に生かせるようにする（2時間）。
実習最終日に実習について自己の学びを振り返り、課題レポートとして記述する（2時間）。

【評価方法・評価基準】

事前学習10%、目標評価70%、カンファレンス10%、課題レポート10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については成人看護学臨地実習Ⅱの終了後に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習、高機能シミュレーターを使用したシミュレーション、グループディスカッション、ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

林直子、佐藤まゆみ：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 改訂第4版、南江堂
佐藤まゆみ、林直子：成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア 改訂第4版、南江堂
野崎真奈美、林直子：成人看護学 成人看護技術 改訂第3版、南江堂

【参考書】

病気が見えるシリーズ
2年生の慢性期成人看護援助論で使用了教科書(新体系看護学全書、メディカルフレンド社、呼吸器・循環器・消化器・脳神経・腎泌尿器・運動器)

【備考】

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		高齢者看護学臨地実習Ⅰ		担当教員	◎酒井 武志、那須 真弓、 阿部 美鈴、長江 弘子	科目ナンバリング NS369
必修	開講年次：3年後期		単位：1単位	授業形態：臨地実習45時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅵ．継続的に専門性を向上させる実践能力			

【授業概要】

加齢に伴う変化や健康障害のみならず、高齢者がこれまでに歩んできた人生、家族関係、地域社会での役割などを含めた包括的なアセスメントから高齢者の理解に焦点をあてる。また、高齢者施設における他職種連携の実態と看護師の役割を学ぶとともに、自己の倫理観を高める。

【到達目標】

1. 対象者の生活及び現在の生活に関する情報収集を実施することができる。
2. フィジカルアセスメントを実施し、対象者の健康状態を把握することができる。
3. ICFを用い、対象者の全体像を把握し、看護問題を抽出することができる。
4. 尊厳を重んじる態度で対象者および家族と意思疎通をはかることができる。
5. 高齢者施設における看護師の役割と責務について理解することができる。
6. 高齢者施設における多職種連携について理解することができる。
7. 自分の言動に責任をもち、自律した専門職としてふさわしい行動をとることができる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「高齢者看護学概論」、「高齢者看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

- 実習1日目 オリエンテーション(学内・施設)、受持ち利用者紹介
 実習2～4日目 施設実習：情報収集、アセスメント、全体像の把握、看護問題の抽出、利用者へのケア
 実習5日目 実習のまとめ、評価面接

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：ワークシートに沿って介護保険制度、高齢者施設について理解する。加齢による変化及び病態生理に基づいたアセスメントを理解する。看護技術(バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、日常生活援助)については、安全安楽に実施できるよう練習する。(2時間)

事後学習：1日の実習終了時に各自が体験したことを振り返り、必要な知識を深めた上で記録を完成する。(1時間)

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度70%、事前学習10%、課題レポート10%、カンファレンス参画度10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

- ・評価面接の際、実習目標への到達度に関するフィードバックを行う。
- ・実習に関わる記録については、4年次前期に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

高齢者看護学概論や高齢者看護援助論で使用した教科書、参考書、資料
 山田律子他編(2020) 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活関連図, 医学書院.
 医療情報科学研究所(2015) フィジカルアセスメントがみえる, メディックメディア.

【備考】

- ・高齢者看護学臨地実習Ⅱの基礎となる。
- ・高齢者看護学臨地実習要項を熟読し、内容を確認しておくこと。
- ・看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)		担当教員	◎那須 真弓、酒井 武志、 阿部 美鈴、長江 弘子	科目ナンバリング NS370
必修	開講年次：3年後期		単位：3単位	授業形態：臨地実習135時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力			

【授業概要】

リハビリテーション回復期にある生活機能障害を持つ高齢者の看護実践に焦点をおく。リハビリ期にある高齢者の包括的なアセスメントから対象者の健康レベルとニーズに応じた看護を実践する。心身の機能、構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした高齢者とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を構築していく過程を支援するための課題を見出す。学生は、医療チームの一員として、リハビリ期(回復期・生活期)にある対象者のための看護師の役割を明確にする。

【到達目標】

1. リハビリ期(回復期・生活期)にある高齢入院患者と家族のニーズを踏まえ、健康増進、疾病予防に向けたセルフケア能力の向上を目指した看護過程を展開できる。
2. リハビリ期(回復期・生活期)にある高齢入院患者と家族の権利を擁護できる。
3. リハビリ期(回復期・生活期)にある高齢入院患者と家族を支援する多職種との協働と、看護師の役割や専門性を理解することができる。
4. 在宅高齢者へのリハビリテーションサービスについて理解することができる。
5. レクリエーションの意義と目的を理解し企画・実施・評価することができる。
6. 専門職としての自律的な学習を深めることができる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「高齢者看護学概論」「高齢者看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

実習1日目(学内)：オリエンテーション(実習内容、実習病院・施設の概要)を受け、受け持ち患者についての情報収集を行う。
 実習2日目～8日目(病院)：受持ち患者の看護過程の展開(アセスメント、関連図を基に看護問題を抽出し計画・実施・評価)を行う。
 多職種カンファレンスに参加する。
 ・中間カンファレンス：アセスメント内容、看護上の問題、看護の方向性について、グループディスカッションを行う。
 ・最終カンファレンス：受け持ち患者への看護を通して学んだ看護師の役割についてグループディスカッションを行う。
 実習9日目(学内)：実習での学びを整理し、以降の実習準備を整える。
 実習10日目～14日目(施設)：施設の看護師・介護士等と共に利用者へのケアを実施する。レクリエーションを企画・実施・評価する。
 実習15日目(学内)：実習での学びをレポートにまとめ、言語化し、学びを共有する。実習施設の特徴、レクリエーション企画・実施・評価について実習目標に沿ってプレゼンテーションを行い、学びを共有する。評価面接を受ける。

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：ワークシートに沿って事前課題に取り組む。高齢者看護援助論内で扱った事例に基づく看護展開を振り返り、看護過程について学修する。日常生活援助論及び高齢者看護援助論で学んだ看護技術を、安全・安楽に実施できるように自己学修をする。オリエンテーション時に技術習得度確認表で自己の習得度を確認し追加学修を行う。(3時間)
 事後学習：1日の実習を振り返り、必要な知識を深めようとして実習記録を作成する。(2時間)

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価60%、事前学習20%、レポート課題10%、カンファレンス参画度10%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

- ・評価面接の際、実習目標への到達度に関するフィードバックを行う。
- ・実習に関わる記録については4年次前期に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 水谷信子他編(2024)：最新老年看護学 第4版. 日本看護協会出版会
 2. 山田律子他編(2020)：生活機能からみた老年看護過程病態・生活機能関連図(第4版). 医学書院
 3. 江川隆子編(2019)：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(第6版). ノーヴェルヒロカワ
 4. 医療情報科学研究所(2020)：看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版. メディックメディア
 5. 医療情報科学研究所(2015)：フィジカルアセスメントがみえる. メディックメディア
 6. 山口求(2014) SOAP 書き方が事例で見える. 日経研
 7. 小西敏郎他(2018) 見てできる栄養ケア・マネジメント図鑑 栄養管理ビジュアルガイド. Gakken
 8. 寺山久美子監(2004) レクリエーション 改訂第2版 社会参加を促す治療的レクリエーション. 三輪書店
 9. 日本老年医学会(2015)：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015(日本老年医学会ホームページよりダウンロード可)
 10. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 <https://www.pmda.go.jp/>(薬事情報を調べるために使用する)
- その他、老年看護学概論、老年看護援助論の資料など

【備考】

- ・高齢者看護援助論で学習した看護過程について理解しておく。
- ・高齢者看護学臨地実習要項を熟読し、内容を確認しておくこと。
- ・看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		精神保健看護学臨地実習		担当教員	◎中島 洋一、松丸 直美、 松谷 典洋	科目ナンバリング NS371
必修	開講年次：3年後期		単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力			

【授業概要】

健康な人々の精神衛生看護と、精神科的疾患を持つ人々の看護の両方を対象とする。精神疾患や精神障害を持つ人が社会に参加しながら、自分らしく生活するための支援体制の一環として、看護職が社会的責務を果たすために必要な知識と技術を修得する。精神保健看護の臨地実習を行なう。実習施設は、病院の精神科病棟、老人施設(認知症棟)、生活訓練施設などを利用する。

【到達目標】

1. 精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について把握する。
2. 精神看護の基本概念や精神医学の診断、治療を理解し、看護援助できる能力を養う。
 - A. 精神の発達や健康障害について、看護学とその関連領域の概念枠組みを用い理解する。
 - B. 精神の健康障害や、精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、看護援助を計画、実施できる能力を身につける。
 - C. 精神の健康障害の診断と、その治療法についての知識をもち、看護援助が展開できる能力を身につける。
3. 精神障害者の人権を守り、地域生活を支えていくための援助方法についての理解を養う。
 - A. 精神医療看護の歴史を知り、精神障害者の人権尊重と精神保健医療看護を展開していく看護師の役割や倫理的配慮についての知識を獲得する。
 - B. 精神の健康上の問題を持つ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支えるシステムについて理解する。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「精神保健看護学概論」「精神保健看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

- 実習1日目 病院・施設概要オリエンテーション、受け持ち患者情報収集
 実習2日目～7日目 病院実習 ―受け持ち患者を通して看護を実践―
 実習8・9日目 生活訓練施設、地域活動支援センター、就労移行・就労継続支援施設 体験実習
 実習10日 実習の振り返り、まとめ、面接評価

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学習：精神保健看護学概論、精神保健看護学援助論などの学びを振り返りまとめる。(2時間程度)
 事後学習：日々の実習終了後に各自の学びを振り返り記述する。実習全般での学びを振り返り課題レポートとして記述する。(2時間程度)

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価(80%)、課題レポート(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については4年次前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション/グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 太田保之(2014)学生のための精神医学、医歯薬出版株式会社
2. 田中美恵子(2022) 精神看護学、医歯薬出版株式会社
3. 田中美恵子(2009) 精神障害者の退院支援計画と地域支援、医歯薬出版
4. 谷中輝雄 小宮敬子他編集(2000) 障害者・精神保健地域看護活動、医学書院
5. 萱間真美(2020) 精神科訪問看護テキスト、中央法規出版
6. 宮本眞巳編集(2014) 援助技法としてのプロセスレコード 精神看護出版

【備考】

- ・精神保健看護学概論、精神保健看護援助論について理解を深めておくこと。
- ・臨床指導者講習会を修了した看護師が臨地実習を指導する。
- ・看護師として10年以上の臨床経験をもつ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		在宅看護学臨地実習		担当教員	◎本田 彰子、東森 由香、 鈴木 玲子	科目ナンバリング NS382
必修	開講年次：3年後期		単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅶ．包括的看護実践能力			

【授業概要】

在宅看護が担っている高齢者や障害者の在宅ケアニーズに対応した訪問看護サービスやセルフケア能力を高める教育的な働きかけの必要性に答えた看護実践を修得する。このコースは、プライマリーヘルスケア看護の臨地実習と関連して、在宅看護独自の機能を把握しながら、幅広い、かつ綿密な観察力、判断力、人間関係力とその実践に必要な方法論、技術を学ぶ。

【到達目標】

【目標】

1. 対象者の健康状態と生活状況を記載できる。
2. 対象者と意思疎通をはかれる。
3. 指導下で、対象者に求められる看護を実践できる。
4. 対象者の健康問題が家族に及ぼす影響を記載できる。
5. 家族と意思疎通をはかれる。
6. 保健・医療・福祉サービスにおける連携の実際を表現できる。
7. 保健・医療・福祉サービスにおける看護職の役割を表現できる。
8. 専門職にふさわしい態度で行動できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「在宅看護学」、「エンドオブライフ看護学」を修得していること。

【授業計画】

実習1日目：(午前：学内)オリエンテーション(午後：施設実習)実習準備
 実習2日目：(施設実習)訪問看護オリエンテーション・訪問予定者の情報収集
 実習3～4日目、7～8日目：(施設実習)訪問看護実習
 実習5日目：(施設実習)医療連携実習
 実習6日目：(学内)医療連携実習カンファレンス(学内)
 実習9日目：(施設実習)訪問看護ステーション：訪問看護実習カンファレンス
 実習10日目：(学内)学習のまとめ・評価

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：在宅看護学で学習した医療保険と介護保険による訪問看護、及び課題資料を復習しておく。確認テストの問題の解き直しをする(誤っている箇所は全て正しい解答に修正する)(2時間)。

事後学習：訪問看護事例の情報を整理する。訪問看護実習及び医療福祉連携実習における自己の学習目標に対する目標達成状況を記載する(2時間)。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価(70%)、課題レポート(20%)、実習・カンファレンス貢献度(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習記録は、全領域実習が終了した時点(3年後期又は4年前期)に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

在宅看護学で使用した参考書、資料

【参考書】

在宅看護学で使用した参考書、資料

【備考】

在宅看護学における非常勤講師による支援の実際に関する講義、および演習「訪問看護疑似体験」「訪問看護における情報収集」について理解しておく。

看護師としての3年以上の臨床経験した教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		地域看護学臨地実習		担当教員	◎上田 修代、鶴岡 章子、 高橋 智子	科目ナンバリング NS383
必修	開講年次：3年後期		単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅶ．包括的看護実践能力			

【授業概要】

地域のプライマリヘルスケアの実態、保健医療福祉制度や地域の健康に関する情報、健康指標の動向を理解し、地域住民の健康課題に関するアセスメントやヘルスプロモーション・予防対策について学ぶ。

【到達目標】

1. 看護の対象を地域社会で生活する存在として理解できる。
2. 既存のデータと地区踏査から地域診断を行い、地域の健康課題を説明することができる。
3. 市町村、医療機関、学校等で実施されている保健事業・活動について理解できる。
4. 地域住民の疾病管理・予防、健康づくりにおける看護職の役割を理解できる。
5. 保健・医療・福祉施設との連携や地域住民との協働のあり方を理解できる。
6. 専門職にふさわしい態度で行動できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「地域の健康と看護」、「公衆衛生看護とヘルスプロモーション」を修得していること。

【授業計画】

実習1日目	オリエンテーション
実習2～4日目	施設実習
実習5日目	学内実習
実習6～8日目	施設実習
実習9日目	学内実習
実習10日目	実習のまとめ・発表(学内)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：実習地域の概況をホームページや資料等から情報収集し整理する(事前学習ノート作成、既存資料による地域診断)。実習地域の地域診断に関する内容を確認し、健康問題に対する介入方法について推測する(2時間)。

事後学習：実習中に感じた疑問や学び、自己の課題を明確にし、授業時配付資料および事前課題をもとにさらに学習を深める。看護師国家試験の関係する範囲の過去問題を学習する(1時間)。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度(72%)、事前課題・課題レポート(18%)、カンファレンス・プレゼンテーション(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については、学生個人に返却する(掲示により連絡する)。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。

【参考書】

厚生労働統計協会：国民衛生の動向(最新版)，厚生労働統計協会。

厚生労働統計協会：国民の福祉と介護の動向(最新版)，厚生労働統計協会。

【備考】

地域看護学の実践について理解を深め、広い視野で対象を看護できる素養を形成することが本実習のねらいである。各実習機関・施設(市町村・学校・医療機関等)においては、地域住民の生活に密着した活動を展開している看護専門職者による具体的かつ直接的な指導を受けながら学びを深めることができる。

保健師として、もしくは看護師として5年以上の臨床経験をもつ教員が指導する。

授業科目名		周産期看護援助論		担当教員	◎下 睦子、志村千鶴子、潮田千寿子、 小出加代子、吉田美和、夏村真奈巳	科目ナンバリング NS384
必修	開講年次：３年前期		単位：２単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

新しい家族の誕生期にある人々の健康生活を看護するために必要な基礎的知識と技術を習得する。妊娠、分娩、産褥期の女性の体の変化や心理的反応、そして家族のニーズについて理解し、適切な看護介入について学ぶ。周産期各期の経過について理解し、適切な看護師の役割について考察する。また、周産期のハイリスク状態にある女性に対する適切な看護技術を修得する。

【到達目標】

1. 母性機能が顕著である妊娠期の女性の妊娠に伴う身体的・心理社会的変化とその看護について理解し、説明することができる。
2. 分娩の生理や産痛のメカニズムと関連づけて、分娩進行に伴う産婦と胎児の身体的・心理社会的変化とその看護について理解し、説明することができる。
3. 産褥期の女性の生殖器・全身の変化と進行性変化、生活適応、新生児の生理的变化と適応、および産褥早期の母子への看護について理解し、説明することができる。
4. 妊産褥婦の健康を守るために必要な安楽ケア、妊婦健康診査で用いる基本的な診察技術を修得し、実践することができる。
5. 正常な産褥・新生児期の経過を支援するために必要な褥婦・新生児の観察技術、授乳の援助に関する技術を修得し、実践することができる。
6. 産褥・新生児期のケアの展開について、具体的な事例を用いて母子に関連づけて看護ケア計画を立案し、説明することができる。

【履修条件】

「ウィメンズヘルス看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- | | |
|--|--------------------|
| [01] 妊娠に伴う母体の生理的变化、マイナートラブル | (下) |
| [02] 胎児の発育とその生理 | (下) |
| [03] 妊婦の心理・社会的状態、妊婦のアセスメントと支援 | (下) |
| [04] ハイリスク妊娠とその看護 | (下) |
| [05] 分娩の生理(分娩の3要素とメカニズム、正常分娩の経過) | (下) |
| [06] 産婦の心理・社会的状況、分娩時のアセスメントと看護 | (下) |
| [07] 分娩の異常とその看護 | (下) |
| [08] 妊婦健康診査に用いる観察技術 | (下) |
| [09] 妊婦健康診査技術(演習) | (下・志村・潮田・小出・吉田・夏村) |
| [10] 妊婦体験と産痛緩和支援(演習) | (下・志村・潮田・小出・吉田・夏村) |
| [11] 産褥期の退行性変化及び異常とその看護 | (下) |
| [12] 産褥期の進行性変化とその看護 | (下) |
| [13] 褥婦とその家族の心理・社会的変化と生活適応、退院支援 | (下) |
| [14] 褥婦とその家族の心理・社会的変化の異常とその看護 | (下) |
| [15] 産褥期の異常とその看護 | (下) |
| [16] 新生児の生理 | (下) |
| [17] 出生直後と24時間以内の新生児の看護 | (下) |
| [18] 出生24時間以降の新生児の看護 | (下) |
| [19] ハイリスク新生児の看護 | (下) |
| [20] 新生児の感染症予防と事故防止 | (下) |
| [21] 看護過程の展開(グループワーク)：産褥期・新生児期の看護(事例) | (志村) |
| [22] 看護過程の展開(グループワーク)：アセスメント、看護目標の設定 | (志村・下・小出・吉田) |
| [23] 褥婦のアセスメント(演習) | (下・志村・潮田・小出・吉田・夏村) |
| [24] 褥婦の観察技術および母乳育児支援(演習) | (下・志村・潮田・小出・吉田・夏村) |
| [25] 新生児のアセスメント(演習) | (下・潮田・小出・吉田・夏村) |
| [26] 新生児のフィジカルアセスメントと日常生活支援(演習) | (吉田・下・潮田・小出・夏村) |
| [27] 看護過程の展開(グループワーク)：優先順位をつけてケア計画立案 | (志村・下・小出・吉田) |
| [28] 看護過程の展開(グループワーク)：ケア計画と評価、発表準備 | (志村・下・小出・吉田) |
| [29] 看護過程の展開(グループワーク・発表)：アセスメントの要点、ケア計画と評価 | (志村・下・小出・吉田) |
| [30] 看護過程の展開(グループワーク・討議)：退院支援と評価を含む総括 | (志村・下・小出・吉田) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の学習を行うこと。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと。(1時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験の成績(60%)、演習課題の記載内容および貢献度(20%)、グループワークの記載内容および貢献度(20%)により総合的に評価する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは記述内容を評価し、返却する。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

1. 板倉敦夫他(2022) 新体系 看護学全書 母性看護学② ●マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. メヂカルフレンド社.
2. 北川真理子他(2022) 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術. メヂカルフレンド社.

【参考書】

1. 太田操編著(2024) ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 第4版. 医歯薬出版.
2. 有森直子他(2022) 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版. 医歯薬出版.
3. 森恵美他著(2021). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論. 医学書院.
4. 大平光子他(2022) 母性看護学Ⅱマタニティサイクル. 南江堂.
5. 井上裕美他(2018) 病気がみえる vol. 10 産科. メディックメディア.

【備考】

ウィメンズヘルス看護学概論、ウィメンズヘルス看護学実習と関連が深い。特に、ウィメンズヘルス看護学実習に向け、妊産褥婦・新生児とその家族について理解を深め、アセスメント能力と看護実践能力つながる知識・技術習得の学習を主体的に行うこと。

助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が教授する。

授業科目名		ウィメンズヘルス看護学臨地実習		担当教員	◎下 睦子、志村千鶴子、潮田千寿子、 小出 加代子、吉田 美和	科目ナンバリング NS385
必修	開講年次：3 年後期		単位：2 単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力			

【授業概要】

女性の健康生活を援助するために必要な基礎知識と技術を修得する。

女性のライフサイクル各期におけるヘルスアセスメント技術、健康教育、看護技術、周産期にある人々への看護実践に携わり、またハイリスク状態の看護実践にも参加する。妊娠、分娩、産褥期にある女性と新生児の身体的、心理的、社会的変化がもたらす健康問題についてアセスメントし、看護計画を立案・実行・評価する。

【到達目標】

1. 妊娠期から産褥期、および新生児期をより順調に経過するために必要なケアを見出し、基本的な看護技術を実施することができる。
2. 女性の健康生活を援助するために必要なヘルスアセスメントおよび健康教育の視点から、周産期の対象に必要な看護を実践することができる。
3. 新しい家族の誕生期にある対象を理解し、日常生活における基本的なセルフケアを維持促進するために必要な援助を実践することができる。
4. 育児期にある母子や家族の状況をアセスメントし、地域で必要な育児支援および看護師の役割について考察し、説明・記述することができる。
5. ハイリスク状態にある女性の健康状態についてアセスメントし、適切な看護介入を実践することができる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「ウィメンズヘルス看護学概論」、「周産期看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

- 実習1～5日目 オリエンテーション、褥婦・新生児を対象とした実習
 実習6日目 妊婦を対象とした実習
 実習7～9日目 育児期の母親を対象とした実習
 実習10日目 まとめ：妊娠期から育児期への支援と看護の役割についての討論

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学習：周産期看護援助論での講義内容、演習内容をまとめる。
 妊産褥婦と新生児に必要な看護技術を事前に練習する。(3時間)
 事後学習：実習中の記録を振り返り補完する。(1時間)

【評価方法・評価基準】

実習目標に対する行動実践・実習記録の記載内容の程度による総合的評価(80%)、実習の取り組み姿勢・カンファレンスでの発言内容および貢献度(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、全領域実習が終了した時点(3年後期)で学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

周産期看護援助論で使用した以下のテキストを参考書とする。

1. 板倉敦夫他(2022) 新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. メディカルフレンド社.
2. 北川眞理子他(2022) 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術. メディカルフレンド社.
3. 太田操編著(2024) ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 第4版. 医歯薬出版.
4. 有森尚子他(2022) 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版. 医歯薬出版.
5. 森恵美他(2021) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学各論. 医学書院.
6. 大平光子他(2022) 母性看護学Ⅱマタニティサイクル. 南江堂.
7. 井上裕美他(2018) 病気がみえる vol.10 産科. メディックメディア.
8. 村越毅他(2018) 帝王切開術バイブル. メディカ出版.

【備考】

周産期看護学援助論の妊産褥婦・新生児とその家族についての看護の理解を深め、実習に臨む。
 助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		小児保健看護援助論		担当教員	◎吉野 妙子、大野 知代、 高橋 玲子	科目ナンバリング NS387
必修	開講年次： 3 年前期		単位： 2 単位	授業形態：演習60時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力			

【授業概要】

小児看護学概論で学んだ子どもの発達や生活の特色、家族の役割等を基盤として、子どもやその家族の状況や疾患に対する看護について学ぶ。

【到達目標】

健康障害を持つ子どもと家族が生活・療養するための看護について修得できる。

1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響とその看護が説明できる。
2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護が説明できる。
3. 子どもと家族の療養生活を支えるための看護技術の方法、留意点を理解し実施できる。

【履修条件】

「小児保健看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- | | |
|--|---------|
| [01] 健康障害が子どもと家族に与える影響 | (吉野) |
| [02] 子どもの健康障害と看護：子どもと家族の看護の方向性、子どもの権利 | (吉野) |
| [03] 外来における子どもと家族の看護：外来の種類と活動、受診の流れと看護、現状と課題 | (高橋) |
| [04] 入院を必要とする子どもと家族の看護：入院による子どもと家族への影響と反応 | (吉野) |
| [05] 入院を必要とする子どもと家族の看護：入院環境、事故の種類と内容及び防止策 | (吉野) |
| [06] 急性期にある子どもと家族の看護：急性期の特徴、子どもと家族の看護 | (高橋) |
| [07] 症状を示す子どもと家族の看護：子どもの症状の特徴、子どもと家族の看護 | (高橋) |
| [08] 慢性期にある子どもと家族の看護：小児慢性特定疾患について、子どもや家族の特徴と看護 | (吉野) |
| [09] 慢性期にある子どもと家族の看護：成人期への移行過程にある子どもの問題と課題 | (吉野) |
| [10] 検査や処置を受ける子どもと家族の看護：検査・処置総論、プレパレーションの目的と実際 | (高橋) |
| [11] 検査や処置を受ける子どもと家族の看護：検査・処置時の看護 | (高橋) |
| [12] 生活制限のある子どもと家族の看護：活動制限・食事制限の目的と看護 | (吉野) |
| [13] 生活制限のある子どもと家族の看護：生活制限とは、感染症をもつ子どもの看護(隔離) | (吉野) |
| [14] 周手術期にある子どもと家族の看護：術前・術後の看護、退院に向けての看護 | (吉野) |
| [15] 終末期にある子どもと家族の看護：終末期とは、緩和ケア、デスエデュケーション | (吉野) |
| [16] 障害をもつ子どもと家族の看護：心身に障害のある子どもの特徴、在宅療養と看護 | (高橋) |
| [17] 障害をもつ子どもと家族の看護：災害時の看護、子どもが受ける影響、災害への備え | (高橋) |
| [18] ハイリスク新生児と家族の看護：ハイリスク新生児の特徴、子どもと家族の看護 | (吉野) |
| [19] 健康障害をもつ子どもの看護過程－演習(情報の分類と整理) | (吉野・高橋) |
| [20] 健康障害をもつ子どもの看護過程－演習(解釈と判断1) | (吉野・高橋) |
| [21] 健康障害をもつ子どもの看護過程－演習(解釈と判断2) | (吉野・高橋) |
| [22] 健康障害をもつ子どもの看護過程－演習(解釈と判断3) | (吉野・高橋) |
| [23] 小児看護を支える基本技術－グループ演習(バイタルサイン測定、点滴静脈内注射の固定) | (吉野・高橋) |
| [24] 小児看護を支える基本技術－グループ演習(経口与薬、点滴の滴数調整) | (吉野・高橋) |
| [25] 小児看護を支える基本技術－グループ演習(身体計測、環境整備) | (吉野・高橋) |
| [26] 小児看護を支える基本技術－グループ演習(抑制、採血・腰椎穿刺の固定) | (吉野・高橋) |
| [27] プレパレーション演習－グループワーク(対象理解) | (大野) |
| [28] プレパレーション演習－グループワーク(計画立案) | (大野) |
| [29] プレパレーション演習－グループワーク(ツールの作成) | (大野) |
| [30] プレパレーション演習－グループワーク(発表) | (大野) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行う。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行う。(1時間)

【評価方法・評価基準】

定期試験 70%、課題レポート等の提出 30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

個人が演習で作成した課題に関しては、教員への提出後、評価し返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

1. 奈良間美保他(2020) 系統看護学講座小児看護学(1) 小児看護学概論・小児臨床看護総論, 医学書院
2. 奈良間美保他(2020) 系統看護学講座小児看護学(2) 小児臨床看護各論, 医学書院

【参考書】

1. 二宮啓子、今野美紀編集(2022) 小児看護技術 改訂第4版 南江堂
2. 中野綾美編集(2023) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術 第5版 メディカ出版
3. 松森直美、蝦名美智子編集(2012) 小児看護ケアモデル実践集 へるす出版
4. 及川郁子、田代弘子編集(2007) 病気の子どもへのプレパレーション 中央法規
5. 小林京子、高橋孝雄編集(2022) 健康障害をもつ小児の看護 第7版 メヂカルフレンド社
6. 伊藤龍子編集(2012) 子どもの看護技術 医歯薬出版株式会社
7. 山元恵子監修(2020) 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ

【備考】

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		小児保健看護学臨地実習		担当教員	◎吉野 妙子、大野 知代、 高橋 玲子	科目ナンバリング NS388
必修	開講年次：3年後期		単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力			

【授業概要】

子どもの生活援助と看護に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。子どもと家族が置かれている状況を的確に判断し、成長・発達や様々な健康状態に応じて看護を実践する。

【到達目標】

1. 対象小児を総合的に理解できる。
2. 対象小児の成長発達、健康障害に応じた看護を計画できる。
3. 対象小児の成長発達、健康障害および安全・安楽を考慮した看護を実施できる。
4. 実施した看護に対する対象小児および家族の反応や変化を理解できる。
5. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と責任について考察できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「小児保健看護学概論」、「小児保健看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

保育園・幼稚園・こども園実習

実習1日目 オリエンテーション

実習2～4日目 園児の活動に参加する

実習5日目 報告会 まとめ

小児病棟実習

実習1日目 オリエンテーション、情報収集

実習2～4日目 受け持ち患児を通して看護を実践する

実習5日目 面接、まとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：小児保健看護学概論、小児保健看護援助論の学習内容を復習する。小児保健看護援助論で示す症状看護、事例で出題された疾患についてまとめる。(2時間)

事後学習：1日の実習終了後に受け持ち患児との関わりから学んだことを振り返り記録する。実習全体から小児看護における看護師の役割に関する考察をレポートとして記述する。(2時間)

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価(80%)、カンファレンス(20%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、4年次前期に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

指定なし

【参考書】

小児保健看護学概論、小児保健看護援助論で使用した以下のテキストを参考書とする。

1. 奈良間美保編(2020) 系統看護学講座小児看護学(1) 小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院.
2. 奈良間美保編(2020) 系統看護学講座小児看護学(2) 小児臨床看護各論, 医学書院.

【備考】

看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名		国際看護学Ⅰ		担当教員	◎大野知代、松本幸枝、潮田千寿子、 KELLY JAMES、何 雨竹、 吉田美和	科目ナンバリング NM361
必修	開講年次：３年前期		単位：２単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、 Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

世界の人々の健康と看護職をグローバルかつ文化的な視点から、国際看護組織の活躍と成果、世界各国のプライマリヘルスケア、保健医療制度、さらに看護職の実態とそれらの問題点と対策について学ぶ。

【到達目標】

1. 世界の地理的知識と文化をはじめ、そこに住む人々の生活の実態を理解することができる。
2. 各国の文化、習慣、医療、看護等の実態を通して、問題および課題について理解することができる。
3. 国際人として行動できる具体的な能力、態度、役割等について理解することができる。
4. 海外における看護に必要なコンピテンシーと看護の役割について自己の考えを深めることができる。
5. 世界の人々の健康・医療・貧困・教育等についてグローバルな視点から考察することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|-----------------------|
| [01] 全体ガイダンス / オリエンテーション | (大野) |
| [02] 国際的な視点から医療・福祉・教育・看護等の実態について:日本 | (潮田) |
| [03] 国際的な視点から医療・福祉・教育・看護等の実態について:中国 | (何) |
| [04] 国際的な視点から医療・福祉・教育・看護等の実態について:アメリカ | (吉田) |
| [05] 国際的な視点から医療・福祉・教育・看護等の実態について:カナダ | (kelly、大野) |
| [06] 国際的な視点から医療・福祉・教育・看護等の実態について:シンガポール | (松本) |
| [07] 国際的な視点から医療・福祉・教育・看護等の実態について:ドイツ | (大野) |
| [08] 総括:国際看護学Ⅰのまとめ | (大野・松本、潮田、Kelly、何、吉田) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習: 日頃から国際的情報に関心を持ち、その情報から得た内容を整理して授業に臨むこと。(1.5時間)

事後学習: 各授業回から学んだ内容を整理して、次年度の選択科目「国際看護学Ⅱ」の履修の参考にすること。(1.5時間)

【評価方法・評価基準】

各授業終了後の内容の要約を含む感想文及び個人の疑問・課題等について提出したものを100%とし、担当教員で総合的に評価する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

学修状況に応じて学生のニーズを把握し、目標に到達できるよう各担当回で教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション / グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

- 池上彰編著(2016). 世界を救う7人の日本人ー国際貢献の教科, 朝日新聞出版
 水巻中正編著(2019). 令和はばたく医療ツーリズムー国際貢献と連携の新時代, 中央公論新社
 葉田甲太(2019). 僕たちはヒーローになれなかった, あさ出版
 中田正一(1995). 国際協力の新しい風ーパワフルじいさん奮闘史, 岩波書店
 スー・チュラリー・勝井信子・渡辺知花(2012). 異文化理解とヘルスケア, 日本放射線技師会出版会
 徳永瑞子(2012). アフリカの詩ー看護師徳永瑞子の日本へのメッセージ, クオリティケア

【備考】

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		看護研究		担当教員	◎志村 千鶴子、足立 智孝、 榎本 輝樹、有家 香	科目ナンバリング NM389
必修	開講年次：3年前期		単位：2単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる能力			

【授業概要】

研究に関する基礎的知識を学び従来の量的看護研究のパラダイムに限定せず、質的研究のパラダイムや手法についても理解し、研究課題にマッチした研究デザインやデータ処理法の必要性を理解する。また、文献検索の手法や研究の批判的・批判的吟味の方法と看護に関連したエビデンスを探すプロセスを学ぶ。

【到達目標】

1. 看護研究の目的と意義について説明することができる。
2. 研究プロセスの概要について説明することができる。
3. 看護研究における倫理的問題とその対応について説明することができる。
4. 文献検索データベースを用いた文献検索の方法を理解し、実践することができる。
5. 研究テーマを科学的に探究するための研究デザインについて説明することができる。
6. 文献クリティークの必要性和方法を理解し、実践することができる。
7. 研究計画書を作成する目的と内容を説明することができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 看護研究とは／看護における研究の活用	(志村)
[02] 研究のプロセス／研究方法	(志村)
[03] 研究における倫理	(足立)
[04] 量的研究	(榎本)
[05] 量的研究	(榎本)
[06] 質的研究	(有家)
[07] 質的研究	(有家)
[08] 演習：文献検索と文献の整理	(有家)
[09] 演習：文献検索と文献の整理	(有家)
[10] 文献クリティークとは	(志村)
[11] 演習：文献クリティーク(グループワーク)	(志村・榎本)
[12] 演習：文献クリティーク(グループワーク)	(志村・榎本)
[13] 演習：文献クリティーク(グループワーク)	(志村・榎本)
[14] 研究計画書の必要性和内容	(志村)
[15] 研究計画書の作成方法／研究成果のまとめ方と伝え方	(志村)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書の該当箇所を事前に学習しておく。(2時間)

事後学習：授業で提示された課題や課題レポートについて、授業内容を参考にして記述し、まとめる。(2時間)

【評価方法・評価基準】

授業内課題(60%)、課題レポート(40%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業内課題、課題レポートについては、傾向をまとめて全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

坂下玲子・宮芝智子・小野博史(2023)：系統看護学講座別巻 看護研究(第2版)，医学書院。

【参考書】

1. 大木秀一(2013)：文献レビューのきほん―看護研究・看護実践の質を高める，医歯薬出版。
2. 牧本清子・山川みやえ(2020)：よくわかる看護研究論文のクリティーク(第2版)，日本看護協会出版会。

【備考】

- ・看護研究での学修内容は、4年次の研究ゼミナールⅠ・Ⅱの基礎となる。
- ・看護研究について5年以上の経験を持つ教員が教授する。

授業科目名		災害看護学		担当教員	◎上田修代、鶴岡章子、浅野幸子、高山里美、金城一也	科目ナンバリング NM391
必修	開講年次：3年前期		単位：1単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

災害は、突然発生し、人々の生活や健康を大きく脅かすため、何らかの保健医療福祉のサポートが必要になる。災害の種類と被災の規模、保健医療福祉のニーズ、国や地域の支援体制、看護職が果たす役割について学修する。また、看護職の役割は、災害への備えや発生時の対応に関する市民教育、災害発生直後の被災者への対応、被災者への心理・社会的支援など多方面にわたる。地域の災害(地震・津波、大洪水、船舶事故、大火災・爆発)の備えについて情報収集・分析、行動計画作成、必要な看護支援について考察する。

【到達目標】

1. 災害の原因となるハザードについて理解できる。
2. 災害の種類と被災者の状況を理解し、被災者のニーズについて考察できる。
3. 国や地域による防災対策、災害ネットワークについて理解できる。
4. 災害時に必要な看護について理解できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---------|
| [01] 授業オリエンテーション、災害発生の現状と今日的課題、災害看護の歴史的発展 | (上田) |
| [02] 災害に関する法律・制度、災害における連携 | (上田) |
| [03] 大規模災害における避難行動・避難生活の現実 | (浅野) |
| [04] 被災者の多様性と要配慮者への支援 | (浅野) |
| [05] 災害とジェンダー | (浅野) |
| [06] 災害サイクル各期における看護活動：超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期 | (上田) |
| [07] 避難所・仮設住宅・被災地における看護活動 | (高山) |
| [08] 災害時の対応、災害医療の活動原則(CSCATTT)とは | (金城) |
| [09] 災害時に必要な技術①演習：トリアージの原則と方法 | (金城・上田) |
| [10] 災害時に必要な技術②演習：応急処置・搬送法 | (金城・上田) |
| [11] 災害時の地域看護活動①防災対策と地域社会の協働・連携、防災地区踏査計画の立案 | (上田・鶴岡) |
| [12] 災害時の地域看護活動②演習：防災地区踏査の実際(グループワーク) | (上田・鶴岡) |
| [13] 災害時の地域看護活動③演習：防災地区踏査の実際(グループワーク) | (上田・鶴岡) |
| [14] 災害時の地域看護活動④演習：防災地区踏査報告書の作成(グループワーク) | (上田・鶴岡) |
| [15] 災害時の地域看護活動⑤演習：防災地区踏査のグループ発表 | (上田・鶴岡) |
| 災害に備えた地域づくり、災害看護学まとめ | (上田・鶴岡) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書の該当箇所を事前に学習しておく。日頃からマスメディアやインターネットを活用して災害に関連する様々な情報に関心を持ち、授業内容と関連付けて整理する(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を教科書や配布資料で復習し、他の科目の内容と関連付けて整理する(2時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

酒井明子・増野園恵(2023)：災害看護(改訂第4版)，南山堂。

【参考書】

小原真理子(2019)：災害看護 心得ておきたい基本的な知識(改訂3版)，南江堂。

浦田喜久子(2019)：災害看護学・国際看護学(第4版)，医学書院。

【備考】

災害看護学は看護の全領域をカバーする広範囲な領域である。2年の後期、3年の前期から始まる看護各領域と関連が深く、救命救急やトラウマティックシンドローム、各領域の災害看護と並行して学習する。

災害現場で活動した経験のある看護職や防災対策・体制に関する普及団体で活動する講師により講義・演習を展開する。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

授業科目名		公衆衛生看護支援技術Ⅰ（個人・家族）		担当教員	◎鶴岡 章子、上田 修代	科目ナンバリング NP301
選択	開講年次：３年前期		単位：２単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標（必須要素）			Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

公衆衛生看護活動において個人・家族への支援である健康相談、健康教育、健康診査、家庭訪問の理論と方法について理解する。さらに、地域で生活する個人・家族の健康課題を、集団・組織や地域全体と相互に影響し合う健康課題としてアセスメントすることにより、地域ケアシステムの構築や社会資源の開発の意義を学修する。

【到達目標】

1. 個人・家族への支援の基本となる健康相談、健康教育、健康診査、家庭訪問の理論と方法が理解できる。
2. 個人・家族の健康課題と集団や地域全体の健康課題との関連を考えることができる。
3. 様々な健康課題を抱えた個人・家族に応じた支援活動を検討することができる。

【履修条件】

「地域の健康と看護」、「公衆衛生看護とヘルスプロモーション」、「公衆衛生学」を修得していること。

【授業計画】

[01] 保健師が行う保健指導の目的、対象、特徴	(鶴岡)
[02] 保健行動と保健活動	(鶴岡)
[03] 家族の定義と特性、家族を単位とした看護の必要性	(上田)
[04] 家族アセスメントの理論と方法	(上田)
[05] 健康相談① 健康相談の目的・対象・方法	(鶴岡)
[06] 健康相談② 健康相談のプロセス、健康相談の企画・実施・評価	(鶴岡)
[07] 健康教育① 健康教育の目的・対象・技術と基礎理論	(鶴岡)
[08] 健康教育② 健康教育の方法とプロセス	(鶴岡)
[09] 家庭訪問① 家庭訪問の目的・対象・技術	(鶴岡)
[10] 家庭訪問② 家庭訪問のプロセス	(鶴岡)
[11] 家庭訪問③ 家庭訪問の評価、関係機関・職種との連携、社会資源の開発	(鶴岡)
[12] 健康診査① 健康診査の目的・対象・技術	(鶴岡)
[13] 健康診査② 健康診査のプロセス、特定健康診査と特定保健指導	(鶴岡)
[14] 事例から学ぶ個別指導	(上田・鶴岡)
[15] 事例から学ぶ家族保健指導	(上田・鶴岡)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：「地域の健康と看護」「公衆衛生看護とヘルスプロモーション」など、公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を復習しておく(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学. jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。

【参考書】

鳩野洋子他(2024)：公衆衛生看護学. jp(第6版)，インターメディカル。

中村裕美子他(2024)：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版)，医学書院。

井伊久美子他(2023)：新版保健師業務要覧(第4版)2023年版，日本看護協会出版会。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生の履修可能

授業科目名		公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織)		担当教員	◎上田 修代、山口 恵子	科目ナンバリング NP302
選択	開講年次：３年前期		単位：１単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

地域の健康課題を解決するために、地域の人々が主体的に参加できるセルフヘルプ・グループ育成から地域組織化への理論と支援方法を理解する。さらに、疾病・介護予防や健康の保持増進を目的とした住民組織の育成、地域の健康課題解決を目的とした住民組織との連携・協働の方法について学修する。併せて、地区組織活動を通じた住民主体の地域ケアシステム構築、ネットワークづくり等をはじめとするソーシャルキャピタルの醸成・活用の必要性を理解する。

【到達目標】

1. 地域の健康課題解決に向けた集団・組織の育成の必要性和支援方法を理解できる。
2. 各種の住民組織との協働を通して、地域における疾病・介護の予防とヘルスプロモーション活動の方法を理解できる。
3. 地域ケアシステムの構築、ネットワークづくり等を通して、健康なソーシャルキャピタルの醸成・活用の必要性を理解できる。

【履修条件】

「地域の健康と看護」、「公衆衛生看護とヘルスプロモーション」、「公衆衛生学」を修得していること。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------|------|
| [01] 地域におけるグループ支援の歴史と特長 | (上田) |
| [02] グループ支援とは、グループ支援に用いられる諸概念 | (上田) |
| [03] グループ育成支援と組織化 | (上田) |
| [04] 地域活動への発展と支援者の基本的姿勢 | (上田) |
| [05] セルフヘルプ・グループの特徴と支援方法 | (上田) |
| [06] 住民組織・地区組織の育成(地区組織活動) | (山口) |
| [07] 地域ケアシステムの発展過程とチームワーク | (上田) |
| [08] 地区組織活動を通じたソーシャルキャピタルの醸成・活用 | (上田) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：毎回、公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を復習しておく(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。

【参考書】

中村裕美子他(2023)：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版)，医学書院。

井伊久美子他(2023)：新版保健師業務要覧(第4版)2023年版，日本看護協会出版会。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護支援技術演習		担当教員	◎上田 修代、鶴岡 章子	科目ナンバリング NP303
選択	開講年次：3年前期		単位：1単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

個人・家族や集団・組織を対象とした公衆衛生看護活動の基本的技術である家庭訪問と健康教育について、事例を用いて体験的に学修する。特に、対象者が主体的に健康問題を把握し、自らの生活の場で予防的な対処方法や問題解決の方法を選択できるように働きかける接近技法や技術の基礎を修得する。

【到達目標】

1. 公衆衛生看護活動の一手段としての家庭訪問と健康教育の目的、対象、展開方法を理解できる。
2. 家庭訪問の方法および一連の過程を理解し、実践できる。
3. 集団を対象とした健康教育の計画を立案し、実践できる。

【履修条件】

「公衆衛生看護支援技術Ⅰ(個人・家族)」、「公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織)」を履修していること。

【授業計画】

[01] 個別および集団を対象とした保健指導の方法と支援者の役割	(上田)
[02] 家庭訪問① 家庭訪問の目的・対象者の特性、家庭訪問の事前調整	(上田・鶴岡)
[03] 家庭訪問② 支援方法と支援技術	(上田・鶴岡)
[04] 家庭訪問③ 家庭訪問のプロセス	(上田・鶴岡)
[05] 家庭訪問④ 訪問計画の立案：対象者の把握と事前の情報整理	(上田・鶴岡)
[06] 家庭訪問⑤ 訪問計画の立案：支援目標・支援内容の立案	(上田・鶴岡)
[07] 家庭訪問⑥ 家庭訪問の実際(ロールプレイ：グループ別に実施と観察)	(上田・鶴岡)
[08] 家庭訪問⑦ 家庭訪問の実際(ロールプレイ：グループ別に実施と評価)	(上田・鶴岡)
[09] 健康教育① 健康教育と健康学習、保健行動と行動変容	(上田・鶴岡)
[10] 健康教育② 実態把握、企画書・指導案の作成	(上田・鶴岡)
[11] 健康教育③ 企画書・指導案の作成	(上田・鶴岡)
[12] 健康教育④ 企画書・指導案の修正、媒体等の作成	(上田・鶴岡)
[13] 健康教育⑤ 実施準備(デモンストレーション、媒体等の完成)	(上田・鶴岡)
[14] 健康教育⑥ 健康教育の実施(グループ発表)	(上田・鶴岡)
[15] 健康教育⑦ 健康教育の実施・評価(グループ発表)	(上田・鶴岡)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む。演習計画にそって予め資料・媒体等の準備を行っておく(2時間)。

事後学習：各回の演習内容を復習し、グループで計画的に進められるよう情報共有に心がける(1)。

【評価方法・評価基準】

グループ討議および発表(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

グループワークおよびグループ発表の評価は、授業の中で行う。

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループワーク/ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。

厚生労働統計協会(2024)：国民衛生の動向 2024/2025，厚生労働統計協会。

【参考書】

中村裕美子他(2023)：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版)，医学書院。

井伊久美子他(2023)：新版保健師業務要覧(第4版)2023年版，日本看護協会出版会。

【備考】

本科目は、「公衆衛生看護支援技術Ⅰ(個人・家族)」、「公衆衛生看護支援技術Ⅱ(集団・組織)」における学びと連動させ、具体的な公衆衛生看護支援技術を修得する科目である。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

2025

4 年 次

基礎教養分野

〔外国語〕

論文の書き方 (英語)	122
-------------------	-----

〔人間と健康〕

東洋医学	123
予防と治療の遺伝学	124

看護専門分野

〔看護の統合と実践〕

国際看護学Ⅱ	125
チーム医療と看護システム	126
生涯教育論	127
看護倫理学	128
看護の統合と実践臨地実習Ⅰ (医療安全と感染看護学)	129
看護の統合と実践臨地実習Ⅱ (チーム医療・地域包括ケアシステム)	129
研究ゼミナールⅠ	131
研究ゼミナールⅡ	132

〔公衆衛生看護学〕

産業保健活動論	133
公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	134
公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	135
公衆衛生看護活動展開論演習	136
公衆衛生看護管理論	137
公衆衛生看護学実習Ⅰ	138
公衆衛生看護学実習Ⅱ	139

授業科目名		論文の書き方(英語)		担当教員	KELLY JAMES	科目ナンバリング LE420
選択	開講年次：４年前期		単位：１単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力			

【授業概要】

多数の論文〔英語〕を読むことによって学術論文の構成やルールを学び、抄録や小論文を英語で書く機会を持つ。文章表現の基本原則を踏まえた文章の作成と文章表現を基礎として、コンピューターを活用して短いレポートや抄録、または小論文を英語で作成する。

【到達目標】

1. 学術論文(英語)の構成やルールが説明できる。
2. 英語の文章表現の基本原則を踏まえた文章の作成ができる。
3. 自己の研究目的に合った抄録や小論文を英語で作成できる。

【履修条件】

【授業計画】

- [01] アカデミック・ライティングとは
- [02] パラグラフとは
- [03] エッセイの構造 1
- [04] エッセイの枠組みを構想する
- [05] 文献資料の扱い方
- [06] エッセイの構造 2
- [07] エッセイの作成 1：テーマの決定
- [08] エッセイの作成 2：Outline の作成
- [09] エッセイの作成 3：Introduction の作成
- [10] エッセイの作成 4：Body(Supporting Paragraph)の作成①
- [11] エッセイの作成 5：Body(Supporting Paragraph)の作成②
- [12] エッセイの作成 6：Body(Supporting Paragraph)の作成③
- [13] エッセイの作成 7：Conclusion の作成
- [14] エッセイの発表 1
- [15] エッセイの発表 2

【授業のために必要な事前・事後学習】

授業時に指示される課題を確実に実施し、次時に向け準備すること。

【評価方法・評価基準】

- 小論文作成プロセス(25%)
- 抄録の作成(25%)
- 小論文作成および発表(50%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各自が作成する抄録および小論文については、授業時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

迫桂・徳永聡子著(2012). 英語論文の書き方、慶応大学出版会

【参考書】

アメリカ心理学会(APA)著(2011). APA 論文作成マニュアル 第2版、医学書院
前田樹海・江藤裕之著(2013). APA に学ぶ看護系論文執筆のルール、医学書院
ただし英和・和英辞典(電子辞書可)は毎時間必携とする。

【備考】

学術・臨床両分野で必要とされる英語力を養成するための端緒となるよう積極的に取り組むこと。

授業科目名		東洋医学		担当教員	◎南澤 潔、堀江 延和、 山崎 雄平	科目ナンバリング LE435
選択	開講年次：4年後期		単位：1単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

東洋医学の根本的な考え方、陰陽、気、気の不足または過剰状態とその治療(漢方薬、針灸、指圧など)について学ぶ。

【到達目標】

1. 東洋医学の理念の哲学的起源と歴史的な継承について説明できる。
2. 東洋医学の根本的な考え方、陰陽、気、気の不足または過剰状態について説明できる。
3. 東洋医学における治療法をシミュレーションの形で実践し、理解できる。(漢方薬、針灸、指圧など)。
4. 東洋医学と看護との共通点について話し合うことができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| [01] 東洋医学概論1：そもそも東洋医学とは？漢方とは？ | (南澤) |
| [02] 東洋医学概論2：東洋医学の世界観；陰陽虚実 気血水 五臓 | (南澤) |
| [03] 鍼灸総論：鍼灸あんま指圧マッサージ概論の基礎 | (山崎) |
| [04] 漢方診療の実際 | (南澤) |
| [05] 生薬(漢方薬の中身)について | (堀江) |
| [06] 臨床に役立つ経絡経穴(ツボ)(理論・実技) | (山崎) |
| [07] 漢方薬の実際(漢方体験、漢方薬学) | (南澤) |
| [08] 研究発表：身近な生薬について知ってみる | (堀江) |
| [09] 臨床に役立つマッサージ、経絡経穴(ツボ)(実技) | (山崎) |
| [10] 研究発表：身近な漢方薬について調べてみる | (南澤) |
| [11] 症例演習：実際の症例を元に考えてみる | (南澤) |
| [12] セルフケア(漢方) | (南澤) |
| [13] セルフケア(お灸・ヨガ・ストレッチ)(実技) | (山崎) |
| [14] セルフケア(お灸・パートナーヨガ・ストレッチ)(実技) | (山崎) |
| [15] 討論、発表 東洋医学と看護について | (南澤・山崎) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

発表の機会が3回あるので、その際には事前の準備とレポート作成が必要である。

それ以外の講義では特に事前の準備は必要ない。

【評価方法・評価基準】

発表、レポートが各15%×2回、小論文が討論含めて25%、授業への参加態度が3%×15回

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

発表について授業中にコメントするので、レポートに関しては特にフィードバックは行わない。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

寺澤捷年(1996)「絵で見る和漢診療学」 医学書院

【備考】

特になし

授業科目名		予防と治療の遺伝学		担当教員	◎潮田 千寿子、大西 涼子、 大高 理生	科目ナンバリング LE436
選択	開講年次：4年後期		単位：1単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

近年遺伝学やゲノム研究が進み、疾病の予防や治療が急速に発達してきている。基礎的な遺伝学や核遺伝学の基礎的知識を持つことによって、より効果的な疾病予防活動や患者教育の視点から理解を深める。

【到達目標】

1. 遺伝学と核遺伝学の基礎を理解することによって遺伝学や核遺伝学を応用した疾病の予防や治療方法の理解に役立てる。
2. 遺伝学の知識を持ってファミリーヘルスアセスメントを行うことによって疾病の早期発見や家族教育に寄与する。
3. 薬理遺伝学の知識を薬物治療に対する患者の反応の観察と理解に応用する。

【履修条件】

「生物学」、「人間機能学(形態と機能)」、「人間病態学Ⅰ」を修得していること。

【授業計画】

[01] 遺伝学の基礎	(大高)
[02] 遺伝学検査 / 倫理問題	(大高)
[03] 遺伝カウンセリング1	(大高)
[04] 遺伝カウンセリング2	(大高)
[05] 遺伝看護とは	(大西)
[06] 遺伝看護の役割と活動の実際	(大西)
[07] 遺伝やゲノムに関するトピックス	(潮田)
[08] 意思決定支援	(潮田)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：予習用パワーポイント資料を確認しておくこと。(1時間)

事後学習：資料を復習しておくこと。また関連書籍を検索し、課題レポート作成の準備をしておくこと。(1時間)

【評価方法・評価基準】

- 1) 授業の参加態度 20%
- 2) 課題レポート 80%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポート等は、返却しない予定である。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション / グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

特に指定なし。

【参考書】

- 1) 新川詔夫他(2020)：遺伝医学への招待(改訂第6版)、南江堂
- 2) フランシス・S・コリンズ(2011)：遺伝子医療革命ーゲノム科学がわたしたちを変えるー、NHK 出版
- 3) 千代豪昭(2010)：遺伝カウンセラーの臨床遺伝学講義ノート、オーム社
- 4) 関沢明彦(2020)：周産期遺伝カウンセリングマニュアル(改訂第3版)、中外医学社

【備考】

近年、ゲノム医療の進歩は目覚ましい。卒前に基本的な遺伝子学を習得して欲しい。
看護職、もしくは遺伝カウンセラーとして5年以上の臨床経験をもつ教員が担当する。

授業科目名	国際看護学Ⅱ	担当教員	◎大野知代、志村千鶴子、足立智孝、 松本幸枝、潮田千寿子、 KELLY JAMES、何 雨竹、 亀田隆明	科目ナンバリング NM462
必修	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：演習30時間	
関連する教育目標(必須要素)		IV. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、 V. 国際的視野と地域貢献能力		

【授業概要】

国際看護学Ⅰでの学習を基に、訪問する国のヘルスケア施設を見学し、世界の人々の健康と看護職をグローバルかつ文化的な視点から考察する。

【到達目標】

1. 異なる文化背景を持つ人々の生活の実態とその人々への尊敬とともに文化を重んじる態度を養うことができる。
2. 事前準備および研修の実際から国際人として求められる具体的な能力、態度、資質、自覚等を認識し行動できる。
3. 各研修国の健康課題と保健・医療・福祉および看護教育システム等について理解し、説明できる。
4. 世界の人々の健康・保健・医療・教育等についてグローバルな視点から討論し学生間で共有できる。
5. 国際協力・国際看護における看護職としての、看護の役割とその具体的支援方法について考察できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 全体ガイダンス / オリエンテーション (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何・吉田)
- [02] 事前学習：訪問国の医療と看護等について・グループディスカッション、グループワーク (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [03] 事前学習：訪問国の医療と看護等について・グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [04] 事前学習：訪問国の医療と看護等について・グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [05] 事前学習：訪問国の医療と看護等について・グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [06] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [07] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [08] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [09] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [10] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [11] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [12] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [13] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [14] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)
- [15] 海外研修 (大野・志村・足立・松本・潮田・Kelly・何)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：日頃から国際的情報に関心を持ち、その情報から得た内容を整理して授業に臨むこと。(1.5時間)

事後学習：各授業回から学んだ内容を整理し、自己の到達目標・課題レポートにつなげること。(1.5時間)

【評価方法・評価基準】

海外研修メンバー(グループワークと発表および海外研修時、個々の学習状況)：40%

国内研修メンバー(文献購読等)：40%

海外研修後(国内研修対象者含む)の課題レポート：60%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

学修状況に応じて学生のニーズを把握し、達成目標に到達できるよう各授業回でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

池上彰編著(2016). 世界を救う7人の日本人－国際貢献の教科, 朝日新聞出版

水巻中正編著(2019). 令和はばたく医療ツーリズム－国際貢献と連携の新時代, 中央公論新社

葉田甲太(2019). 僕たちはヒーローになれなかった, あさ出版

中田正一(1995). 国際協力の新しい風－パワフルじいさん奮闘史, 岩波書店

スー・チュラリー・勝井信子・渡辺知花(2012). 異文化理解とヘルスケア, 日本放射線技師会出版会

徳永瑞子(2012). アフリカの詩－看護師徳永瑞子の日本へのメッセージ, クオリティケア

【備考】

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		チーム医療と看護システム		担当教員	◎休波茂子、中川泰弥、古谷直子、 渡邊八重子、高橋静子	科目ナンバリング NM463
必修	開講年次：4年前期		単位：2単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅶ．包括的看護実践能力			

【授業概要】

組織、チームにおける集団力動、組織動態を理解した上で、病院および看護部組織におけるコミュニケーション、リーダーシップ、マネジメントの望ましい在り方について学修する。さらに医療と看護を取り巻く環境を規定している法律、経済、制度、システムに視野を広げながら、安全で質の高い医療とケアを提供できる環境作りについて学ぶ。さらに、安全な医療を提供するために、セーフティマネジメントと感染管理に関する知識と技術について修得する。

【到達目標】

1. 組織、チームにおける集団力動について説明できる。
2. 看護チームにおけるコミュニケーションについて説明できる。
3. リーダーシップとマネジメントについて説明できる。
4. 看護提供方式について説明できる。
5. 多重課題への対処について説明できる。
6. 看護専門職としての生涯学習とキャリアについて説明できる。
7. 医療の質とマネジメント(セーフティマネジメントと感染管理)について説明できる。
8. 看護部組織、看護管理者の役割について説明できる。
9. 医療を取り巻く環境の変化と看護管理の実践について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|------------------------------|------|
| [01] 組織と集団、チーム、チーム医療 | (休波) |
| [02] チームにおけるコミュニケーション(1) | (中川) |
| [03] チームにおけるコミュニケーション(2) | (中川) |
| [04] リーダーシップとマネジメント | (休波) |
| [05] チームにおけるリーダーシップ(グループワーク) | (休波) |
| [06] チームにおけるリーダーシップ(グループ発表) | (休波) |
| [07] 看護提供方式の種類 | (休波) |
| [08] 看護ケアの実践、看護実践能力 | (休波) |
| [09] 多重課題の対処(1)(グループワーク) | (休波) |
| [10] 多重課題の対処(2)(グループ発表) | (休波) |
| [11] 看護専門職としての生涯学習とキャリア | (休波) |
| [12] 医療機関における安全管理者の役割と実際 | (高橋) |
| [13] 感染管理看護師の役割と実際 | (古谷) |
| [14] 看護部組織、看護管理者の役割 | (渡邊) |
| [15] 医療を取り巻く環境の変化と看護管理の実践 | (渡邊) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示される課題の記述、毎授業時に提示される内容の予習(2時間)

事後学習：講義資料をもとに重要なキーワードを中心に学習内容の復習、提示された課題の記述

看護の統合と実践臨地実習に備え学習内容を振り返り課題を記述(2時間)

【評価方法・評価基準】

筆記試験60%、グループ討議・発表20%、授業参加リフレクティブレポート20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては評価し返却する。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／ケースメソッド

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

上泉和子他(2020). 系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院.

【参考書】

手島恵他(2019). 看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル 改訂第2版, 南江堂.

吉田千文他(2023). ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理, メディカ出版.

【備考】

この科目は看護学分野の基本的な知識となるためキーワードとなる用語や定義は必ず理解しておくこと。

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		生涯教育論		担当教員	◎休波 茂子、安田 友恵	科目ナンバリング NM464
選択	開講年次： 4 年後期		単位： 1 単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			VI. 継続的に専門性を向上させる実践能力			

【授業概要】

専門職業人は、自ら学習機会を選択して学ぶ力、その成果を評価する力といった自己教育能力の向上に努める必要がある。そのため専門職業人としてのキャリア形成、看護職のキャリア発達やキャリア開発について学ぶ。さらに、看護専門職としての知識・専門性を発展させていくための看護継続教育について理解を深める。

【到達目標】

1. キャリアとは何か、人生キャリアと職業キャリアについて説明できる。
2. 専門職業人としてのキャリア形成、看護職のキャリア発達やキャリア開発について説明できる。
3. 看護師のキャリア(進路)について説明できる。
4. 看護継続教育とクリニカルラダーについて説明できる。
5. 看護職者のキャリア自律の支援の実践について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------|
| [01] キャリアとは、人生キャリアと職業キャリア | (休波) |
| [02] 看護職者の「キャリア形成」、看護職者を巡る環境変化 | (休波) |
| [03] 看護職者のキャリア形成、看護職者のキャリア自律の支援、個人の主体的なキャリア形成 | (休波) |
| [04] 看護師のキャリア：どのような進路があるのか課題学習(グループワーク) | (休波) |
| [05] 看護師のキャリア：どのような進路があるのか課題学習(グループ発表) | (休波) |
| [06] 看護継続教育とクリニカルラダー | (安田) |
| [07] 看護職者のキャリア自律の支援の実践：キャリア・アドバンス・システム
キャリア・カウンセリング | (安田) |
| [08] 未来の自分の職業キャリア構想 | (安田・休波) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された課題の記述(2時間)

事後学習：講義資料をもとに重要なキーワードを中心に学習(2時間)

【評価方法・評価基準】

課題レポート60%、発表・ディスカッション40%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては評価しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

テキスト：特に指定なし(講義資料を配布)

【参考書】

特になし

【備考】

この科目は卒業後に役立つ内容であり、看護師として働きつづけるために必要なキャリアと看護継続教育について学ぶ。

看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が指導する。

授業科目名		看護倫理学		担当教員	足立 智孝	科目ナンバリング NM466
必修	開講年次：4 年前期		単位：2 単位	授業形態：演習30時間		
関連する教育目標(必須要素)			I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、 IV. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力			

【授業概要】

看護師が臨床場面で遭遇する倫理的問題に気づき、理解し、またその対応方法を修得するために、生命倫理学で展開されている倫理原則や理論、方法論、代表的な倫理事例および医療や看護場面で生じる日常的な倫理問題を提示する。また講義で修得した知識に基づき、3年次の臨床実習で学生が経験した事例について倫理的・法的・社会的な観点から整理する。

【到達目標】

1. 倫理学の理論、倫理原則、方法論の基本的な知識を修得できる。
2. 看護専門職としての倫理的責務を理解できる。
3. 臨床現場で生じる倫理的問題に気づくことができる。
4. 臨床現場で生じる問題を倫理的・法的・社会的な観点から整理することができる。
5. 倫理的諸問題に対する意見を述べることができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] イントロダクション：「倫理学」、「生命倫理学」から「看護倫理」へ
- [02] 看護倫理の考え方1：看護専門職と自己の看護観
- [03] 看護倫理の考え方2：専門職の倫理綱領
- [04] 看護倫理の基本概念1：徳の倫理と原則の倫理
- [05] 看護倫理の基本概念2：インフォームドコンセント、看護アドボカシー
- [06] 看護倫理の基本概念3：意思決定支援とACP
- [07] 看護倫理の基本概念4：人権擁護と薬害問題
- [08] 倫理事例の分析方法1：事例検討のルールと分析方法
- [09] 倫理事例の分析方法2：4ステップモデル、4分割表
- [10] 倫理事例の分析検討3：4分割表による分析
- [11] 倫理事例の分析方法4：4ステップモデルによる分析
- [12] 倫理事例の検討1：4ステップモデルによる検討1
- [13] 倫理事例の検討2：4ステップモデルによる検討2
- [14] 倫理事例の検討3：4ステップモデルによる検討の発表
- [15] 倫理事例の検討4：まとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

- 事前学習：授業時に提示された課題を行うこと。(30分)
事後学習：講義資料を基に学習内容の復習を行うこと。(1時間)

【評価方法・評価基準】

授業課題レポート(30%)、中間課題レポート(30%)、学期末課題(40%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートはコメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

厚生労働省「薬害を学ぼう」

【教科書】

特に指定しない。配布資料を用いる。

【参考書】

1. 宮坂道夫(2024). 原則と対話で解決に導く医療倫理, 医学書院
2. 宮坂道夫(2016). 医療倫理学の方法 第3版, 医学書院
3. 宮坂道夫ら(2024). 系統看護学講座 別巻 看護倫理 第3版, 医学書院
4. 小西恵美子編(2021). 看護倫理 改訂第3版, 南江堂

【備考】

特になし

授業科目名		看護の統合と実践臨地実習Ⅰ (医療安全と感染看護学)		担当教員	◎鶴沢 淳子、有家 香、中川 泰弥、 田邊 遥、休波 茂子	科目ナンバリング NM469
必修	開講年次：4年前期		単位：1単位	授業形態：臨地実習45時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅶ．包括的看護実践能力			

【授業概要】

ケアの質と安全を管理するために、看護に必要な医療安全および感染予防についての知識と技術を修得する。質の高い安全な医療を提供するための組織としての取り組みについてリスクマネージャーおよび感染制御看護師の役割を通して理解する。

【到達目標】

1. 医療機関における安全管理の組織的な取り組みについて理解する。
2. 複数患者を受け持つ看護師の安全対策を抽出し、背景を踏まえて分析する。
3. 看護チームの構成と個々の看護師の役割を理解し、安全に業務を遂行する上で必要なコミュニケーションの実際を知る。
4. 医療機関における感染管理の組織的な取り組みについて理解する。
5. 病棟の看護師がとっている感染予防行動について分析し、自らの考えを示す。
6. 安全で質の高い医療の実現に向けて、看護師に求められる知識・技術・態度について討議する。

【履修条件】

「医療安全」を修得していること

【授業計画】

- 1日目 オリエンテーション(実習における注意事項)(病棟の構造、病棟における安全・感染管理)
- 2～3日目 病棟実習(メンバーシップ・リーダーシップについて、看護師の安全行動、感染予防行動について)
- 4日目 医療事故分析
- 5日目 病棟実習(感染予防行動について)、カンファレンス、まとめ

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：2年次医療安全で配布した資料を熟読する。(2時間)

事後学習：1日の実習終了時に、各自体験した内容を指定の用紙に記載し、振り返る。実習を通しての学びを課題レポート1にまとめ提出する。(2時間)

【評価方法・評価基準】

実習目標に対する到達度評価(60%)、課題レポート1(15%)、課題レポート2：医療事故分析レポート(15%)、カンファレンス参加度(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習記録については4年次後期に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習／グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

指定なし

【参考書】

2年次「医療安全」で配布した資料を参考書とする。

【備考】

医療安全(感染管理も含む)に関する技術は医療施設で働いてすぐに求められる。本実習では、多忙な臨床現場であっても常に安全行動を取るために必要な知識・技術・態度について身に付けられるよう取り組むこと。

本実習は臨床経験5年以上を有し、医療安全及び感染対策に携わってきた教員が、現場のリスクマネージャー及び感染管理看護師(リンクナース)と協働して指導に当たる。

授業科目名		看護の統合と実践臨地実習Ⅱ (チーム医療・地域包括ケアシステム)		担当教員	◎松本幸枝、岡本明美、長江弘子、中島洋一、千葉恵子、東森由香、下 睦子、那須真弓、吉野妙子、何 雨竹、高橋玲子、酒井武志、鈴木玲子、松丸直美、松谷典洋、小出加代子、吉田美和、阿部美鈴	科目ナンバリング NM470
必修	開講年次： 4 年前期	単位： 3 単位	授業形態：臨地実習135時間			
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅶ．包括的看護実践能力				

【授業概要】

チーム医療における看護師の役割について理解し、複数患者のケアの実践を通してリーダーシップとメンバーシップ機能について学ぶ。看護チーム間においてコミュニケーションを図るとともに、医療チームのメンバーの一員として多職種との連携と協働について学ぶ。また、多職種連携・協働の体験を通して包括的な支援・サービス提供体制について理解する。

【到達目標】

1. チームの一員として複数の患者を受け持ち、援助計画を立案できる。
2. 立案した援助計画について、患者の状況に応じて一部実施し、評価できる。
3. 看護チームにおけるリーダーシップとメンバーシップについて記述できる。
4. 看護チームにおける看護管理の必要性和看護管理者の役割について記述できる。
5. チームの一員として多職種との連携・協働について記述できる。
6. 地域で生活する人々の包括的な支援・サービス提供体制と看護師の役割について説明できる。

【履修条件】

「チーム医療と看護システム」を履修していること。

【授業計画】

実習領域	実習計画	担当教員
クリティカルケア看護学	1～2日目：オリエンテーション、課題学習 3～6日目：消防署・救命救急センター・カテテル室・手術室実習 7～13日目：メンバーシップ(1日)・リーダーシップ実習(1日) 他職種連携・看護管理実習(1日)・複数患者の看護実習(4日間)	◎松本 幸枝 岡本 明美
がん看護学	14～15日目：学びのまとめ・発表・面接 1～2日目：オリエンテーション、課題学習 3～6日目：化学療法室・放射線治療室・リンパケア外来・ストマー外来 フローラファミリー実習	◎千葉 恵子 何 雨竹
リハビリテーション看護学	7～13日目：複数患者の看護実習(5日間)、看護管理実習(1日)、リーダーシップ研修・多職種連携(1日) 14～15日目：学びのまとめ・発表 1～3日目：オリエンテーション、課題学習 4～5日目：リハビリテーションセンター実習 6～13日目：複数患者の看護実習(5日)、看護管理実習(1日)、リーダーシップ実習(1日)、多職種連携(1日)	◎那須 真弓 長江 弘子
小児看護学	14～15日目：学びのまとめ・発表 1～2日目：オリエンテーション、課題学習 3～6日目：小児科外来、小学校実習 7～13日目：複数患者の看護実習(5日)、看護管理実習(1日)、リーダーシップ実習・多職種連携(1日)	◎吉野 妙子 高橋 玲子
認知症看護学	14～15日目：学びのまとめ・発表 1～2日目：オリエンテーション、課題学習 3～7日目：グループホーム実習、認知症外来、看護管理実習(1日) 8～13日目：複合型サービス：複数患者の看護実習(5日)、リーダーシップ実習・多職種連携(1日)	◎長江 弘子 酒井 武志 阿部 美鈴
在宅療養看護学	14～15日目：学びのまとめ・発表 1～5日目：オリエンテーション、課題学習、課題発表 6日目：実習場所別オリエンテーション、情報収集 7～14日目：複数患者の看護実習(4日)、看護管理実習(1日)、多職種連携(3日) 15日目：最終カンファレンス(学びのまとめ・発表)	◎鈴木 玲子 東森 由香
地域精神看護学	1日目：オリエンテーション、課題学習 2日目：病院オリエンテーション・看護管理実習(1日) 3～7日目：複数患者の看護実習・リーダーシップ(5日) 8日目：学内記録整理 9～13日目：訪問看護・デイケア・外来実習、多職種連携(5日) 14～15日目：学びのまとめ・発表	◎中島 洋一 松丸 直美 松谷 典洋
母性看護学	1日目：オリエンテーション、課題学習・課題提出 2～7日目：病棟オリエンテーション パートナーシップ実習・複数患者実習(5日) 8～9日目：課題学習・課題提出 10～12日目：リーダーシップ実習(1日)、看護管理・多職種連携実習(1日) 外来実習(1日) 13～15日目：学びのまとめ、発表、面談	◎潮田 千寿子 下 睦子 吉田 美和

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：講義「チーム医療と看護システム」と各領域看護学臨地実習の学びを整理しておくこと。(2時間)
事後学習：実習に関わる記録を通して振り返りを行うこと。(2時間)

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価：50%、課題レポート：30%、グループ発表：20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習中のカンファレンスや面接、実習に関わる記録によりフィードバックを行う。
実習に関わる記録については看護の統合と実践臨地実習Ⅱの終了後に学生個人に返却する。

【アクティブラーニング】

体験学習、高機能シミュレーターを使用したシミュレーション、グループディスカッション、ロールプレイ

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

【参考書】

担当教員より提示する。

【備考】

看護師としての5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。

授業科目名	研究ゼミナールⅠ	担当教員	◎有家 香、那須真弓、足立智孝、大野知代、岡本明美、長江弘子、鶴岡章子、中島洋一、本田彰子、榎本輝樹、千葉恵子、松本幸枝、高野海哉、上田修代、東森由香、鶴沢淳子、下 睦子、潮田千寿子、吉野妙子、路 璐、松丸直美、鈴木玲子、中川泰弥、高橋玲子、何 雨竹、小出加代子、酒井武志、吉田美和、松谷典洋、阿部美鈴、田邊 遥	科目ナンバリング NM498
必修	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：演習30時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力		

【授業概要】

研究ゼミナールⅠでは、看護に関連した現象を選び、それに関する文献を広く読み、エビデンスを見出す。「看護研究」において検討したテーマをもとに、それに関する文献を広く読み、研究課題を明確にする。グループで討議することで批判的思考を培う。

【到達目標】

1. グループ・ディスカッションにおいて積極的に討論できる。
2. 学生は教員との定期的な接点を持ち主体的に演習に取り組むことができる。
3. 看護に関連する研究テーマを設定できる。
4. 研究テーマに関連する文献検索・クリティークができる。
5. 文献レビューを行い研究目的・研究の意義を記述することができる。

【履修条件】

「看護研究」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 全体ガイダンスおよび看護研究と倫理 (有家・足立)
- [02] 担当領域オリエンテーション
- [03] 領域別 グループ・ディスカッション研究テーマの決定①
- [04] 領域別 グループ・ディスカッション研究テーマの決定②
- [05] 文献検索・文献レビュー①
- [06] 文献検索・文献レビュー②
- [07] 文献検索・文献レビュー③
- [08] 文献検索・文献レビュー④
- [09] 文献検索・文献レビュー⑤
- [10] 文献検索・文献レビュー⑥
- [11] 領域別 グループ・ディスカッション研究目的・研究の意義①
- [12] 領域別 グループ・ディスカッション研究目的・研究の意義②
- [13] 領域別 グループ・ディスカッション研究目的・研究の意義③
- [14] 領域別 グループ・ディスカッション研究目的・研究の意義④
- [15] 研究ゼミナールⅠのまとめ、研究ゼミナールⅡに向けた全体ガイダンス (有家・千葉)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：自らの研究テーマを明確にし、文献レビュー、研究目的・研究の意義の記述を進める。(2時間)

事後学習：グループメンバーや教員からの助言を吟味し、文献レビュー、研究目的・研究の意義を再考する。(1時間)

【評価方法・評価基準】

グループ・ディスカッション、主体的な演習への取り組み：25%、研究テーマの設定：10%、文献クリティーク：45%、研究目的・研究の意義の記述：20%、

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

文献レビューなど所定の記録様式を記述し、領域内での発表、ディスカッションを行い学びを深める。文献レビューなどは別途評価基準を示し、評価項目に沿って評価し、個人にフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

坂下玲子・宮芝智子・小野博史(2023)：系統別看護学講座別巻 看護研究(第2版)，医学書院。

【参考書】

大木秀一(2013)：文献レビューのきほんー看護研究・看護実践の質を高める，医歯薬出版。

【備考】

看護研究、研究ゼミナールⅡと関連が深い。特に、研究ゼミナールⅡで行う研究計画書作成に向け、研究実施可能な研究計画書を完成できるよう、主体的に学習を進める。

授業科目名	研究ゼミナールⅡ	担当教員	◎千葉恵子、鶴沢淳子、足立智孝、大野知代、岡本明美、長江弘子、鶴岡章子、中島洋一、本田彰子、榎本輝樹、松本幸枝、高野海哉、有家 香、上田修代、東森由香、下 睦子、潮田千寿子、吉野妙子、那須真弓、路 璐、松丸直美、鈴木玲子、中川泰弥、高橋玲子、何 雨竹、小出加代子、酒井武志、吉田美和、松谷典洋、阿部美鈴、田邊 遥	科目ナンバリング NM499
必修	開講年次：4年後期	単位：1単位	授業形態：演習30時間	
関連する教育目標(必須要素)		Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力		

【授業概要】

研究ゼミナールⅡでは、研究ゼミナールⅠから継続して、研究課題にそって必要な情報(文献)をまとめる。研究の背景、目的、データ収集とデータ分析の方法などについて検討し、記述する。グループで討議することで批判的思考を培う。

【到達目標】

1. 研究計画書の作成について積極的にディスカッションできる。
2. 学生は教員との定期的な接点を持ち主体的に研究計画書の作成に取り組むことができる。
3. 研究目的を達成するための研究方法を決定することができる。
4. 研究目的を達成するための研究計画書を作成することができる。
5. 先行研究など他者の著作を正しく引用できる。
6. 研究計画についてわかりやすく発表し、積極的にディカッションできる。

【履修条件】

「研究ゼミナールⅠ」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 領域別オリエンテーション
- [02] 研究計画書作成①
- [03] 研究計画書作成②
- [04] 研究計画書作成③
- [05] 領域別 グループ・ディスカッション①
- [06] 研究計画書作成④
- [07] 研究計画書作成⑤
- [08] 領域別 グループ・ディスカッション②
- [09] 研究計画書作成⑥
- [10] 研究計画書作成⑦
- [11] 領域別 グループ・ディスカッション③
- [12] 発表用パワーポイント作成①
- [13] 発表用パワーポイント作成②
- [14] 研究計画発表会① (全体)
- [15] 研究計画発表会② (全体)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：研究計画書の作成を進める。(2－3時間)

事後学習：グループメンバーや担当教員からの助言を吟味し、研究計画書を再考する。(2－3時間)

【評価方法・評価基準】

研究計画書70%、発表10%、グループ・ディスカッションや発表での討論20%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

研究計画書の作成と発表については、評価基準を別途示し、評価する。評価内容について個人にフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション／プレゼンテーション／対話・議論型授業

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

坂下玲子・宮芝智子・小野博史(2023)：系統別看護学講座別巻 看護研究(第2版)，医学書院。

【参考書】

大木秀一(2013)：文献レビューのきほん－看護研究・看護実践の質を高める，医歯薬出版。

【備考】

看護研究、研究ゼミナールⅠの学びを生かし、学生自ら主体的に取り組むこと。

授業科目名		産業保健活動論		担当教員	澁谷 基子	科目ナンバリング NP401
選択	開講年次：4年前期		単位：1単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

産業保健の目的・意義、産業保健分野における健康課題と労働安全衛生体制を理解し、産業保健師の役割と活動内容を理解する。産業の場で働く人々の健康に関する様々な問題を知り、作業や作業環境、労働環境が健康に及ぼす影響を考える。さらに、今日の労働者を取り巻く社会経済情勢を踏まえ、働く人々の Quality of Life (QOL) 並びに Quality of Working (QWL) の向上を目指した支援活動を体系的に学修する。

【到達目標】

1. 産業保健の基本的な考え方と労働安全衛生にかかわる制度、システムを理解する。
2. 産業保健における健康課題と、その対策・支援について理解する。
3. 産業保健師の役割と活動の実践を理解する。

【履修条件】

3年次後期までに開講されている保健師教育の必修科目を履修していること。

【授業計画】

- [01] 産業保健の定義、目的、対象、産業保健師の役割、わが国の労働衛生と社会背景
- [02] 産業構造の変遷、労働災害・業務上疾病の動向
- [03] 産業保健の制度とシステム
- [04] 労働災害と安全管理
- [05] 産業保健における健康課題と支援
- [06] 多様化する労働者・雇用形態を踏まえた産業保健活動
- [07] 産業保健活動の実践① 産業保健計画のプロセス
- [08] 産業保健活動の実践② 職域の健康課題と保健指導、地域保健等との連携

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む。教科書の該当箇所を事前に学習しておく。日頃から新聞やマスメディアの情報等に関心を持ち、働く人々の健康課題について考える(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を、教科書および授業時に配布した資料等で復習しておく(2時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験70%、課題レポート30%

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

グループディスカッション

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022). 公衆衛生看護学.jp 第5版(データ更新版)、インターメディカル.

【参考書】

中谷芳美(2024). 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(第5版)、医学書院.

河野啓子(2023). 産業看護学 第2版 2023年版、日本看護協会出版会.

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ		担当教員	◎鶴岡章子、上田修代、山口夕佳、 鶴岡昌代、山口恵子、高橋由希子、 岡田まゆみ、田中和代	科目ナンバリング NP402
選択	開講年次：4年前期		単位：2単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

対象となる人々のライフステージや健康特性に応じた公衆衛生看護活動の基本的な考え方と展開方法を理解する。さらに、公衆衛生看護活動の根拠となる法律や制度をふまえ、地域における保健師の活動の場と役割、具体的な活動内容と活動の在り方、住民の健康生活を支える地域ケアシステムの構築について学修する。

【到達目標】

1. 対象のライフステージや特性に応じた公衆衛生看護活動の展開方法を理解できる。
2. 公衆衛生看護活動の法律・制度の関連を理解できる。
3. 人々の暮らしと健康を支える公衆衛生看護活動や保健師の役割について考察できる。

【履修条件】

3年次後期までに開講されている保健師教育の必修科目を履修していること。

【授業計画】

[01] 母子保健活動①	母子保健の理念と母子保健施策、健やか親子21と子ども・子育て新制度	(鶴岡)
[02] 母子保健活動②	母子保健活動の実際	(鶴岡)
[03] 母子保健活動③	健康上のリスクをもつ母子への保健指導	(山口夕佳)
[04] 成人保健活動①	成人保健の理念、成人保健施策(健康日本21、健康増進層等)	(鶴岡)
[05] 成人保健活動②	生活習慣病と保健指導、特定健康診査・特定保健指導	(鶴岡昌代)
[06] 高齢者保健活動①	高齢者保健活動の理念、高齢者保健医療福祉の変遷、介護保険制度	(鶴岡)
[07] 高齢者保健活動②	健康な高齢者と保健活動、介護予防	(山口恵子)
[08] 高齢者保健活動③	要支援・要介護高齢者と介護者への支援(虐待、認知症、老老介護)	(高橋)
[09] 感染症保健活動①	感染症保健活動の理念・変遷、感染症法、感染症と保健師活動	(上田)
[10] 感染症保健活動②	主な感染症と保健師活動、感染症に係るヘルスケアシステム	(上田)
[11] 精神保健活動①	精神保健の理念と変遷、心の健康づくり対策と保健師活動	(鶴岡)
[12] 精神保健活動②	主な健康課題と保健師活動(うつ病、自殺、嗜癖・依存症、引きこもり)	(岡田)
[13] 障害者保健活動	障害者保健の理念と障害者保健施策、障害者の自立支援と保健師活動	(田中)
[14] 難病保健活動	難病保健活動の理念と難病保健施策、地域の難病療養者と保健師活動	(鶴岡)
[15] 歯科口腔保健活動	生涯を通じた歯科口腔保健対策、対象別歯科口腔保健活動	(鶴岡)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目、および各看護学領域で学修した関連箇所を復習して授業に臨む。教科書の該当箇所を事前に学習しておく(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を、教科書および授業時に配布した資料等で復習しておく(2時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学. jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。

【参考書】

中谷芳美他(2024)：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(第5版)，医学書院。

厚生労働統計協会(2024)：国民衛生の動向2024/2025，厚生労働統計協会。

厚生労働統計協会(2024)：国民の福祉と介護の動向2024/2025，厚生労働統計協会。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ		担当教員	◎鶴岡 章子、上田 修代、 山口 夕佳	科目ナンバリング NP403
選択	開講年次：4年前期		単位：2単位	授業形態：講義30時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力、Ⅶ．包括的看護実践能力			

【授業概要】

個人・家族・集団・組織だけでなく地域全体を対象とした保健師活動の必要性和活動方法を理解する。実際の活動の場で、活用可能な理論とその展開方法の一つである地域看護診断を中心に学修を深める。地域看護診断では、主にコミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて地域で生活する人々や生活の場の状況を把握し、地域の地理的・社会的・文化的特性を踏まえて個人や家族を含む集団および地域を単位としたアセスメント・分析から地域の健康課題を明確化し、その解決方法を検討して導き出すまでの一連の過程を学修する。

【到達目標】

1. 地域全体を対象とした公衆衛生看護活動の重要性について理解できる。
2. 地域看護診断に活用される理論を理解し、地域看護診断における情報収集・分析および保健活動の計画・実践・評価の一連のPDCAサイクルのプロセスを理解できる。
3. 地域看護診断の一方法であるコミュニティ・アズ・パートナーモデルの展開方法を理解できる。
4. 地域看護診断に基づいた保健事業計画の立案と評価を理解できる。

【履修条件】

3年次後期までに開講されている保健師教育の必修科目を履修していること。

【授業計画】

[01] 地域全体を対象とした看護とは	(鶴岡)
[02] 保健師が行う地域活動と地域看護診断	(鶴岡)
[03] 健康課題と地域保健福祉計画①ー保健活動計画の策定プロセス	(山口)
[04] 健康課題と地域保健福祉計画②ー保健活動計画の実践と評価	(山口)
[05] 地域看護診断に関連する理論・モデル	(鶴岡)
[06] コミュニティ・アズ・パートナーモデルの概念と技法	(鶴岡)
[07] コミュニティ・アズ・パートナーモデルの展開過程	(鶴岡)
[08] 地域看護診断の展開① 既存資料からの情報収集	(鶴岡・上田)
[09] 地域看護診断の展開② アセスメント	(鶴岡・上田)
[10] 地域看護診断の展開③ 地区視診	(鶴岡・上田)
[11] 地域看護診断の展開④ 地区視診と収集した情報の統合	(鶴岡・上田)
[12] 地域看護診断の展開⑤ 地域の健康課題の明確化	(鶴岡・上田)
[13] 地域看護診断と保健事業計画の立案① 健康課題の分析と保健事業計画	(鶴岡・上田)
[14] 地域看護診断と保健事業計画の立案② 保健事業計画の評価	(鶴岡・上田)
[15] 地域看護診断と保健事業計画の発表	(鶴岡・上田)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学、公衆衛生学、保健統計学、保健医療福祉行政論などの保健師必修科目について復習する。教科書の該当箇所を事前に学習しておく(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を、教科書および授業時に配布した資料等で復習しておく(2時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(50%)、課題レポート(50%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。
厚生労働統計協会(2024)：国民衛生の動向2024/2025，厚生労働統計協会。

【参考書】

平野かよ子編(2015)：最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論(第4版)，メヂカルフレンド社。
金川克子他編(2011)：地域看護診断(第2版)，東京大学出版会。
エリザベス T. アンダーソン/ジュディス・マクファーレン編，金川克子他監訳(2007)：コミュニティアズパートナー(第2版)，医学書院。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目
保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護活動展開論演習		担当教員	◎上田 修代、鶴岡 章子		科目ナンバリング NP404
選択	開講年次：４年前期		単位：２単位	授業形態：演習60時間			
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ．チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力、Ⅶ．包括的看護実践能力				

【授業概要】

公衆衛生看護学実習Ⅰを行う市町の既存資料をもとに地域アセスメントを実施し、健康課題の明確化と構造化、対策の検討、実施、評価までの地域看護診断の過程を学修する。実習市町の健康課題を明らかにした後は、保健対策としての健康教育の企画・準備・実施・評価を行い、地域におけるハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの連動の意義や方法を理解する。

【到達目標】

1. 実習市町の既存資料をもとに、地域アセスメント、健康課題の明確化・構造化、対策の検討、実施、活動の評価までの一連の過程を理解できる。
2. 既存資料から実習市町のヘルスニーズをアセスメントし、健康課題の抽出・構造化、優先順位の決定を行い、地域における保健対策を検討することができる。
3. 地域の健康課題の解決に向けた健康教育の企画、準備、運営、評価の一連の過程を実践することができる。

【履修条件】

３年後期までに開講されている保健師教育の必須科目の単位を修得していること。

【授業計画】

[01] 演習ガイダンス、地域看護診断の進め方	(上田・鶴岡)
[02] 地域看護診断の実際① 既存資料からの情報収集(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[03] 地域看護診断の実際② 既存資料からの情報収集(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[04] 地域看護診断の実際③ 既存資料からの情報収集(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[05] 地域看護診断の実際④ 地区踏査の計画作成(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[06] 地域看護診断の実際⑤ 地区踏査の実施[1](グループワーク)	(鶴岡・上田)
[07] 地域看護診断の実際⑥ 地区踏査の実施[2](グループワーク)	(鶴岡・上田)
[08] 地域看護診断の実際⑦ 地区踏査の実施[3](グループワーク)	(鶴岡・上田)
[09] 地域看護診断の実際⑧ 情報の整理・統合、アセスメント(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[10] 地域看護診断の実際⑨ 健康課題の抽出(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[11] 地域看護診断の実際⑩ 活動目標と活動内容の検討(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[12] 地域看護診断の実際⑪ 活動内容、評価のポイント(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[13] 地域看護診断の実際⑫ 発表準備(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[14] 地域看護診断の発表(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[15] 地域看護診断の修正(グループワーク)	(鶴岡・上田)
[16] 健康教育とヘルスプロモーション、健康教育テーマの設定に向けて	(上田・鶴岡)
[17] 健康教育の実際① 健康教育に係る資料収集(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[18] 健康教育の実際② 健康教育企画書の作成(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[19] 健康教育の実際③ 健康教育企画書の作成(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[20] 健康教育の実際④ 指導案の作成(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[21] 健康教育の実際⑤ 指導案の作成・教育媒体の検討(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[22] 健康教育の実際⑥ 指導案の作成、シナリオ作成(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[23] 健康教育の実際⑦ 教育媒体の作成(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[24] 健康教育の実際⑧ 練習(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[25] 健康教育の実際⑨ 練習(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[26] 健康教育の発表①(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[27] 健康教育の発表②(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[28] 健康教育の評価(グループワーク)	(上田・鶴岡)
[29] 企画書、指導案の修正と提出(グループワーク)、レポート作成	(上田・鶴岡)
[30] 地域看護活動とは、まとめ	(上田)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む。演習計画にそって予め資料・媒体等の準備を行う(2時間)。

事後学習：各回の演習内容を復習し、グループで計画的に進められるよう情報共有に心がける(1時間)。

【評価方法・評価基準】

グループ討議および発表(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

グループ発表及びグループ課題のフィードバックは授業の中で行う。

個人レポートのフィードバックを希望する学生には、個別に説明する時間を設ける。

【アクティブラーニング】

グループワーク

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版 データ更新版)，インターメディカル。

井伊久美子他(2023)：新版保健師業務要覧(第4版) 2025年版，日本看護協会出版会。

厚生労働統計協会(2024)：国民衛生の動向 2024/2025，厚生労働統計協会。

【参考書】

平野かよ子編(2015)：最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論(第4版)，メヂカルフレンド社。

中村裕美子他(2023)：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版)，医学書院。

【備考】

本科目は、「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」、「公衆衛生看護活動展開論Ⅱ」を総括する科目であり、「公衆衛生看護学実習Ⅰ」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」と直結する科目である。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護管理論		担当教員	◎鶴岡章子、川名晴美、鶴岡昌代、高山里美、野澤憲子	科目ナンバリング NP405
選択	開講年次：4年前期		単位：1単位	授業形態：講義15時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

地域で暮らす様々な人々の生活と健康を守り、地域全体が暮らしやすい地域になるための公衆衛生看護活動に関する管理の理念と方法を学修する。特に、地域ケアの質の確保のために保健師が行う地域づくり活動やソーシャルキャピタルの醸成、施策化、予算管理について理解する。

【到達目標】

1. 公衆衛生看護管理の目的と機能、方法、特徴を理解できる。
2. 健康維持増進、地域ケアの質の確保のための地域づくりや施策化、予算管理について理解できる。
3. 災害や感染症などの健康危機管理における体制整備、発生時・回復期の対策と保健師の役割を理解できる。

【履修条件】

3年次後期までに開講されている保健師教育課程の科目を履修していること。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| [01] 公衆衛生看護管理の目的、機能、方法、特徴 | (鶴岡) |
| [02] 公衆衛生看護管理における人材育成と情報管理 | (鶴岡) |
| [03] 保健医療福祉における施策化とサービスの質評価・調整 | (鶴岡) |
| [04] 地域ケア体制づくりとソーシャルキャピタル醸成における保健師の役割 | (川名) |
| [05] 公衆衛生看護活動における事業と予算管理 | (鶴岡昌代) |
| [06] 健康危機管理の定義と展開方法 | (鶴岡) |
| [07] わが国の健康危機管理体制における保健師の役割①ー災害時 | (高山) |
| [08] わが国の健康危機管理体制における保健師の役割②ー感染症発症時 | (野澤) |

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む。教科書の該当箇所を事前に学習しておく(2時間)。

事後学習：各回の授業内容を、教科書および授業時に配布した資料等で復習する(1時間)。

【評価方法・評価基準】

定期試験(70%)、課題レポート(30%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは評価しフィードバックする。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。

【参考書】

鳩野洋子他(2024)：公衆衛生看護学.jp(第6版)，インターメディカル。

岸恵美子他(2022)：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，メヂカルフレンド社。

井伊久美子他(2023)：新版保健師業務要覧(第4版)2023年版，日本看護協会出版会。

標美奈子他(2022)：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(第6版)，医学書院。

厚生労働統計協会(2024)：国民衛生の動向2024/2025，厚生労働統計協会。

【備考】

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護学実習Ⅰ		担当教員	◎鶴岡 章子、上田 修代、 高橋 智子	科目ナンバリング NP406
選択	開講年次：４年前期		単位：３単位	授業形態：臨地実習135時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ．根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ．ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

南房総地域の市町を実習フィールドとする。主に市町保健センターを拠点にして、既存資料を用いて実施した地域アセスメント(公衆衛生看護活動展開論演習)をもとに市町の保健医療福祉行政の機能および地域の健康課題に対する対策について見学や参加を通して理解を深める。併せて、市や町の行政機関において地域住民の健康支援を行う保健師の役割と機能を理解するとともに、専門性に基づいた保健師活動の基本的実践能力を養う。

【到達目標】

1. 地域の特性や住民の生活実態を理解し、健康課題を把握できる。
2. 市町村が実施しているライフステージごとの保健事業と、事業の根拠となる法令・制度、各事業における保健師の役割を理解できる。
3. 対象および家族のセルフケア能力向上を目指し、家庭訪問における保健指導の一部を実践できる。
4. 市町村における保健師の配置とそれぞれの部署、行政組織で果たす役割、および他職種・機関との連携・協働について、事例をとらえて理解できる。
5. 保健師としての基本的態度を養う。

【履修条件】

３年後期までに開講されている保健師教育の必修科目を履修していること。

【授業計画】

実習１日目	オリエンテーション
実習２～４日目	施設実習
実習５～６日目	学内実習
実習７～１０日目	施設実習
実習１１日目	学内実習
実習１２～１４日目	施設実習
実習１５日目	実習のまとめ(学内)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目での学びを復習して実習に臨む。実習計画に沿って計画的に資料・媒体等の準備を行う(２時間)。

事後学習：１日の実習終了後に各自の学びを省察し記述する。学修内容を整理し課題レポートを作成する(２時間)。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度(70%)、課題レポート(20%)、カンファレンス・プレゼンテーション(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、学生個々に返却する。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。
公衆衛生看護学に関わる科目で使用した教科書

【参考書】

公衆衛生看護学に関わる科目で使用した参考書、資料

【備考】

各実習機関・施設においては、地域住民の生活に密着した活動を展開している看護専門職による、具体的かつ直接的な指導を受けながら学びを深めることができる。

保健師として、もしくは看護師として５年以上の臨床経験をもつ教員が指導する。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能

授業科目名		公衆衛生看護学実習Ⅱ		担当教員	◎鶴岡 章子、上田 修代、 高橋 智子	科目ナンバリング NP407
選択	開講年次：4年後期		単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		
関連する教育目標(必須要素)			Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、 Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力			

【授業概要】

千葉県保健所および鴨川市ふれあいセンターを実習フィールドとする。前半の1週間は千葉県保健所にて実習を行い、県保健所の組織と成り立ち、保健所の機能と役割、保健所保健師の役割と責任、活動内容の実際(公衆衛生看護管理を含む)について、見学や参加を通して理解を深める。後半の1週間は鴨川市ふれあいセンターにおいて、地域住民と協働し、地域の健康課題の予防・解決にむけた健康教育の企画・準備・実施・評価の一連の過程を実施する。この過程を通して、保健師が行う地区活動の基本技術を修得し、地区活動における保健師の専門性について考察する力を養う。

【到達目標】

1. 保健所の機能と役割について理解できる。
2. 保健所における保健師の役割について理解できる。
3. 保健所保健師が担う保健・医療・福祉の連携について理解できる。
4. 地域住民や関係機関・他職種と連携・協働し、地域ニーズに即した健康教育を実施できる。
5. 保健師としての基本的態度を養う。

【履修条件】

3年後期までに開講されている保健師教育の必修科目を履修し、かつ4年前期の保健師教育に関わる必修科目を履修していること。

【授業計画】

実習1日目	オリエンテーション
実習2日目	学内実習
実習3～4日目	施設実習(保健所)
実習5日目	実習のまとめ(学内)
実習6日目	学内実習
実習7～9日目	施設実習(市町保健センター)
実習10日目	実習のまとめ(学内)

【授業のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目、公衆衛生看護学実習Ⅰでの学びを復習して実習に臨む。実習計画に沿って計画的に資料・媒体等の準備を行う(2時間)。

事後学習：1日の実習終了後に各自の学びを省察し記述する。学修内容を整理し課題レポートを作成する(2時間)。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度(70%)、課題レポート(20%)、カンファレンス・プレゼンテーション(10%)

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、学生個々に返却する。

【アクティブラーニング】

【ICT・オープン教育リソース】

【教科書】

荒賀直子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版データ更新版)，インターメディカル。
公衆衛生看護学に関わる科目で使用した教科書

【参考書】

公衆衛生看護学に関わる科目で使用した参考書、資料

【備考】

各実習機関・施設においては、地域住民の生活に密着した活動を展開している看護専門職による、具体的かつ直接的な指導を受けながら学びを深めることができる。

保健師として、もしくは看護師として5年以上の臨床経験をもつ教員が指導する。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能